

岩手県内遺跡発掘調査報告書  
(平成21年度)

平成23年3月

岩手県教育委員会



# 序文

埋蔵文化財は、私たちの祖先より培われてきた貴重な歴史的財産であり、国民共有の財産であります。先人の残したかけがえのない財産である埋蔵文化財を、文化財保護法の理念に基づき活用し、後世に伝えていくことは現代に生きる私たちの責務でもあります。

しかしながら、埋蔵文化財は近年の大規模な開発事業等により現状保存をすることが難しくなっております。このような状況のなかで、埋蔵文化財の保護と各種開発事業との円滑な調整を図るためにには、遺跡の性格や所在地、範囲を正確に示す必要があることはいうまでもありません。そして、一つ一つの遺跡に対する地道な取り組みが、その後の埋蔵文化財の保存と活用につながると考えております。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年度より遺跡の分布調査を実施しており、現在、県内で確認されている遺跡数は約1万2千近くにも上ります。これらの遺跡を広く周知する必要があるとともに、開発事業との調整の中で行った発掘調査の記録や、遺跡の範囲及び内容確認を目的とした試掘調査の記録を明らかにする必要があると考え、平成元年度からこれらの調査の報告書を刊行しています。

本報告書は、平成21年に実施した県内遺跡の発掘調査、試掘調査及び分布調査の成果をまとめたものです。本報告書が県内遺跡の内容把握に活用され、埋蔵文化財の保護に寄与するがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり、御指導と御協力をいただきました多くの方々に対し心より感謝申し上げます。

平成23年3月

岩手県教育委員会

教育長 法 貴 敬

# 目次

## 例言

### I 発掘調査

1 一般国道4号渋民バイパス事業（芋田VI遺跡）	3
2 一般国道4号石鳥谷バイパス事業（白幡林遺跡）	5
3 一般国道4号渋民バイパス事業（芋田V遺跡）	7
4 野田村下水道事業・村道城内二又線改良舗装事業（中平遺跡・大平野遺跡）	8
5 東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業（日影遺跡）	17
6 一般国道45号上荒川登攀車線改良事業（荒川和山遺跡）	18
7 経営体育成基盤整備事業白山地区（八幡遺跡）	24
8 中山間地域総合整備事業中居地区（下中居II遺跡）	26
9 花巻空港整備事業（上ノ山遺跡）	31
10 花巻空港整備事業（石持I遺跡）	32
11 経営体育成基盤整備事業古城2期地区（古城方八丁遺跡）	33
12 経営体育成基盤整備事業江刺西部地区（林遺跡）	36
13 経営体育成基盤整備事業江刺西部地区（阿弥陀堂遺跡）	39
14 経営体育成基盤整備事業江刺西部地区（舟渡I遺跡・野沢II遺跡）	42

### II 試掘調査

1 経営体育成基盤整備事業南下幅地区（石田I・II遺跡）	49
2 北上川中流域治水対策事業（立花館跡）	50
3 東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業（落合2区I遺跡）	51
4 村道城内二又線改良舗装事業（中平遺跡）	52
5 盛岡地方家庭簡易裁判所廈改築工事（盛岡遠曲輪跡）	54
6 北上川中流域治水対策（立花南遺跡）	55
7 一般国道渋民バイパス改築工事（芋田沢田VI遺跡）	56
8 経営体育成基盤整備事業古城2期地区（八反町遺跡）	57
9 経営体育成基盤整備事業古城2期地区（高殿II遺跡）	58
10 経営体育成基盤整備事業古城2期地区（中畠城跡）	59
11 経営体育成基盤整備事業徳田第2地区（風張遺跡）	61
12 経営体育成基盤整備事業下矢次地区（高畠遺跡）	62

13	経営体育成基盤整備事業夏川3期地区・基盤農道整備事業夏川2期地区（石崎貝塚）	63
14	経営体育成基盤整備事業南下幅北部地区（沢田遺跡）	64
15	一般国道106号梁川道路起点部改良工事（小屋野遺跡）	65
16	一般国道釜石住田線金ノ倉～山脈地地区道路改良工事（山脈地遺跡）	66
17	経営体育成基盤整備事業白山地区（田高Ⅱ遺跡）	67
18	経営体育成基盤整備事業（彼岸田遺跡）	68
19	中山間地域総合整備事業大清水地区（山内駒木2遺跡）	69
20	中山間地域総合整備事業広田地区（赤坂角地遺跡）	70
21	経営体育成基盤整備事業江釣子第2地区（下糠塚古館遺跡）	71
22	経営体育成基盤整備事業都鳥地区（国分遺跡）	72
23	北上川中流域治水対策事業立花地区（館IV遺跡）	74
24	一般国道45号尾肝要道路（尾肝要I遺塚）	75
25	一般国道45号尾肝要道路（姫松I跡）	76
26	一般国道45号尾肝要道路（姫松II跡）	77
	試掘調査出土遺物	78
	発掘調査・試掘調査・分布調査一覧表	82
III	写真図版	90

# 例 言

- 1 本書は、岩手県教育委員会が平成21年度に実施した県内遺跡発掘調査事業に係る調査結果の報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。
- 2 本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。
- 3 遺跡位置図は国土地理院発行の1／25000地形図を、原寸大を原則として、改変したものである。遺構及びトレンチ位置図は、各事業者より入手した地形図を原図として作成したものである。なお、遺物実測図については、図中に縮尺を示してある。遺物写真については縮尺不同である。
- 4 遺物の実測図に付された番号と遺物写真番号は同一である。なお、破碎した琥珀原石など実測図の掲載がない遺物でも写真に示したものもある。
- 5 試掘調査に係る遺跡の推定範囲をアミ掛けで示し、試掘トレンチは実践で示している。
- 6 本事業の調査、整理、報告書編集等は岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が担当した。  
平成21年度 竹藤邦雄 吉田 光 千葉正彦 戸根貴之  
平成22年度 竹藤邦雄 菅 常久 千葉正彦 戸根貴之
- 7 本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会事務局生涯学習文化課が保管している。
- 8 本事業にあたり国土交通省及び農林水産省、県の各機関・事業所から協力を得た。なお、県関係の公所名については平成21年度当時の名称を用いている。

# I 発掘調査



## 1 一般国道4号沿線バイパス事業

芋田VI遺跡 (KE47-2250)

所 在 地：盛岡市玉山区芋田字芋田地内

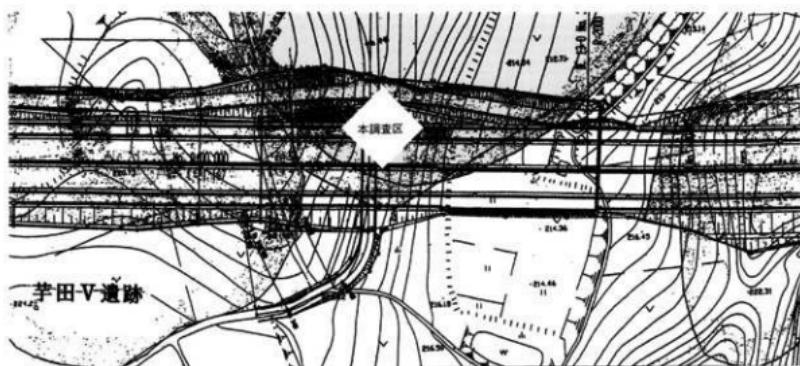
事 業 者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所  
調査期日：平成21年6月16日(火)

本遺跡は盛岡市役所玉山総合事務所の北北東方向約3.3kmに位置し、北上高地西縁前面の開析された標高約200mの北上川左岸の段丘面に立地している。現状は草地である。本調査は平成14年11月に実施した試掘調査で土坑状の遺構が検出されていたことから、今回事業者の依頼を受け約50mについて発掘調査を行ったものである。

基本土層は2層に区分される。草地造成時に全体的に擾乱を受けていることが想定され、Ⅱ層地山上に薄いⅠ層表土が堆積している。調査範囲はNo395センター杭よりやや西寄り部分で、試掘調査で検出された土坑の位置を中心に約10m四方の部分である。この範囲内で試掘調査時のトレンチ跡から方形状の土坑を検出し、さらにその周囲から南東側に開いた馬蹄形状の周溝を検出した。周溝内径部分は4.5m×3.8m、溝跡は幅40～60cm、深さ約20cmで、暗褐色土と褐色土の混合土で埋められている。遺物は出土しない。方形状土坑は約1m×2mで、深さは30cmである。北西方向の短辺に土坑底面より約10cm高い張り出し部分を有している。底面は固く織り、径5cmの用途不明の小穴が確認されている。埋土は暗褐色土黄橙色土との混合土である。遺物は出土していない。土坑の長軸は北西～南東方向で、周溝の南東部分は開口している。周溝及び土坑部分は人為的に埋め戻されたものと推定される。遺物が出土しておらず詳細の時期比定はできないが、周溝及び方形状の土坑の在り方から、これらは岩手県内で見られる終末期古墳のひとつと考えられる。墳丘部分はすでに削平を受けたものと思われる。これの古墳は通常、群を形成して存在することから、当古墳の周囲についても遺構の検出を行ったが特に遺構は検出されなかった。

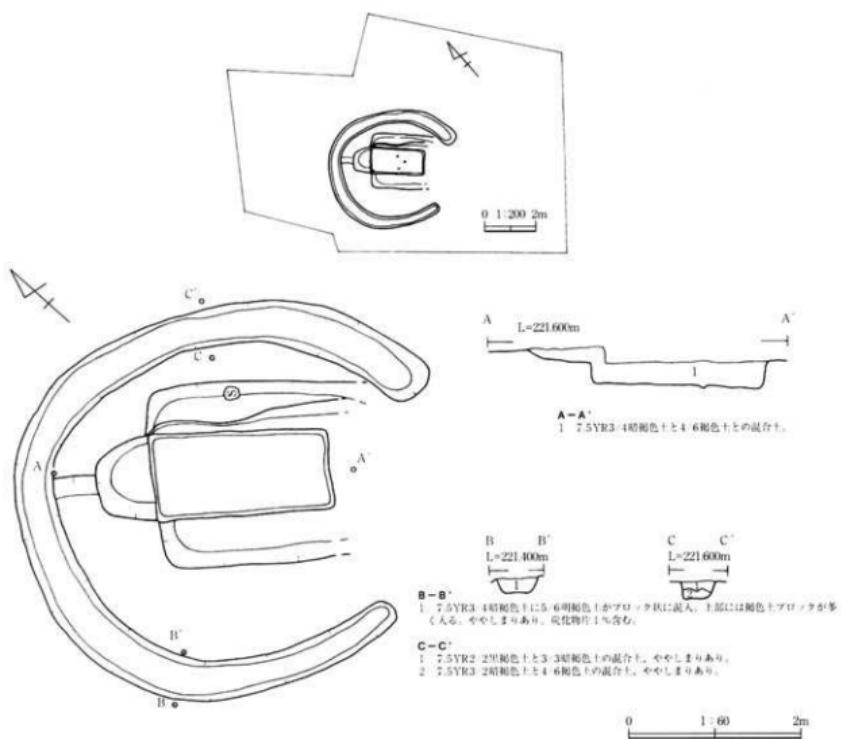


第1図 芋田沢田VI遺跡位置図



第2図 芋田VI遺跡調査区位置図

北上川上流域においては、当玉山地区では永井古墳群、岩手町では谷助平古墳群・浮島古墳群などがしられている。いずれも北上川西岸側で見つかっている群集墳である。当遺跡では単独で存在していること、また、馬背状の丘陵鞍部に構築されていることなど、既往の古墳群の在り方とは立地等において様相を異にしていることは特筆される。



第3図 芦田VI遺跡検出遺構

## 2 一般国道4号石鳥谷バイパス事業

白幡林遺跡 (ME96-0279)

所 在 地：花巻市石鳥谷町中寺林地内

事 業 者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成21年6月18日(木)～19(金)

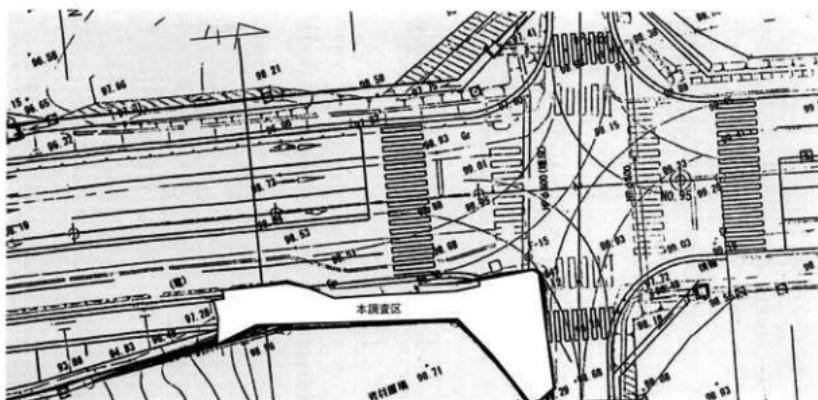
本遺跡は花巻市役所の北北東方向約10kmに位置している。調査区域は葛丸川左岸の標高約99mの段丘面上にあり、現況は資材置き場跡地である。今回の本調査は平成21年4月に当課が実施した試掘調査で遺構等が確認されたため、対象となる約173mについて調査を行ったものである。土坑4基と柱穴状土坑4基を検出した。

基本土層は5層に区分される。Ⅰ層は現表土と盛土と見られる層である。Ⅲ層は旧表土で、縄文土器片や石器が出土している。Ⅱ層はⅢ層の擾乱土と見られ縄文土器片を含んでいる。平坦部中央付近で開口部の規模約2m不整楕円形状の遺構SX1を検出した。埋土の状況からか風割木痕とみられるが、詳細は不明である。当遺構の埋土2層中から縄文土器片が多く出土している。斜面肩部で検出された4号柱穴(p4)の埋土は暗褐色土と浅黄色土の混合土で焼土粒や炭化物が混入している。埋土から土器の小破片や石器剥片が出土している。北側部分で押しつぶされた状態で土器片の集積箇所が2箇所見つかっている。掘り込み等は特に確認されなかった。

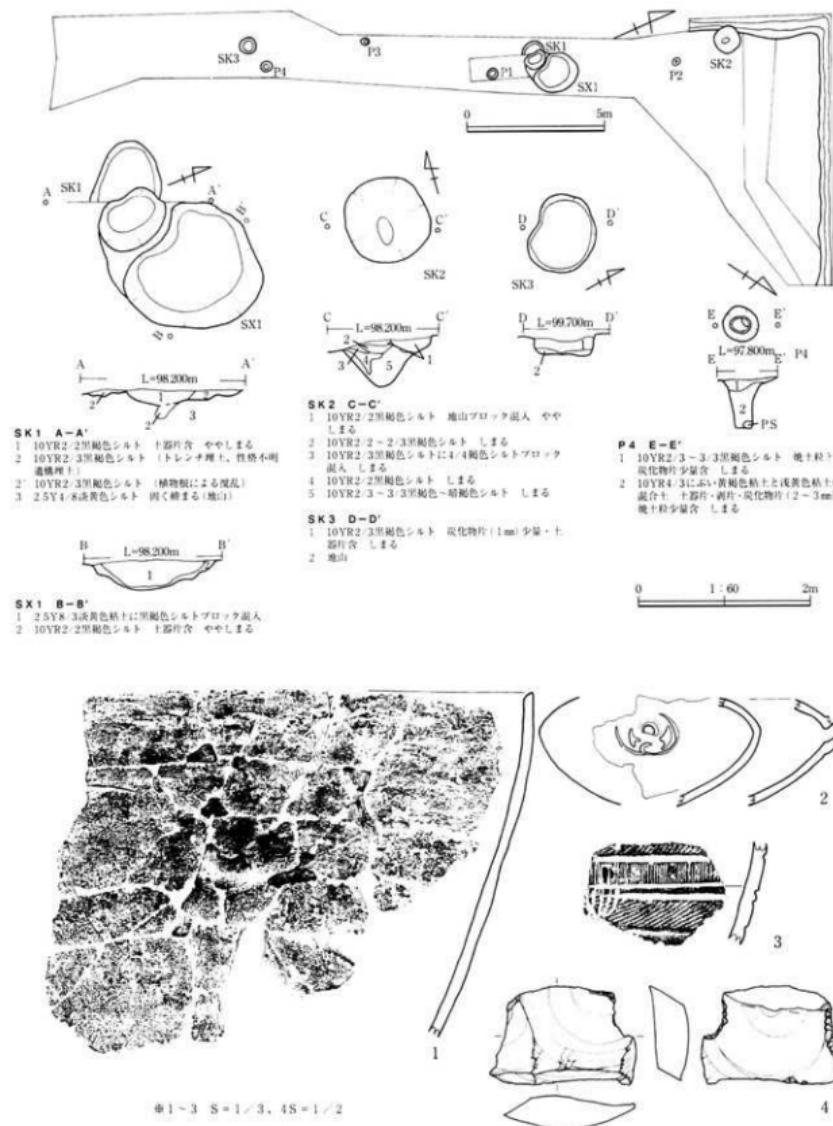
調査結果から今回の調査区は遺跡の縁辺部と考えられ、地形などから北東方向に遺跡の主体部が広がっていると推定される。縄文のみの施文の土器が多い中で粘土瘤の貼付のある縄文時代後期後半の土器も出土している。主体は縄文時代前期末～中期中葉の時期である。



第4図 白幡林遺跡位置図



第5図 白幡林遺跡調査区位置図



第6図 白樺林遺跡検出構造・出土遺物

### 3 一般国道4号沿民バイパス事業

芋田V遺跡(KE47-2272)

所 在 地：盛岡市玉山区芋田字芋田地内

事 業 者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

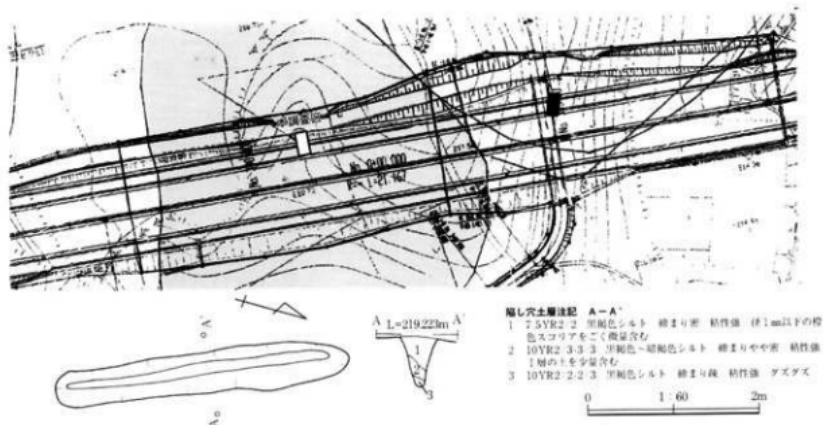
調査期日：平成21年6月16日（火）

今回の調査地点はIGRいわて銀河鉄道好摩駅の南東約1kmに位置し、姫神山から延びる小起伏山地の縁辺部、北上川左岸の標高220m前後の西向き斜面上に立地する。今回の発掘調査は一般国道4号線沿民バイパス建設事業に際し、平成14年11月に当課が実施した試掘調査で遺構が確認されていたことから、対象区50mについて本調査を実施したものである。現状は原野である。今回の調査地点は西向き斜面上に形成された尾根の部分に該当する。縄文時代の陥し穴1基を検出した。

基本土層は4層に区分される。Ⅰ層は表土とみられる層である。Ⅱ層は旧表土、Ⅲ層は漸移層である。陥し穴が1基確認された。規模は長軸360cm×短軸48cm、深さ60cmを測り、形状は平面溝状、断面U字状を呈する。等高線と直交して構築されている。深度が浅いことから、かなり削平を受けていると思われる。埋土は3層に区分され、自然堆積の様相を呈する。遺構の埋土及び調査区からは遺物は出土していない。陥し穴の形状やこれまでの研究結果などから、本遺跡は縄文時代の狩場跡と判断される。なお、陥し穴は通常群をなして複数で設置される事例が多く、単独で存在することは考え難く事業地外にも同種の遺構が存在するものと考えられる。



第7図 芋田V遺跡位置図



第8図 芋田V遺跡調査区位置図・検出遺構

#### 4 野田村下水道事業・村道域内二又線改良舗装事業

中平遺跡 (JG60-0258)

大平野遺跡 (JG60-0306: 旧中平遺跡隣接地)

所在地: 九戸郡野田村大字野田中平地区

事業者: 野田村

調査日: 中平遺跡 平成21年10月13日~23日

大平野遺跡 平成21年12月7日~10日

今回の発掘調査は野田村の依頼を受けて実施したものである。中平遺跡については、野田村下水道事業に伴う発掘調査で約390m<sup>2</sup>を対象としたものである。大平野遺跡については、当初中平遺跡隣接地として試掘調査を実施し、埋蔵文化財が確認されることからその後新規遺跡、大平野遺跡として周知されたものであり、今回村道域内二又線舗装改良事業に伴い、480m<sup>2</sup>を対象として発掘調査を行ったものである。なお、中平遺跡は、中平地区一帯に広範囲に分布する古代を中心とした集落であることは古くから知られていた。この中平遺跡の一部である、現野田村立野田中学校体育館の西側に所在する村有地が「野田堅穴群」として県指定史跡となっている部分である。

#### <中平遺跡の調査>

本遺跡は野田村役場の南西約1.8kmに位置している。調査区域は北上高地東端から半島状に延びる標高25m~60mの台地上の緩斜面にあり、北側を平清水川、南側を泉沢川によって限られている。現況は宅地及び畠地である。今回の発掘調査は、7月に実施した村下水道事業に伴う試掘調査で埋蔵文化財が確認されたことを受け実施したものである。調査区の幅は約1.0mと非常に狭小であり、遺構の精査観察は難渋であった。調査の結果、古代の堅穴住居跡13棟、土坑4基、溝跡6条、柱穴状土坑4口を検出した。調査範囲が狭小のため全容は不明である、堅穴住居内部から鉄滓・羽口・炉体焼土が出土している住居跡が複数検出されており、これらについては工房跡の可能性が考えられる。

#### 堅穴住居跡 (SI)

遺構名	平面形	規模 (m)	検出分	深さ (m)	備考
SI1	方形	4.0×0.35以上		0.56	壁溝
SI2	方形	3.4×0.5以上		0.24	
SI3	方形	3.6×0.6以上		0.40	
SI4	方形	2.5×0.4以上		0.84	煙道 (北東方向)
SI5	方形	3.5×0.7以上		0.28	煙道 (北東方向) 焼土 貝殻廃棄
SI6	方形	4.4×0.8以上		0.41	煙道 (北東) 羽口 琥珀 鉄滓 貝殻
SI7	方形	3.85×0.65以上		0.40	鐵滓 焼土
SI8	方形	4.5×0.5以上		0.48	壁溝 貝殻
SI9	方形	5.6×0.7以上		0.50	燒土 煙道 (北東) 鉄滓
SI10	方形	2.7×0.7以上		0.10	煙道 (南西)
SI11	方形	6.3×0.8以上		0.22	煙道 (北東)
SI12	方形	2.6×1.4以上		0.22	
SI13	方形	4.0×0.4以上		0.45	



第9図 中平・大平野遺跡位置図

**土坑 (SK)**

遺構名	平面形	規模 (m)	深さ (m)	備考
SK 2	不整円形	1.6	0.3	土師器 鉄滓
SK 3	不整円形	1.1	0.67	
SK 4	不整椭円形	0.6×0.45以上	0.3	

**溝跡 (SD)**

遺構名	方向	断面形	幅 (m)	深さ (m)	備考
SD1	南北	逆台形状	0.9	0.15	
SD2	東西	V字状	0.9	0.75	
SD3	北西	逆台形状	1.8	0.4	
SD4	北西	逆台形状	1.3	0.43	
SD5	北西	逆台形状	2.7	0.43	
SD6	南北	逆台形状	1.0	0.53	

**柱穴状土坑 (SKP)**

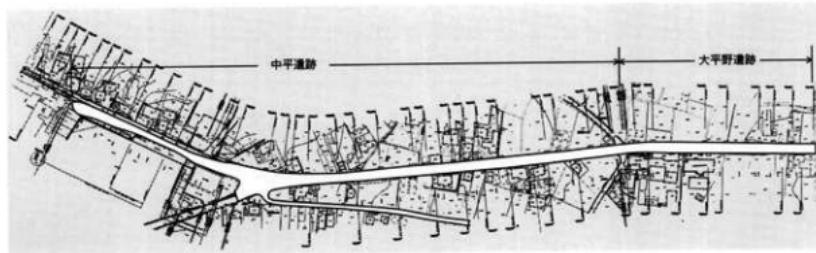
遺構名	平面形	規模 (m)	深さ (m)	備考
SKP1	不整椭円形	0.4以上×0.5	0.35	
SKP2	円形	0.3	0.95	
SKP3	円形	0.3	0.90	
SKP4	円形	0.2	0.11	

**<大平野遺跡の調査>**

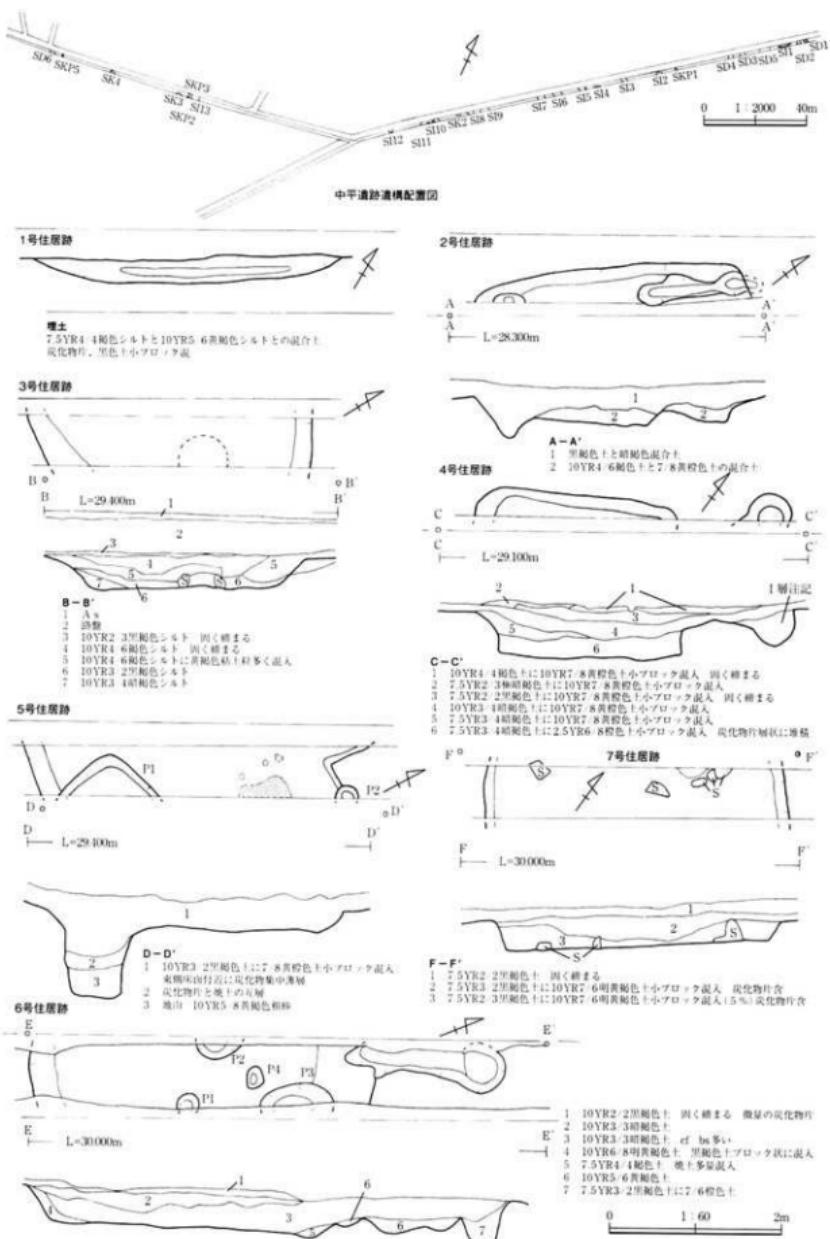
本遺跡は、野田村役場の南西約1.8kmに位置している。遺跡は北上高地東端から半島状に延びる標高25~60mの台地上に立地しており、中平遺跡の隣接地である。北側を平清水川、南側を泉沢側により限られている。現況は畑地である。平成21年7月に村道拡幅事業に伴い試掘調査を実施した結果埋蔵文化財が確認されたことから今回発掘調査を実施したものである。土坑4基、陥し穴2基、溝跡1条が検出された。

調査区幅4mで約120mにわたって調査を行った。基本土層は4層に分層される。宅地造成及び耕作地の関係で全体的に地形改変が行われたため、本来の土層が失われている。旧表土である黒褐色のⅡ層は現畑地の畦畔部分に僅かに残っている程度である。

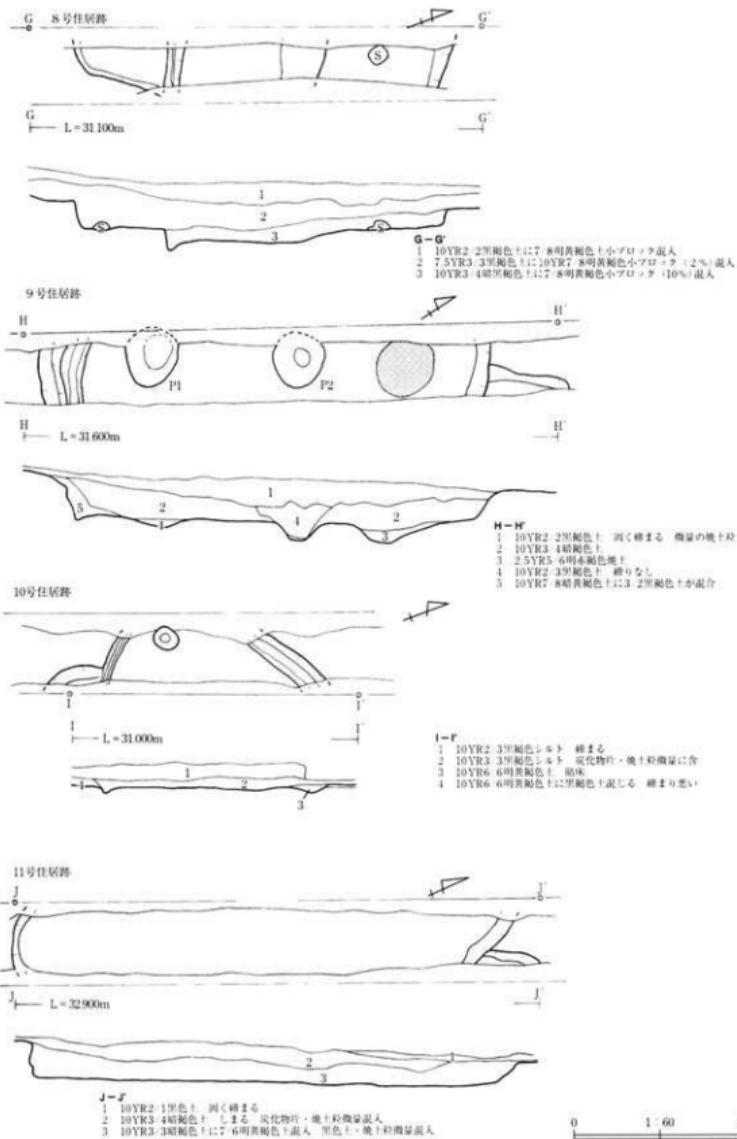
土坑は開口部の長軸が1.3m~2.2m、短軸0.8m~1.7m以上で平面形は不整円形~椭円形の形状である。陥し穴は溝状のもので、1号陥し穴は開口部で2.6m、幅0.7m、深さ0.5mを測る。溝跡は北東~南西方向に延びるもので、幅は最大で1.2m・深さ0.54mである。いずれの遺構からも遺物は出土しなかった。



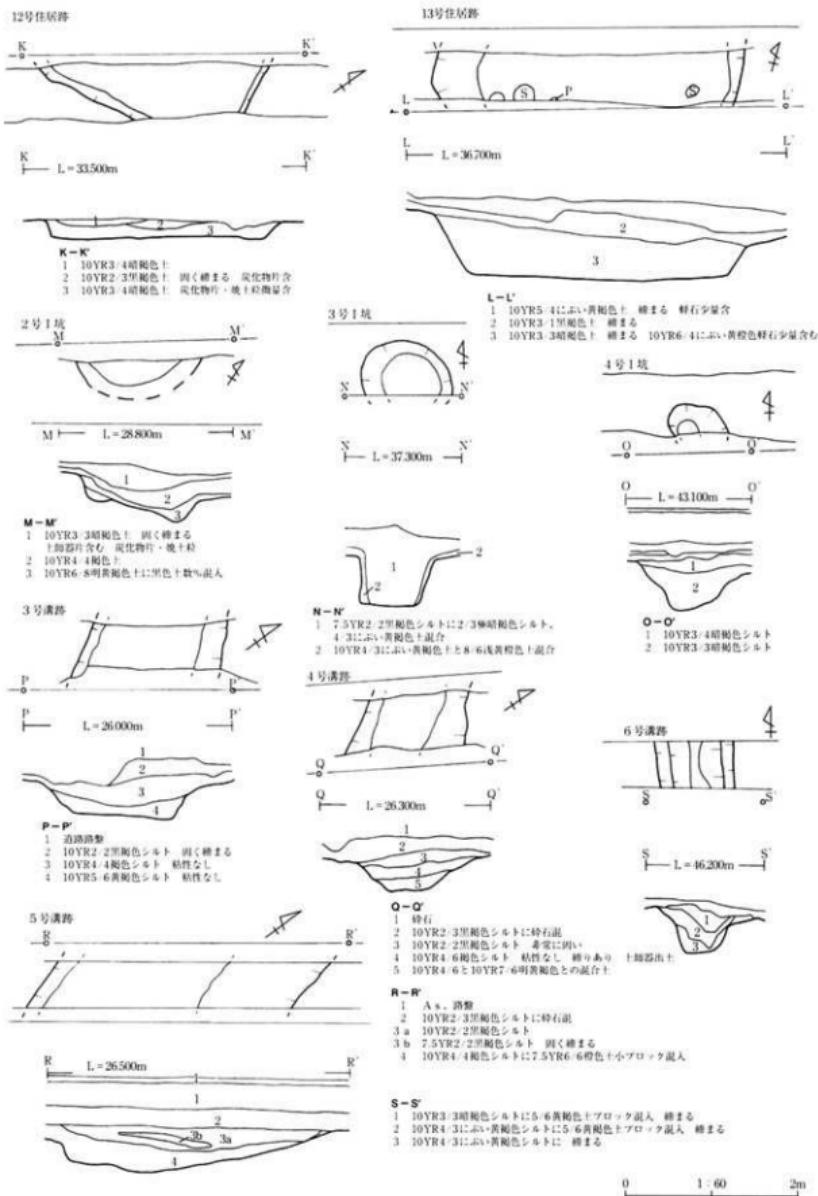
第10図 中平・大平野遺跡調査区位置図



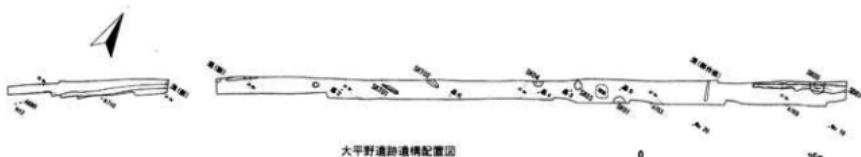
第11図 中平遺跡遺構配置図・検出遺構(1)



第12図 中平遺跡検出遺構(2)

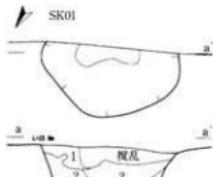


第13図 中平遺跡検出遺構(3)

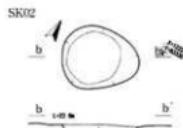


大平野遺跡遺構配置図

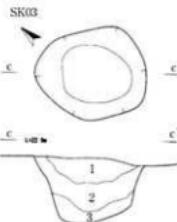
0 25m



- SK01 a-a'**
- 10YR2-3暗褐色シルト 粘性 緩まりや深 黄褐色土ブロック50%
  - 10YR5-8黄褐色シルト 粘性やや粗粒質 緩まりやや密
  - 10YR2-3暗褐色シルト 粘性 緩まりや中深 黄褐色土ブロック30%
  - 10YR3-4暗褐色シルト 粘性やや粗粒質 緩まりやや深 黄褐色土約10%

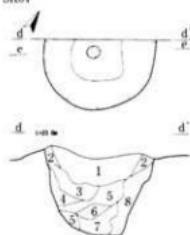


- SK02 b-b'**
- 10YR3-4暗褐色シルト 粘性 しまりやや密 黄褐色土ブロック30%



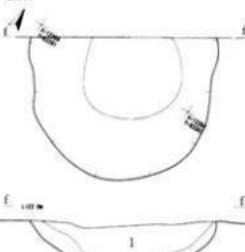
- SK03 c-c'**
- 10YR1-7-1黒色シルト 粘性 緩まりやや密 黄褐色土ブロック70%
  - 10YR2-3暗褐色シルト 粘性 緩まりやや密 黄褐色土約10%、白土ブロック5%
  - 10YR3-4暗褐色シルト 粘性 緩まりやや密 黄褐色土ブロック20%

SK04

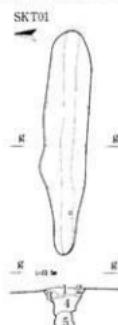


- SK04 d-d'**
- 10YR4-3IIふじい 黄褐色シルト 粘性欠 緩まりあり 明黄褐色土ブロック少量含む
  - 10YR3-3暗褐色シルト 粘性ややあり 緩まりややあり
  - 10YR2-3暗褐色シルト 粘性欠 緩まり欠 明黄褐色土ブロック少量含む
  - 10YR4-6褐色シルト 粘性あり 緩まりあり
  - 10YR2-6黒褐色シルト 粘性あり 緩まり欠
  - 10YR4-4褐色シルト 粘性あり 緩まり欠
  - 10YR4-6褐色シルト 粘性あり 緩まり欠
  - 10YR5-6黄褐色シルト 粘性あり 緩まりややあり 黄褐色土少量含む

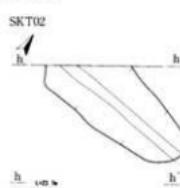
SK05



- SK05 f-f'**
- 10YR2-3暗褐色シルト 粘性 緩まり密 黄褐色土約10%
  - 10YR3-4暗褐色シルト 粘性 緩まり密 黄褐色土約30%



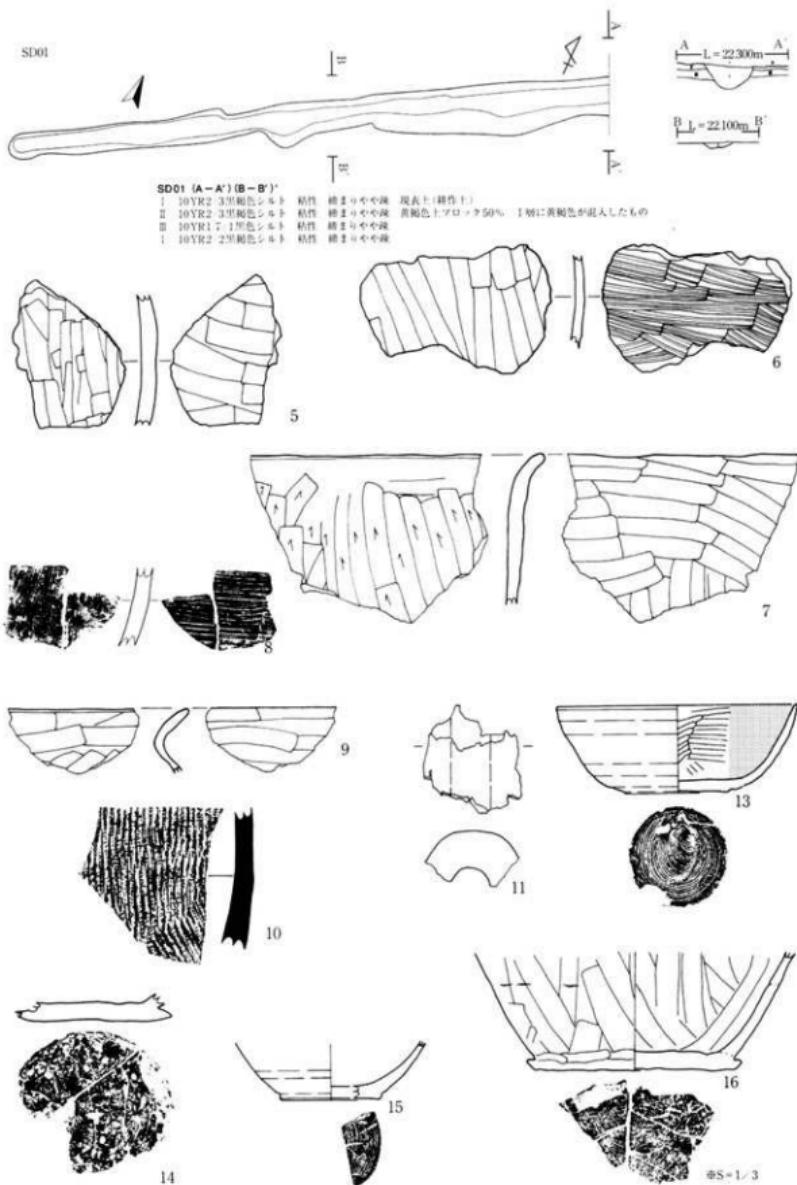
- SKT01 g-g'**
- 10YR2-2暗褐色シルト 粘性あり 緩まり欠 黄褐色土ブロック少量含む
  - 10YR4-6褐色シルト 粘性あり 緩まり欠
  - 10YR4-6褐色シルト 粘性あり 緩まり欠 黄褐色土少量含む
  - 10YR3-4暗褐色シルト 粘性あり 緩まり欠 部分褐色土混入
  - 10YR3-3暗褐色シルト 粘性あり 緩まりあり 褐色土少量含む



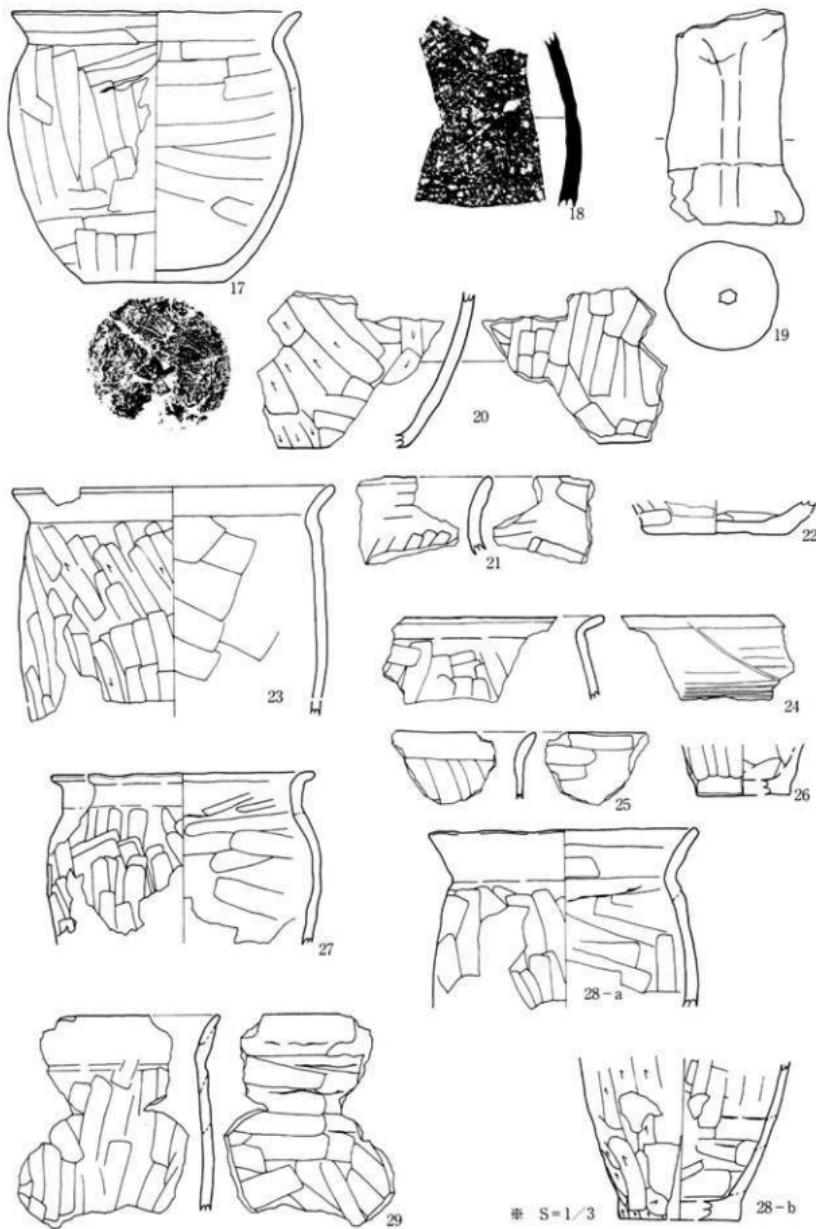
- SKT02 h-h'**
- 10YR2-3暗褐色シルト 粘性 緩まりやや密 黄褐色土ブロック10%
  - 10YR3-3暗褐色シルト 粘性 緩まりやや密 黄褐色土約30%
  - 10YR4-6褐色シルト 粘性やや粗粒質 緩まりやや密 黄褐色土ブロック20%
  - 10YR2-2黒褐色シルト 粘性 緩まりやや密 黄褐色土約50%
  - 10YR2-1黒褐色シルト 粘性 緩まりやや密 黄褐色土ブロック30%

0 1-60 2m

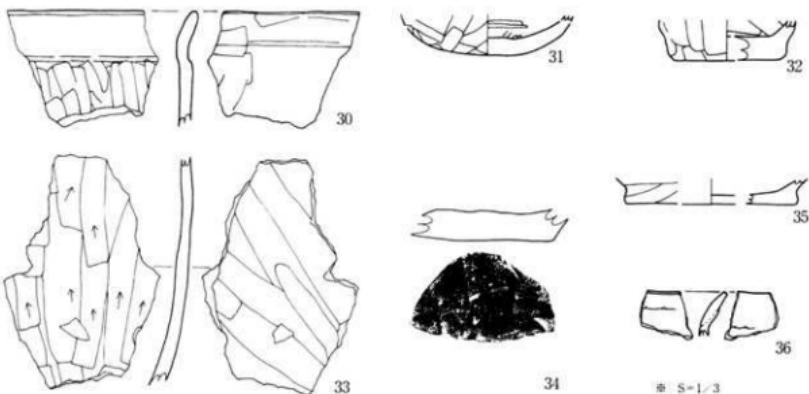
第14図 大平野遺跡検出遺構(4)



第15図 中平遺跡検出構(5)・出土遺物(1)



第16図 中平遺跡出土遺物(2)



第17図 中平遺跡出土遺物(3)

## 5 東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業

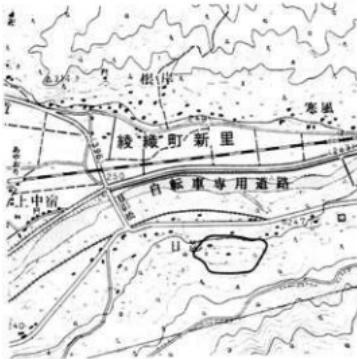
日影遺跡 (MF 44-2049)

所 在 地：遠野市綾織町新里23地割地内

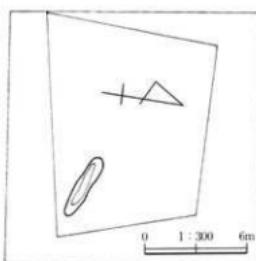
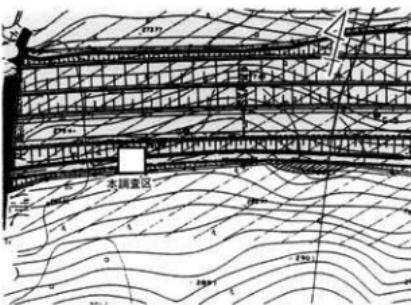
事 業 者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成21年11月27日(金)

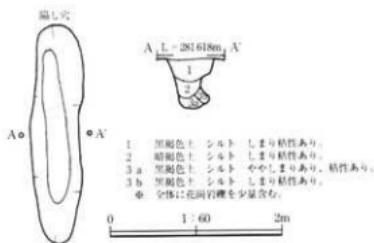
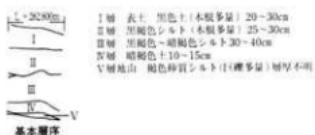
遺跡はJR遠野駅の西南西約2.8kmに位置し、松沢山北麓の標高280mの緩斜面上に立地している。今回の調査地点は日影遺跡の南東側にあたり、現況は山林である。今回の調査は、東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）事業に伴い実施したものである。調査対象範囲は9月28～29日の試掘調査で遺構を確認した部分の100mを対象とし発掘調査を実施したものである。検出した遺構は陥し穴1基である。規模は長軸2.6m×短軸0.6m、深さ0.6mを測り、平面形は溝状、断面は不整なU字状を呈する。埋土は基本層序のII～IV層を主体としている。全ての層に花崗岩の礫が少量混入している。縄文時代の陥し穴と推測される。遺構内及び周辺範囲を含めて遺物は確認されなかった。今回の調査では検出数は少なかったものの、以上のことから、本遺跡の南東側には同様の性格を持つ陥し穴が広がるものと推測される。



第18図 日影遺跡位置図



本調査区



第19図 日影遺跡調査区位置図・検出遺構

## 6 一般国道45号上荒川登攀車線改良事業

荒川和山遺跡 (MG91-2369)

所在地：釜石市唐丹町字上荒川地内

事業者：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所  
調査期日：平成22年1月19日(火)～22日(金)

荒川和山遺跡はJR唐丹駅の南西約1.5km、熊野川右岸の谷底平野に接する丘陵の頂部平坦面と北東向き緩斜面に立地している(標高55～65m)。現在、国道45号が緩斜面を横断して遺跡の載る丘陵を南北に分断しているが、旧地形では現道部分にも緩斜面が広がっていたものと想定される。今回の調査は国道45号上荒川の登攀車線設置工事にともなうもので、平成21年9月の試掘調査において埋蔵文化財が確認されたため、事業予定期1,600m<sup>2</sup>(延長180m×最大幅10m)を対象として調査を実施した。ただし、調査地北側は崖状の現道面(比高約8m)となるため、安全対策上、法面および法面際については調査を行わなかった。なお今回調査隣接地で釜石市教育委員会が平成18年度に調査を実施し、縄文時代および弥生時代の遺構・遺物を確認している。

調査区は地形的特徴から、平坦面、西斜面、東斜面、東端谷底に分けられる。調査地内の堆積土層は4層に大別される。I層：暗褐色シルト。層厚5～30cm、表土。II層：黒～黒褐色シルト。層厚20～105cm。縄文時代の遺物を含む。調査地南側の急斜面では確認されない。III層：暗褐色シルト。層厚15～40cm。縄文時代の遺物を含み、該期遺構埋土の主体。風化花崗岩礫が混入。IV層：明黄褐色粘質土。層厚不明。風化花崗岩礫が混入。遺構検出面、「地山」。

調査の結果、平坦面において堅穴建物跡2棟、土坑1基、柱穴2個を検出した。試掘調査で遺構が希薄と推測されていた東・西斜面部および東端谷底部については、トレンチ調査で遺構・遺物の有無を確認したが検出されなかった。

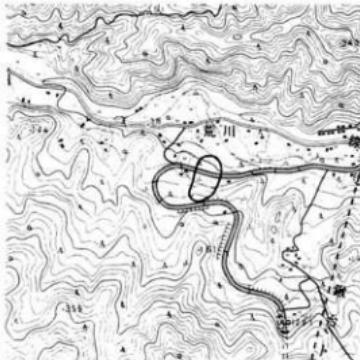
1号堅穴住居跡：平坦面のIV層上面で検出した。平面形は、円形もしくは橢円形の可能性が考えられる。遺構堆積土は深さ40cmを測る。斜面上方の南壁は確認できたが、下方側では壁が消失しており確認できなかつた。遺構の遺存範囲(床面想定範囲)としては、花崗岩礫が露出していないセクションA-A'付近までと想定した。柱穴は2個確認したが、主柱穴と思われるものはない。調査範囲内では炉は確認されなかつた。埋土は暗褐色土で、黄褐色土が霜降り状に混入。微量の炭化物を含んでいる。埋土から縄文土器、石器が出土した。所属時期は出土土器の様から縄文中期中葉(大木8a式期)と推定される。

2号堅穴住居跡：平坦面のIV層上面で検出した。平面形は長方形。壁高約20cmを測る。規模は東西4.40m以上、南北3.06mである。南側は調査地外へと延びており、国道建設により破壊されたものと思われる。主柱穴は床面中央付近で2個検出され、pit 2では柱の抜取痕跡を確認できた。また、床面で付属する土坑2基が検出された。SK 2には土器が埋設され、かつ微量の焼土を伴うことから、土器埋設炉であった可能性がある。埋土から縄文土器、石器が出土しており、当遺構の所属時期は縄文時代中期中葉(大木8a式期)と推定される。

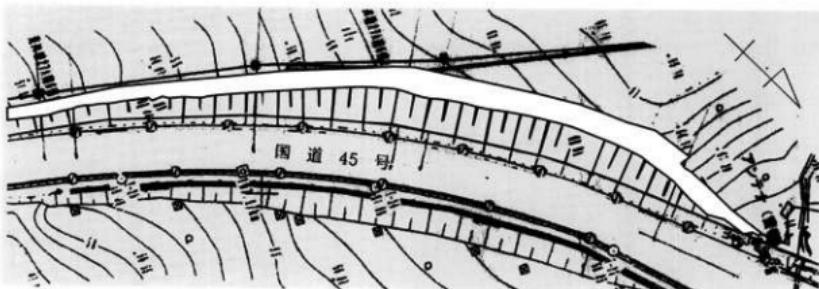
土坑：平坦面のIV層上面で1基検出した。平面形は不整な橢円形で1.25m×0.95m、深さは約39cmを測る。埋土から縄文中期中葉(大木8a式相当)の土器が出土した。

柱穴：1号柱穴は1号堅穴住居跡の東壁部分で検出され、1号住居より新しい柱穴である。掘り方は径70cm×50cmの橢円形である。時期の詳細は不明であるが、重複関係から縄文時代中期以降である。2号柱穴は径50cm×35cm、深さ約63cmを測る。いずれも所属時期は不明である。

出土遺物は縄文土器、石器類である。主に平坦面のII・III層および堅穴住居跡埋土から出土している。縄文土器



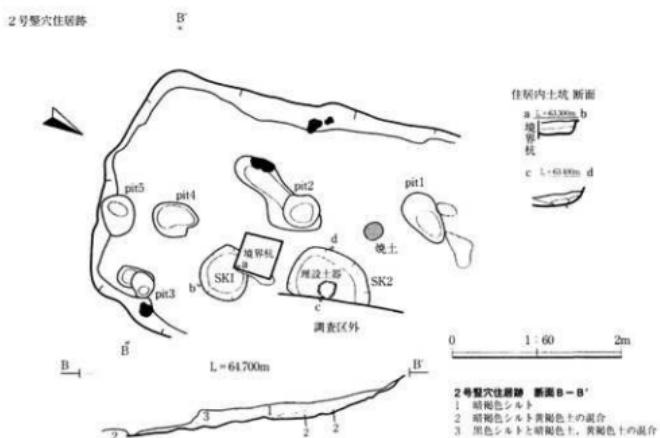
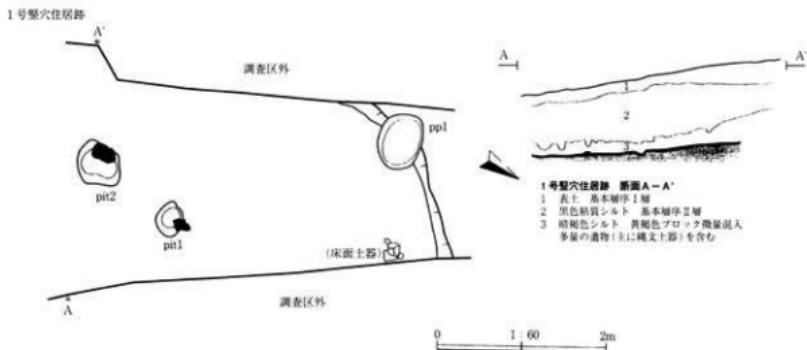
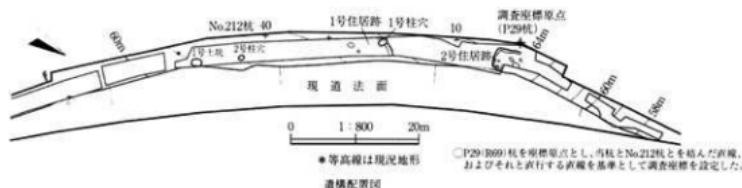
第20図 荒川和山遺跡位置図



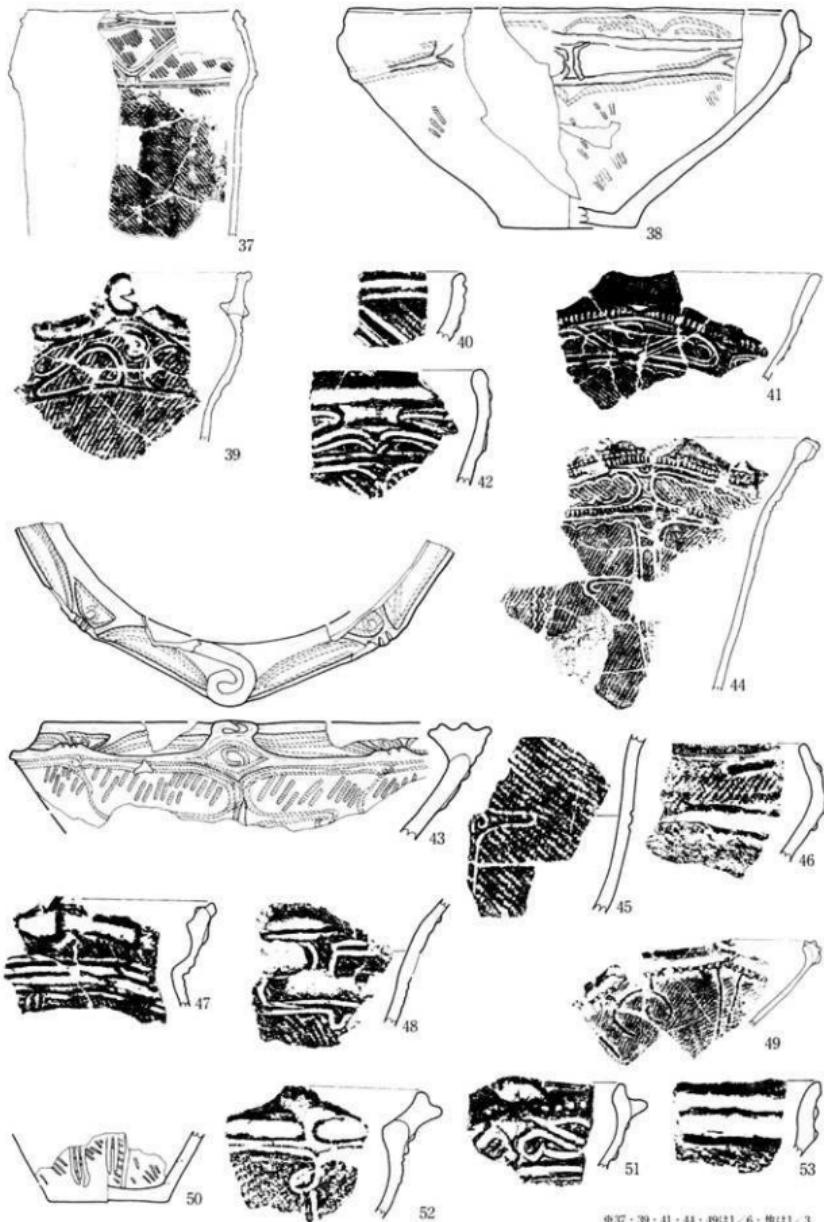
第21図 荒川和山遺跡・調査区位置図

は中期前葉から中葉の時間幅があるが、主体は大木8a式に比定される土器群である。

以上のとおり、今回調査地が縄文時代中期の集落跡の一部であることが確認された。遺構は東・西斜面部に拡がらず、釜石市教育委員会の調査成果も考え合わせれば、集落の主体は丘陵上の平坦面に限られるものと推定される。



第22図 荒川和山遺構配置図・検出遺構

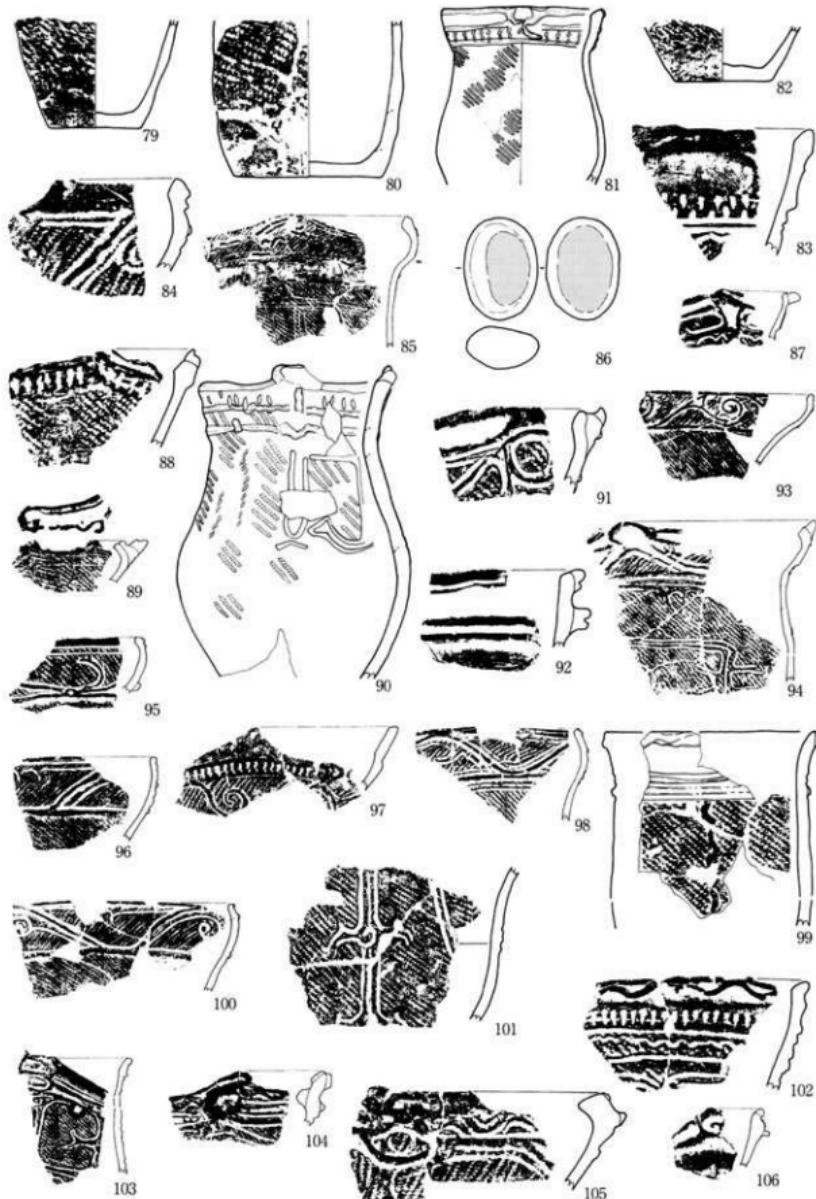


中37・39・41・44・49・51／6・地41・3

第23図 荒川和山遺跡出土遺物(1)

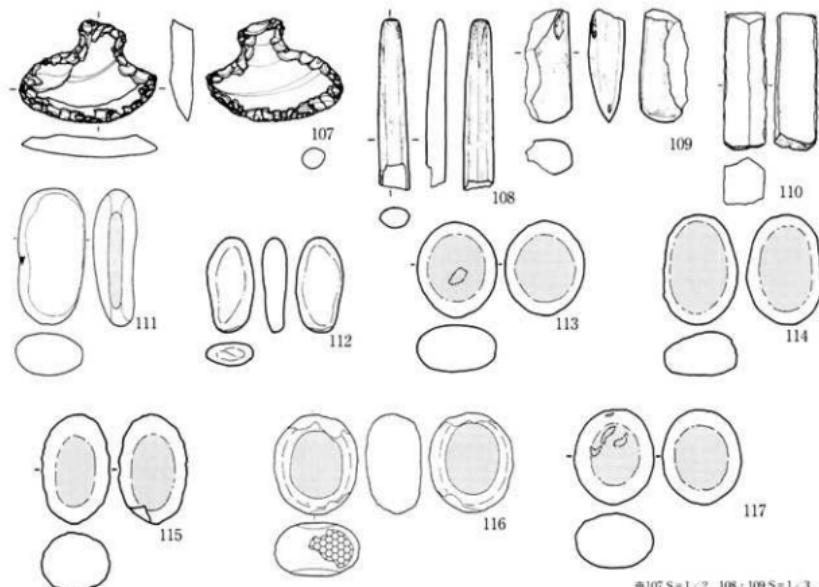


第24図 荒川和山遺跡出土遺物(2)



85・86・87・89・93・94・95・96・97・98・100・103・104/1/6・他は1/3

第25図 荒川和山遺跡出土遺物(3)



\*107 S=1/2, 108-109 S=1/3  
110-117 S=1/6

第26図 荒川和山遺跡出土遺物(4)

## 7 経営体育成基盤整備事業白山地区

### 八幡遺跡 (NE 46-2317)

所在地：奥州市前沢区自由字八幡地内

事業者：豐南庄域振興局農林部

調査期日：平成22年1月27日(木)～28日(木)、2月3日(水)

八幡遺跡は奥州市役所から8.9km南に位置する、奥州市前沢区白山字八幡地内に所在している。今回の調査は奥州市前沢区のは場整備事業（白山地区）に係るもので、支線道路建設予定地について実施したものである。調査地は八幡遺跡の北東側に隣接する畑地で、平成21年12月に実施した試掘調査において遺構が確認されたことから道路建設範囲について発掘調査を行った。この畑地は周囲よりも1mほど高くなっているが、盛土により造成されたものであり、盛土を除去すると旧表土（耕作土）層と思われる暗褐色土を挟んで明黄褐色粘土層（IV層）となる。調査地より西側は明後沢川に向かって徐々に標高を下げており、調査地付近が微高地面の縁辺部にあるものと見られる。

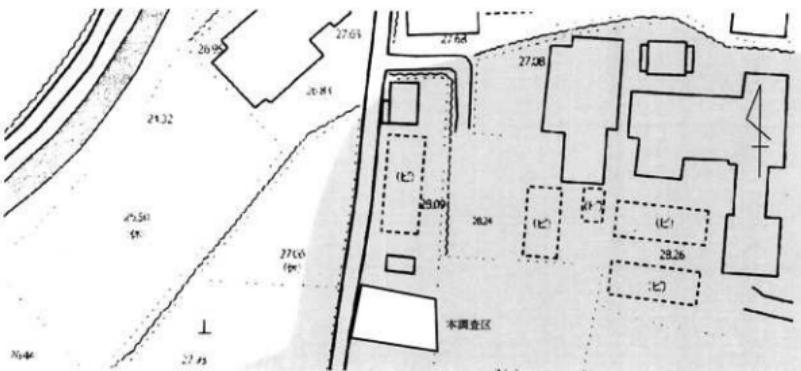
柱穴27個が検出された。平面形は径15~55cmの略円形ないし梢円形を基調としている。うち12個については径15cmほどの柱痕跡が確認された。遺物は出土していない。

検出された柱穴から掘立柱建物跡1棟、柱列1列を想定した。

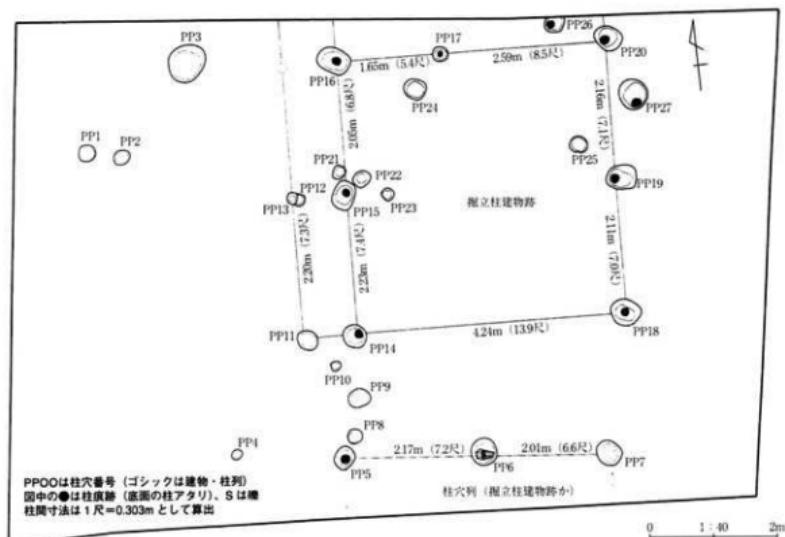
掘立柱建物pp14~16とpp18~20の6個は、その位置関係や形状・規模からみて掘立柱建物と考えられる。梁間1間×桁行2間で、ほぼ正方形の平面形式をとる正方型の建物であるが、桁行については北側の調査範囲外へと伸びる可能性が高く、全体として南北棟の建物になると推測される。確認されている建物規模は梁行4.2m(13.9尺)・桁行4.3m(14.1尺)で、桁側の間尺は平均7.1尺となる。梁側のpp14~pp18の間では柱穴が検出されていないが、桁の間尺のほぼ2倍にあたることから、当建物の基本間尺は7.1尺であると考えられる。また建物西側に並ぶpp11・12は西面の庇であり、北側のpp16~20間の軸線に載るpp17は当建物に属する柱穴(東床柱)と考えられる。

柱穴列南側で直線的に並ぶpp 5～7は上述の建物と組み合うものと考えたが、結果的に柱筋が通らないことから別個の柱と認定した。総長13.8尺である。柱穴の掘り方が大きく、pp 6・7の底面には礎石と考えられる扁平な礎が確認されている。南側の調査区外に延びる建物跡の一部である可能性が高いものと思われるが、詳細は不明である。

掘立柱建物跡および柱穴列は出土遺物を欠いており、その所属時期を確定できない。



第28図 八幡遺跡調査区位置図



第29図 八幡遺跡遺構配図図・出土遺物

## 8 中山間地域総合整備事業中居地区

下中居Ⅱ遺跡 (MF00-1025)

所在地：花巻市大迫町外川目字下中居地内

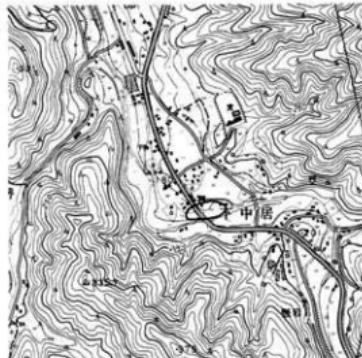
事業者：県南広域振興局花巻総合支局農林部

調査期日：平成22年1月12日(月)～13日(火)

下中居Ⅱ遺跡は大迫町中心部の南東約2.5km、中居川右岸の低位段丘面に立地している。当遺跡については、今回調査と同一事業とともに発掘調査が県埋蔵文化財センターにより行われ、縄文時代の遺物包含層が検出された（以下、前回調査という）。当初計画においては、当遺跡部分については盛土保存される形であったことから、前回調査は内容確認に止めている。しかし、工事にあたって著しい湧水を処理するためU字溝の設置が必要となることが判明し、平成21年8月に事業者と当課の間で工法計画に係る協議が行われた。今回調査は、協議結果を受けて既調査部分のうち幅1m・長さ80mの掘削される範囲（約800m）について実施したものである。調査地の現況は現道法面部分および隣接する休耕田脇の土側溝部分である。

調査地には北側上位面方向から流入する黒～暗褐色土（Ⅱ～V層）が厚さ1m以上堆積している。当該層には多量の角礫や板状の扁平礫が混入しており、礫に混在する形で土器を主体とする縄文時代の遺物が多量に出土している。遺物包含層の主体はⅢ層であり、局所的にみられるのではなく、今回の調査地の全域に広がっている。多くは厚手で脆い深鉢形の土器で、半截竹管による沈線・刺突穴、太い粘土紐の貼付文などが施されている。前回調査と同様、器形や文様の特徴から縄文時代前期前葉～中期前葉（大木5式～7b式）が主体的に出土している。石器は礫石器が多く、剥片石器は成品、未成品とも僅少である。包含層中に遺構検出を行ったが確認されなかった。包含層より下位では、火山灰層、褐色粘土層を介して地山面となるが、縄文時代前期中葉以前の遺構・遺物は確認されなかった。

当遺跡北側の上位段丘面には今回出土した土器と同時期の集落跡である下中居Ⅰ遺跡があり、今回出土した遺物の多くは下中居Ⅰ遺跡から供給されたものと考えられる。ただし、当包含層は堆積土層の様相や出土状況から見ていわゆるの遺物の「捨て場」ではなく、遺物を多く含む土層が移動して形成された二次的なものと推測される。なお形成時の詳細については不明である。



第30図 下中居Ⅱ遺跡位置図



第31図 下中居Ⅱ遺跡調査区位置図

L = 175.518m  
E

- 基準剖面
- I 10YR2-3シルト 表土 レキガ層 しまり密 粘性強
  - II 10YR2-3-3シルト 土器片少 硬化物少 磨少量 しまり密 粘性強
  - III 10YR2-3シルト 土器片多 磨少量 しまりやや密 粘性強(まれた遺物包含層)
  - IV 10YR3-4-4シルト 土器片少 磨少量 しまりやや密 精度強
  - V 10YR2-2シルト 土器片微量 磨少量 しまりやや疏 粘性強
  - VI 10YR4-6粘 しまり密 粘性強
  - VII 7.5YR2-2粘 粘色土 砂子多量
  - VIII 10YR4-4粘 金雲母和少量含 地山 しまっている 粘性強

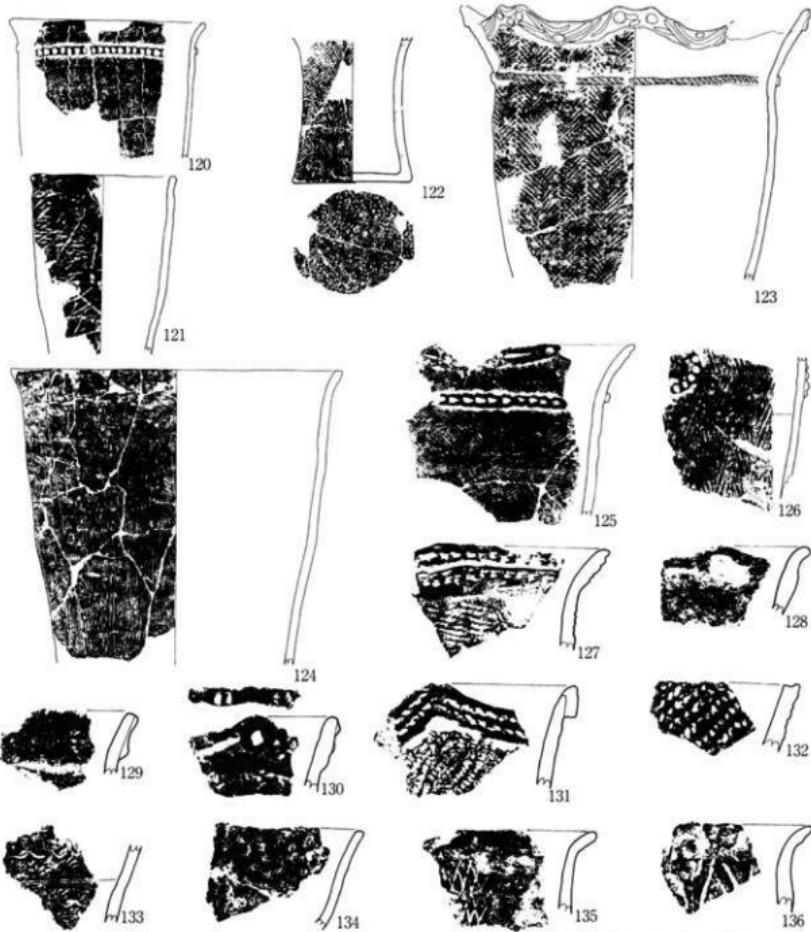
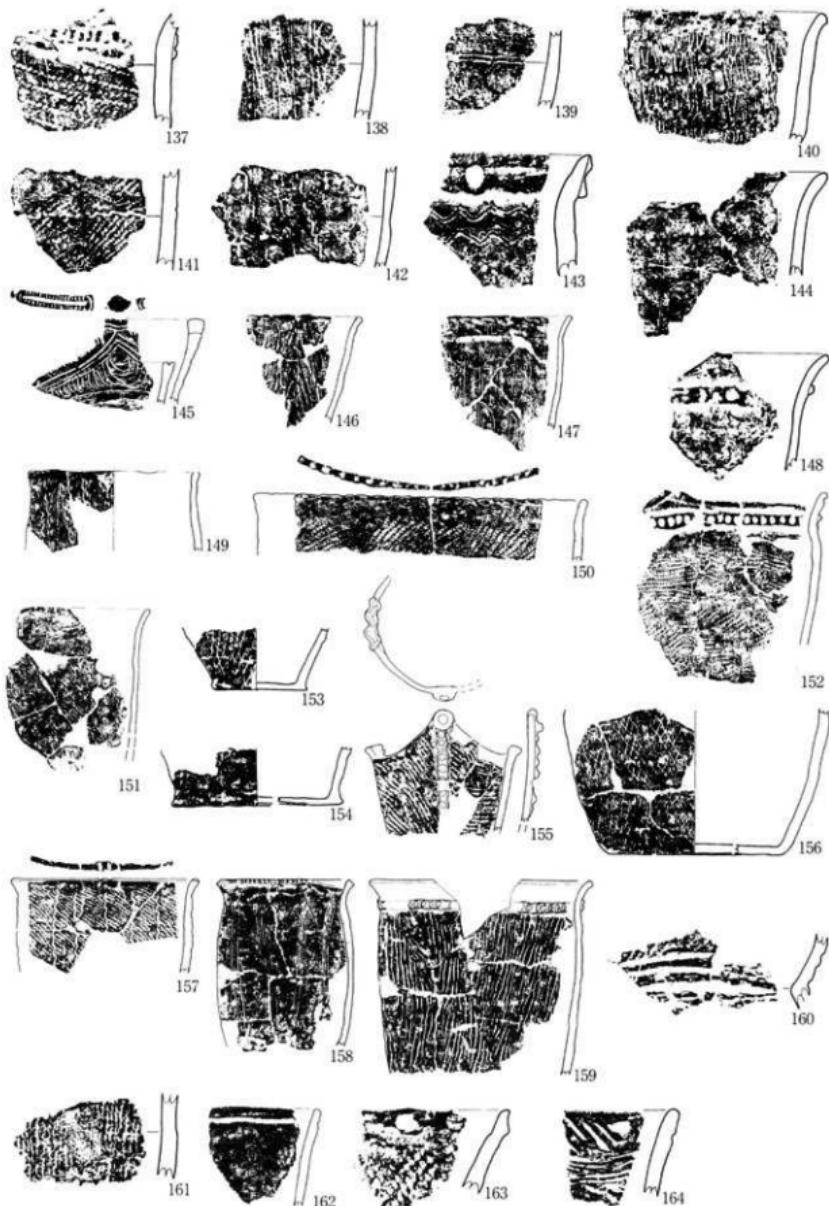


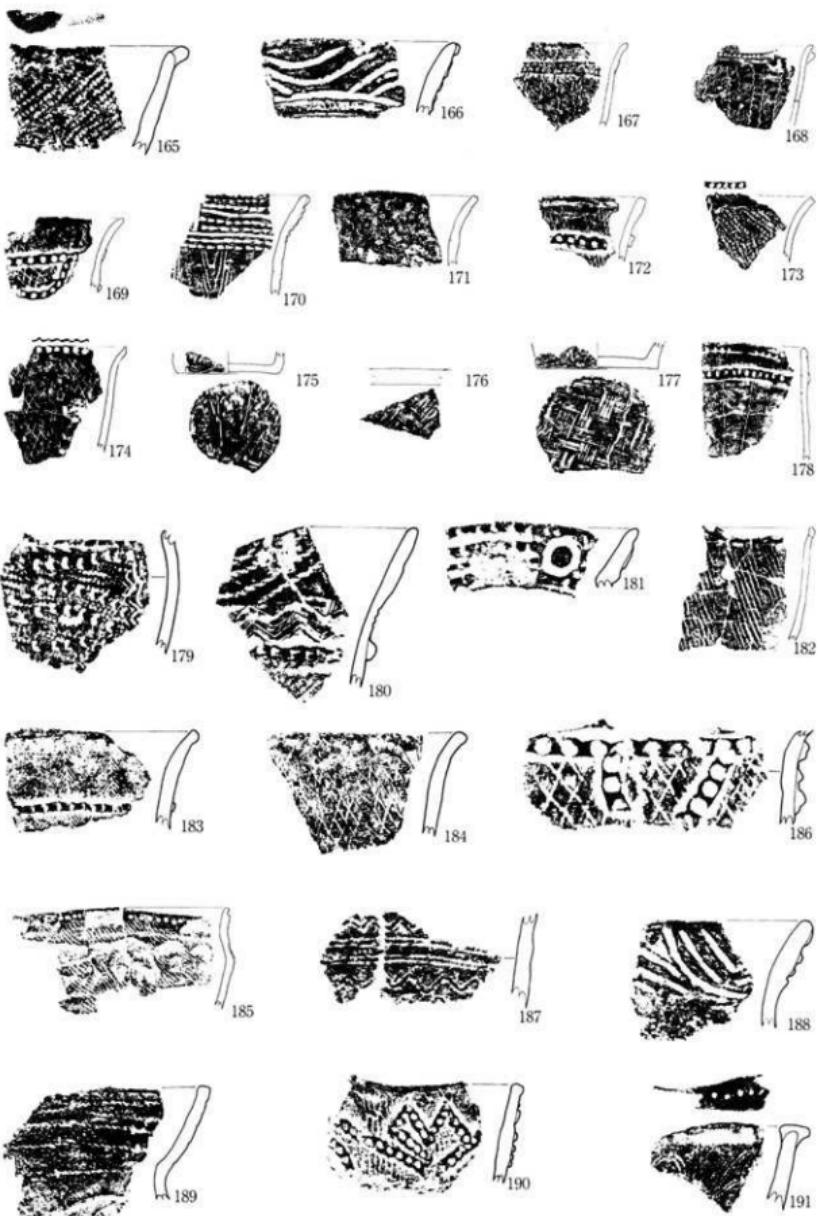
図120-126 S=1/6 他はS=1/3

第32図 下中居Ⅱ遺跡調査区図・出土遺物(1)



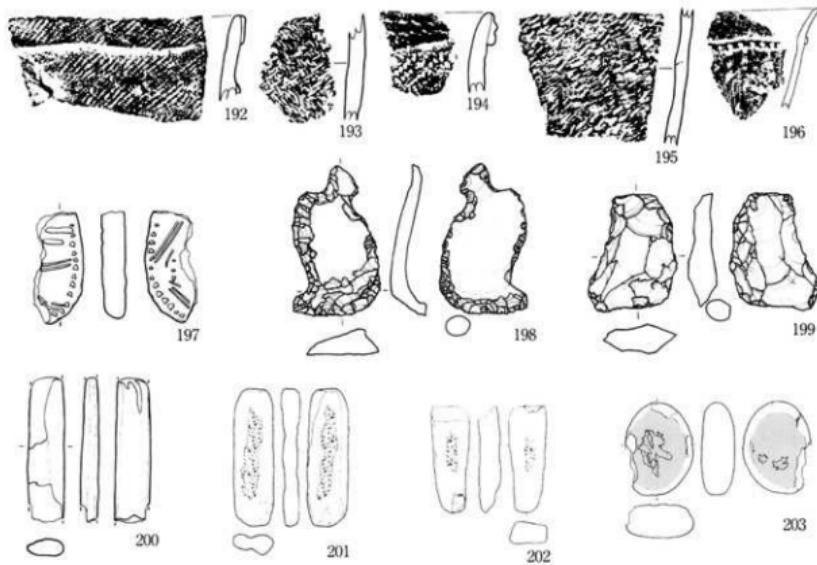
©145-147・149-159 S=1/6・施JS=1/3

第33図 下中居Ⅱ遺跡出土遺物(2)



Φ167~178・182・185・185・185・189・190・191

第34図 下中居Ⅱ遺跡出土遺物(3)



※197~199 S=1/2・201~203 S=1/6・他はS=1/3

第35図 下中居Ⅱ遺跡出土遺物(4)

## 9 花巻空港整備事業

上ノ山遺跡 (M E 06-2267)

所在地：花巻市葛第二地割地内

事業者：花巻空港事務所

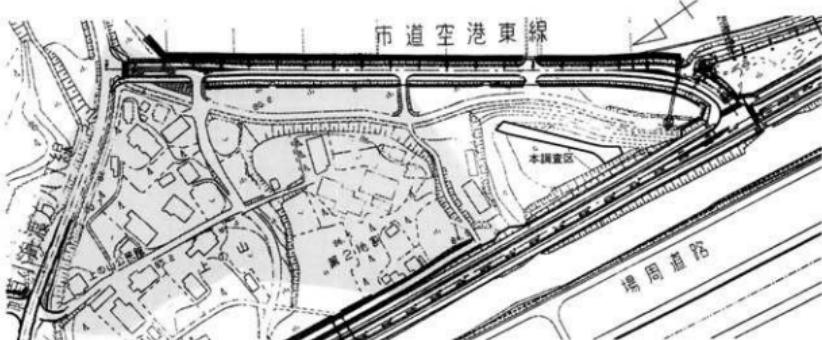
調査期日：平成22年3月2日(火)～4日(木)

本遺跡は花巻市役所の北北東方向約5.4kmに位置し、低位段丘内の微高地に立地している。調査範囲は微高地内南側の標高114mの小山部分で、頂上は全体的に平坦である。周囲の低位段丘面とは約15mの比高をもつ。現況は山林である。

本調査は平成20年11月に実施した試掘調査の結果を受けて、約30m<sup>2</sup>を対象として発掘調査を行ったものである。基本土層は4層に区分される。I層厚が薄いことと平坦な地形面を持ち、II層まで全体的に擾乱を受けていることが想定される。調査範囲は平坦な地形面南端の平面形が4m×4mの正方形部分である。重機により約10cm粗掘し、人力により精査を行い、遺物の出土層位と分布状況から遺物の取り上げを2回行った。出土遺物は剥片(フレーク)、破片(チップ)、自然礫、炭化物片の約70点である。出土層位はII層～IV層上面で、層境付近からの出土量が多い。これらの遺物の中にはII層から出土した縄文時代に属する石鏃2点が含まれる。このほかに調整痕のある剥片(搔器)3点がIII層上面から出土した。遺物の分布状況をみると、南東側にやや集中する傾向がみられる。遺構は検出されなかった。調査結果から、旧石器時代の石器がIII層最上部から出土すること、II層からは縄文時代の石鏃が出土することから、旧石器時代および縄文時代の遺跡が広がると考えられる。



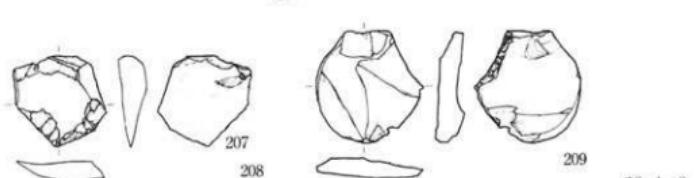
第36図 上ノ山遺跡位置図



204 205

206

208



207

208

209

ΦS = 1 / 2

第37図 上ノ山遺跡調査区位置図

## 10 花巻空港整備事業

石持 I 遺跡 (ME 16 - 2117)

所在地：花巻市東宮野目地内

事業者：花巻空港事務所

調査期日：平成22年3月2日(火)

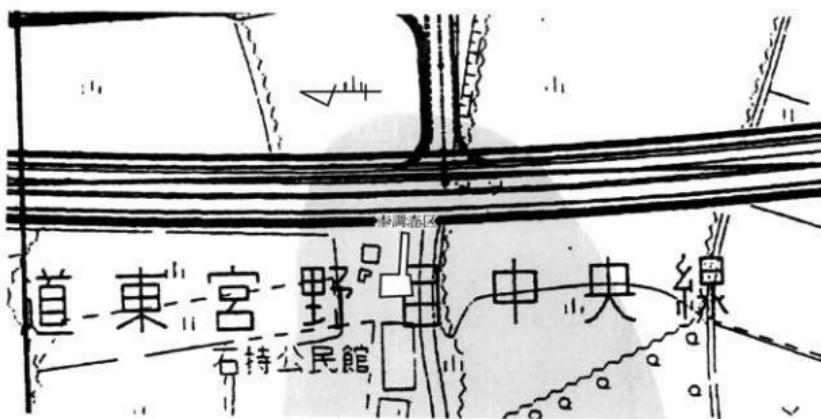
遺跡は、花巻市役所の北東約3kmに位置し、北上川によって開析された低地に広がる沖積地の西側に位置する。調査前の現況は休耕田で、周辺の標高は76~78mである。今回の調査は、花巻空港整備事業に関わるもの（緩衝緑地工事宮野地区トイレ設置・駐車場設置）であり、調査範囲はトイレ及び排水管の設置箇所約45mが対象である。

調査は重機により表土を除去後、精査を行った。調査区中央部ではI層直下で地山であるVI層が露出され、小型の土坑が2基検出された。P01は平面形が円形で、上面規模は45×40cm、深さは16cmである。P02は平面形が円形で、上面規模は72×62cm、深さは40cmである。いずれも焼土・炭化物が検出されているが、埋土の状況から近現代に属するごみ焼き穴などの施設であると考えられる。その他に同規模のプランもいくつか検出されているが、精査の結果、木の根による搅乱であることを確認した。また、調査区の両端は旧河道となっておりその範囲には遺構が存在しないこと、西側旧河道の脇に直径3m、深さ1m以上の大規模な搅乱が存在することも確認した。なお、遺物は全く出土しなかった。

平成20年度に実施した隣接地の試掘調査では陥し穴状遺構の存在が確認されているが、今回の調査区は大部分が旧河道となっており、河川の縁辺部にあたることからそれらの遺構は確認できなかった。



第38図 石持 I 遺跡位置図



第39図 石持 I 遺跡調査区位置図

## 11 経営体育成基盤整備事業古城2期地区

古城方八丁遺跡 (N E 46-1367)

所 在 地：奥州市前沢区古城地内

事 業 者：県南広域振興局農林部

調査期日：平成22年1月25日(月)～27日(水)

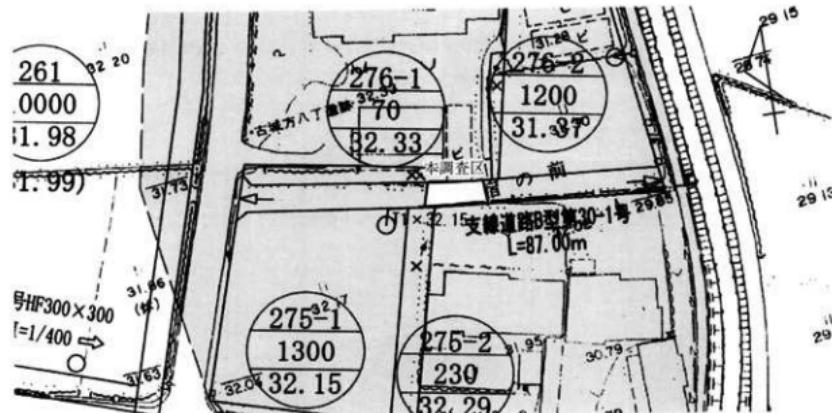
本遺跡は奥州市役所前沢総合支所の北東方向約3.5kmに位置している。北上川及び明後沢川により南北方向の残丘状に残る標高約33mの微高地上に立地している。現況は畠地である。

本調査は平成20年11月に実施した試掘調査の結果を受けて、約61haを対象として発掘調査を行ったものである。基本土層は3層に区分される。地形変更により本来の土層が失われ、Ⅱ層黄褐色土上に現代の搅乱土がのっている。検出された遺構は土坑10基、柱穴状土坑33個である。1・2・8号土坑は深さ11～26cm、開口部径1.2～1.55mの不整円形土坑で、土師器片・須恵器片が比較的多く出土している。10号土坑は不整格円形を呈し、開口部径が1.65m×0.95cm以上、深さ0.64cmで、埋土は固くしまっており、遺物は出土していない。11・13号土坑は開口部径が0.4～0.7mで円形を呈する。埋土下部に炭化物片や焼土粒が多く含み、土師器片等が出土している。柱穴状土坑は33個検出された。開口部径が20cm前後と30cm前後のものがあり、前者が2/3をしめる。遺物はほぼ全遺構から出土しており、土師器破片と須恵器破片が出土し、前者が多く出土している。

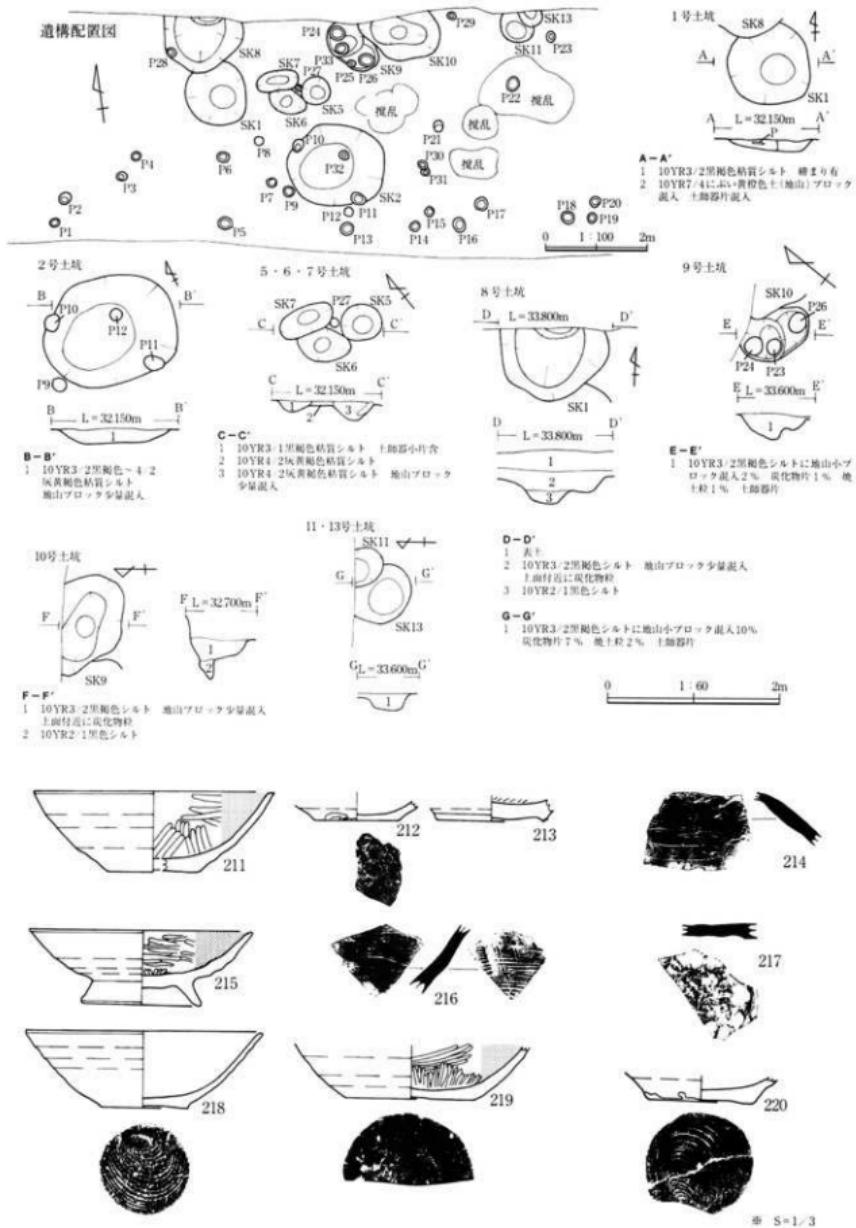
調査結果から、古代の集落跡に伴う土坑等が検出され、北側に位置する現民家周辺に遺跡の中心部が広がるものと推測される。今年度財県埋蔵文化財センターで発掘調査が行われた調査結果と同様な遺構が検出されたことから、一連の集落跡と考えられる。



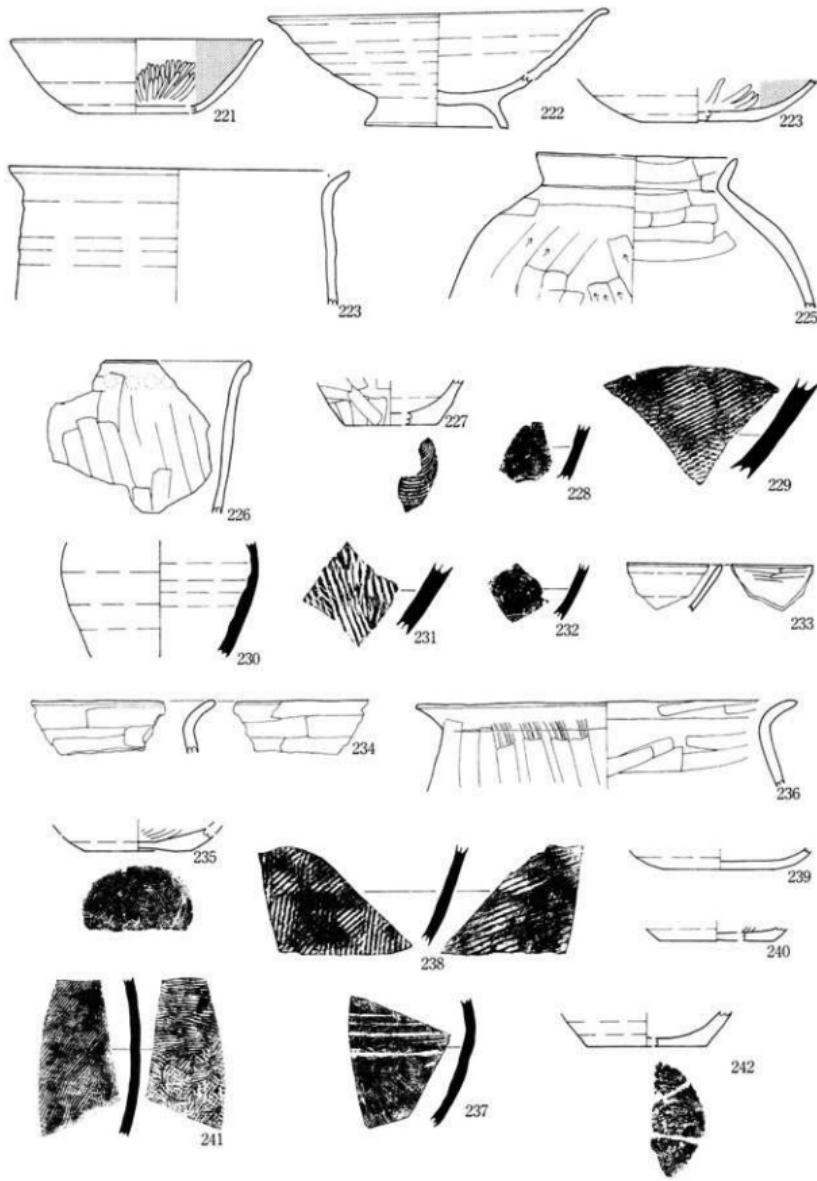
第40図 古城方八丁遺跡位置図



第41図 古城方八丁遺跡調査区位置図



第42図 古城方八丁遺跡検出遺構・出土遺物(1)



第43図 古城町八丁遺跡出土遺物<sup>(2)</sup>

## 12 経営体育成基盤整備事業江刺西部地区

林遺跡 (NE 06-0397)

所 在 地：奥州市江刺区愛宕地内

事 業 者：県南広域振興局農林部

調査期日：平成22年2月3日(水)～5日(金)、2月8日(月)

今回の調査は奥州市江刺区のは場整備事業に係るもので、バイオライン埋設予定地について実施したものである。調査地は林遺跡南西部の現道西脇の草地で、平成21年12月の試掘調査において遺構が確認された範囲について約50mを対象として発掘調査を行ったものである。当遺跡は北上川東岸の氾濫低地に接する微高地に立地しており、北上川縁からの距離は約350mである。遺跡周辺を含む愛宕地区は北上川の頗るな氾濫による洪水堆積層により覆われており、かつ、遺構検出面であるⅢ層も北上川の堆積作用による炭化物を含む水成堆積層であった。そのため、地山と遺構埋土の境は曖昧で、検出・精査に時間がかかる状況であった。

調査の結果、掘跡1条(SD1)、溝跡2条(SD2・3)、土坑3基(SK1～3)、柱穴1個(SK4)、歎間状遺構1群(SX1)を検出した。

堀跡は試掘調査で検出したものである。調査区を横切って東西方向に延びている。確認部分の長さは1.5mである。断面形状は逆台形のいわゆる箱型で、幅は開口部で2.9m、底面で0.6m、深さは0.8mを測る。底面付近からごく僅かに摩滅した土師器片が出土しており、古代に属する可能性がある。溝跡は開口部幅40～50cm、深さ30cmほどであり、調査区北側で隣接して検出された。軸線が異なることから別個の溝跡と推測される。土坑は皿状を呈する浅いものである。調査地南側の2基(SK1・2)は重複しており、底面で大きな疊が複数検出された。部分的な検出で全体形状は不明であるが、検出部から方形平面の土坑と推測される。埋土は埋め戻しによる人為堆積層で、遺物は出土しなかった。用途・時期とも明確ではないが、形状や疊の出土状況および埋土の状況から、中世以降の墓坑だった可能性が考えられる。柱穴は調査地南端付近で1個のみ検出された。歎間状遺構としたものは、調査地北側で検出した密集する溝跡群である。いずれも東西方向に延びており、深さは15～20cm程である。間隔にはばらつきがあり、複数時期のものが含まれている可能性がある。埋土に土師器と思われる微細な土器片が混入しており、平安時代に属する可能性がある。

当遺跡は古代の生産域だったことが判明した。その時期は、北上川を挟んだ対岸の胆沢城跡とはほぼ同時期であり、何らかの関連性を持っていたものと考えられる。

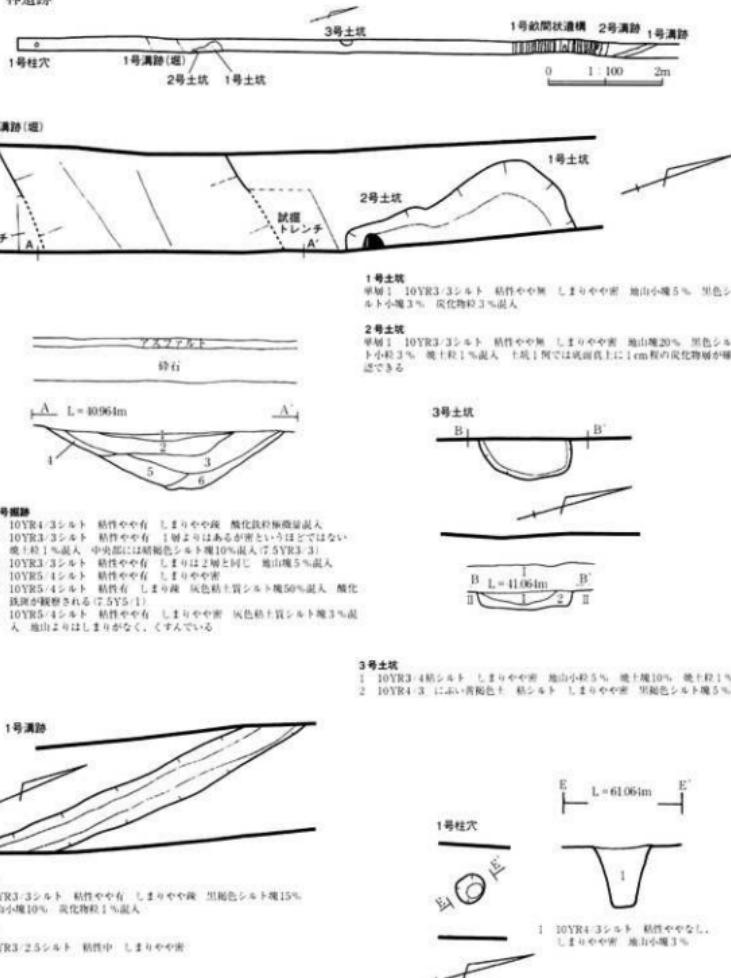


第44図 林遺跡位置図

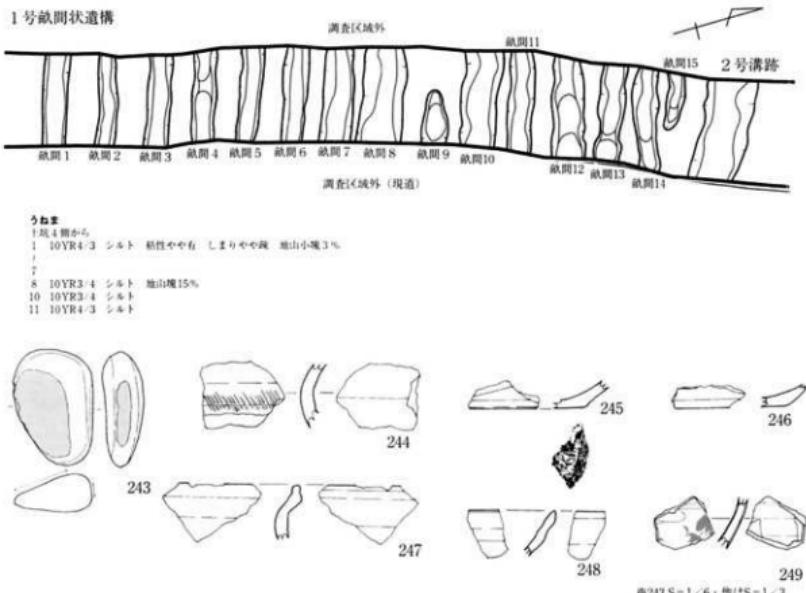


第45図 林遺跡調査区位置図

### 林遺跡



第46図 林遺跡遺構配置図検出遺構



第47図 林遺跡検出遺構(2)・出土遺物

### 13 経営体育成基盤整備事業江利西部地区

阿弥陀堂遺跡（NE06-0354）

所 在 地：奥州市江利区愛宕地内

事 業 者：県南広域振興局農林部

調査期日：平成22年2月3日(水)～5日(金)、3月8日(月)

本調査位置は奥州市役所江利支所の北方向4.5kmに位置している。本調査範囲は北上川による浸食から免れた、北天間～天間沖～林地区の標高43mの微高地上に立地している。現況は農地である。本調査は経営体育成基盤整備事業のパイプライン工事に伴い、約205mを対象として発掘調査を実施したのである。便宜上、北調査区及び南調査区として本調査を開始した。

#### <北調査区>

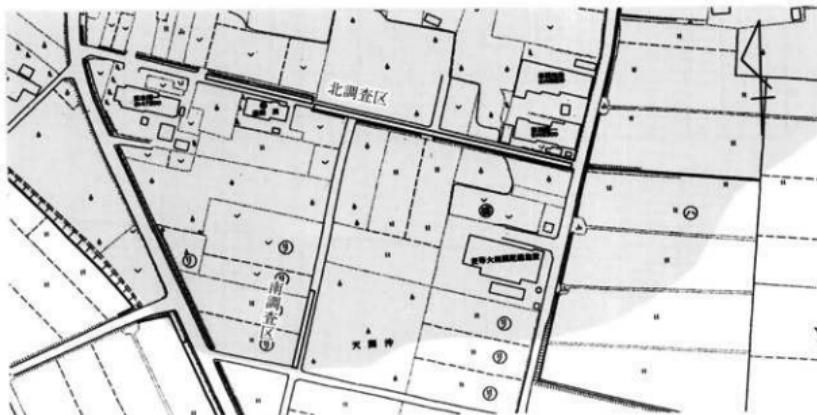
基本土層はⅡ層に区分される。本来の堆積層はⅢ層から下位層で、Ⅲ層は県道寄りの西側にのみ分布し、Ⅲc層から古代の土器片が出土している。遺構はⅣ層上面で検出される。検出された遺構は溝跡3条、柱穴状遺構10個である。柱穴は主に西側の調査区で多く検出される。Ⅲc層を埋土とし、平面形は円形～楕円形を呈し、規模は長軸が13～55cmで、深さは5～28cmである。溝跡は東側調査区で2条検出された。北東西南方向にのび、開口部幅は40～80cm、深さは10～26cmである。Ⅱ層下位のⅣ層で検出され、暗褐色土が埋土である。遺物は西側調査区のⅢc層から主に出土している。調査結果から、本遺跡に属する遺構は主に本調査範囲の中央から西側にかけて検出された。遺構検出面は西側調査区では地表面から約130cm、東側調査区では約40cmであることから、西側調査区付近が約1m低い地形面で、本範囲周辺に集落跡が広がることが推測される。これら2地区で検出された遺構は、遺構の性格および検出層位からほぼ同時期と考えられる。

#### <南調査区>

南調査区は北上川東岸の氾濫低地に接する微高地に立地しており、北上川緑からの距離は約350mである。遺跡周辺を含む愛宕地区は北上川の頻繁な氾濫による洪水堆積層により覆われており、かつて遺構検出面であるⅢ層も北上川の堆積作用による荒化物を含む水成堆積層であった。そのため、地山と遺構理土の境は曖昧で、検出・精査に時間がかかる状況であった。調査地は遺跡南西部の現道西脇の草地である。調査の結果、溝跡1条、戸間状遺構2群、柱穴2個を検出した。溝跡はⅢ層上面で検出されたもので、開口部幅114cm、底面幅36cm、深さ44cmを測る。底面は平坦で、断面形は逆台形を呈する。埋土はⅡ層に相当する暗褐色土で、戸間状遺構のそれと共通することから同時に存在していたと考えられ、9世紀後半～10世紀前半に属するものと推測される。耕作時に利用されていた水路の可能性が高い。戸間状遺構は、調査地北側のⅣ層面で検出された浅い溝跡群である。検出されない空白地を挟んで南北2群に分かれているが、本来は一連のものだった可能性が高い。確認範囲は合わせて50mほどで、軒幅は20～40cmである。一部で古い戸間痕跡が重複する様相が確認できることから、幾ね3期の変遷があったものと推測される。戸間の埋土から土師器片が一定量出土している。出土土師器の年代観から、当遺構の時期は9世紀後半～10世紀前半に位置づけられる。また、調査地中央付近で柱穴と思われる小穴2個を検出している。戸間と推測される遺構が検出されたことから、調査地は平安時代には生産城（畠）として利用されていたことが判明した。同様の遺構は、当遺跡の南に隣接する林道路でも確認されており、周辺に畠が広く分布していた可能性が高く、同時期の官衙・胆沢城との関連性が窺われる。

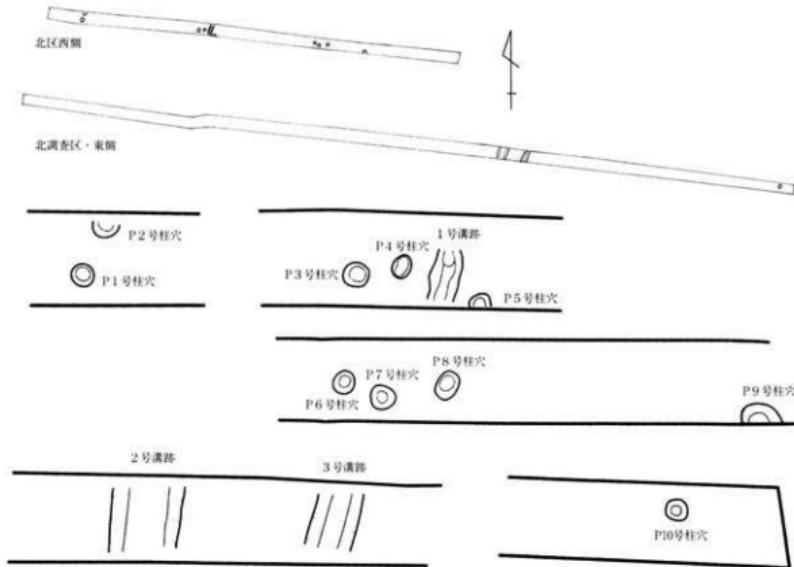


第48図 阿弥陀堂遺跡位置図

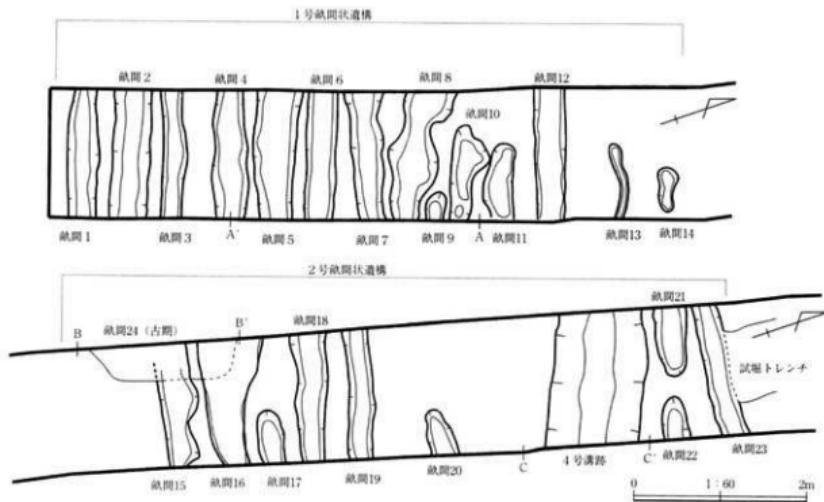


第49図 阿弥陀堂遺跡調査区位置図

<北調査区>

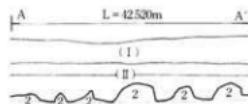


<南調査区>



第50図 阿弥陀堂遺跡検出遺跡

## 1号竪間状西壁

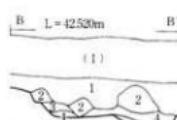


- 1 10YR3-3 喀褐色土 粘性微弱 しまり無  
2 10YR4-3 にふく 黑褐色土 粘性微弱 しまりやや強 第Ⅲ期竪間 面積を幅占ん  
だるもの  
3 10YR3-3 喀褐色土 粘性弱 しまりやや強 第Ⅱ期竪間 黑褐色土 3% 蔓入 +  
土器を含む  
4 10YR2-3 黑褐色土 粘性弱 しまりやや強 第Ⅰ期竪間 土器包含  
5 10YR5-4 にふく 黑褐色土 粘性や強 しまりやや密 レンズ状に埋積している

5層は粘性が強く、白色の粒子が混入している。島の底面も切った何らかの沈殿物である  
がTo付ではない。

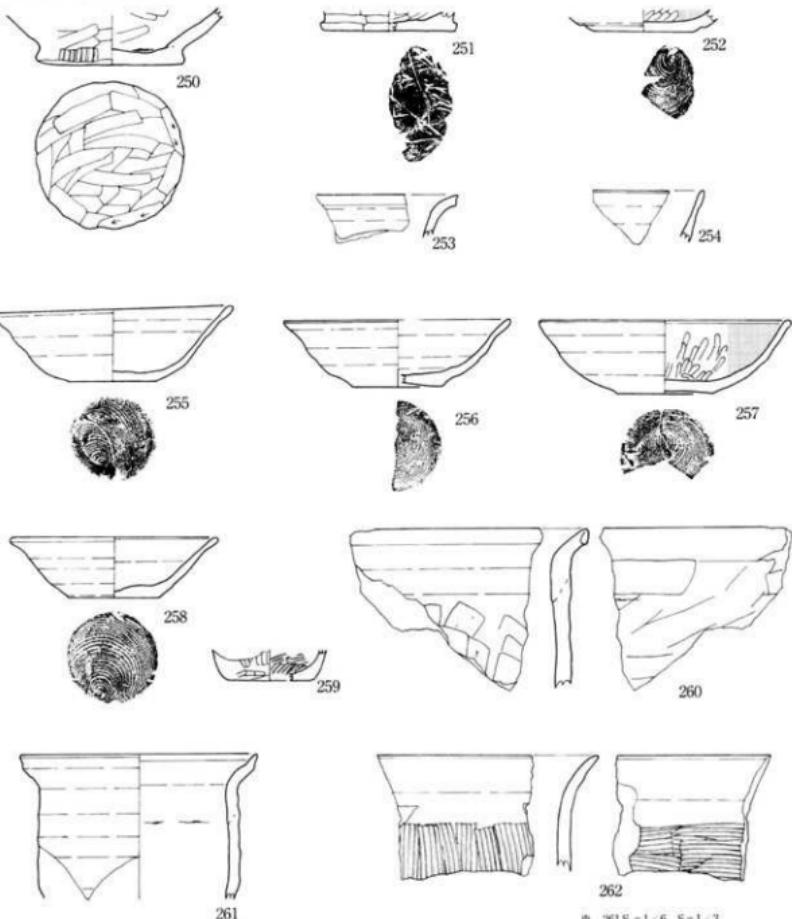
4層は第Ⅰ期の竪間状遺構のウイングである。3層は第Ⅲ期の竪間状遺構、2層は第Ⅱ期の  
鍵で、1層は第Ⅰ期の竪間である。

## 2号竪間状西壁



- 1 10YR3-3 喀褐色土 粘性微弱 しまり無  
竪間堆積層と同一(Ⅱ層)

0 1:60 2m



第51図 阿弥陀堂遺跡検出遺跡・出土遺物

#### 14 経営体育成基盤整備事業江刺西部地区

舟渡 I 遺跡(ME 46-1390)、野沢 II 遺跡(ME 46-2314)

所 在 地：北上市更本地内

事 業 者：県南広域振興局北上総合支局

調査期日：平成22年3月1日(月)～4日(木)

今回の調査は北上市更木新田地区のは場整備事業に係るものである。当事業対象地区における舟渡 I 遺跡および野沢 II 遺跡の発掘調査は勘定手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが実施済であるが、用地の関係等により調査未了箇所があったため、当該部分について当課が約200mを対象として発掘調査を実施したものである。

両遺跡とも北上川東岸の低位段丘面に立地しており、北上川堤防の内側（川側）の水田面に広がっている。調査地は遺跡北側の堤防沿いで、県道西側の水路設置部分（A区）、県道東側の水路設置部分（B区）、新幹線高架橋東側の支線道路および水路設置部分（C区）の3箇所に分かれている。A区・B区は舟渡 I 遺跡、C区は野沢 II 遺跡の範囲に含まれる。現況はA・B区が小規模の水路（U字溝埋設）、C区が畠地である。埋文センターの調査では、古代の遺物を包含する黒色土層、弥生時代の遺物を含む黒褐色土層がそれぞれ確認されているが、今回調査地内では前者は確認されず、後者も部分的にしか見られなかった。現水路および堤防の施工によって削剥されたものと思われる。

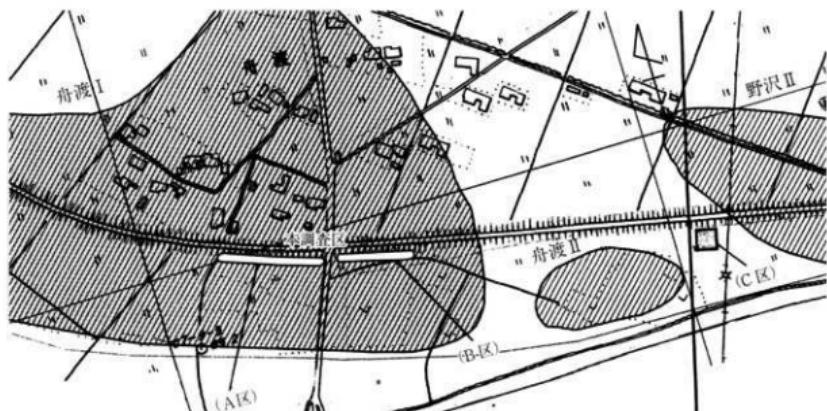
A区は現水路の施工とともに削平されており、表土・盛土の下位でⅢ層が露出した。Ⅱ層は消失しており、Ⅲ層上面では遺構は確認されなかった。C区では新幹線高架寄りの西側1/3程度がⅢ層以下まで搅乱を受けており、残りの部分でも遺構・遺物とともに確認されなかった。

B区でも現水路設置の際の搅乱が入っていたが、Ⅱ層が部分的に残存しており、少量の土器・石器が出土した。Ⅲ層で溝跡4条、柱穴2個を検出した。溝は開口部幅50～70cm、深さ10～20cm、断面逆台形の小規模なものである。大部分が搅乱により破壊されており、ごく一部分を確認したに止まるため詳細は不明である。隣接する3号溝跡と4号溝跡には新旧関係があり（4号が新しい）、全ての溝が同時期存在ではなく時間幅をもっていることが判明した。溝に伴う遺物は出土しなかった。また柱穴は径30cm程で、1号柱穴の埋土から石器製作にともなう剥片が出土した。

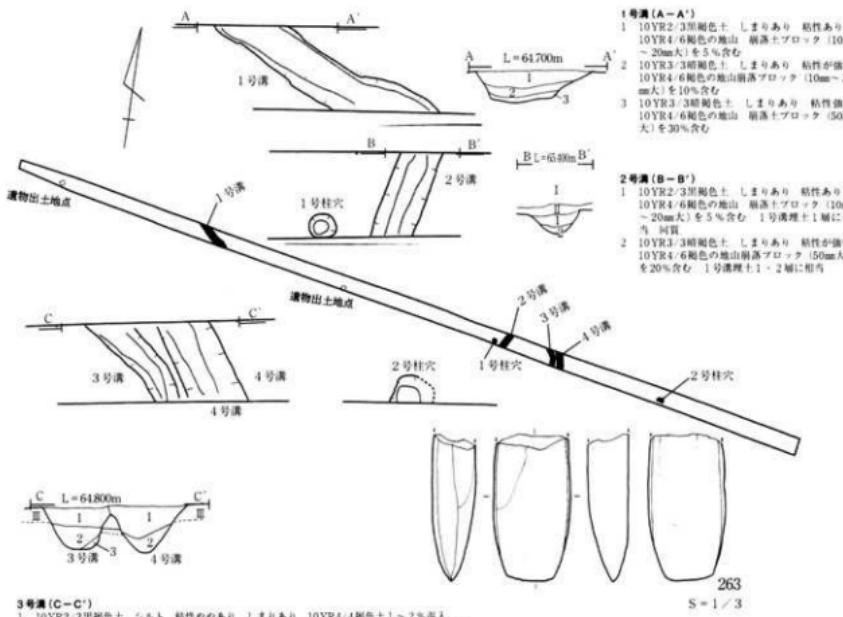
以上、今回調査では少量の遺構・遺物が確認されたが、その時期は不明である。隣接地の調査成果から見て、弥生時代ないしは平安時代に属する可能性が高いと考えられる。



第52図 舟渡 I・野沢 II 遺跡位置図



第53図 舟渡 I・野沢 II 遺跡調査区位置図



第54図 舟渡I遺跡遺構配置図・検出遺構・出土遺物

## 遺物観察表

I上：口縁部 体上：体部上半 体下：体部下半

No.	遺物名	出土地点	層位	器種	部	備考	写真図版
1	白鶴柄 SP-1	壤土	深鉢	体部	上	手縫外縫構造底薄手	8
2	白鶴柄 SN01	壤土	注1	体部		算盤形 三爻	8
3	白鶴柄 SK01	里色土	深鉢	体部		縦付 平行沈縫 入組帶縫(橋)	8
4	白鶴柄 SX01	壤土		スレーブバー			8
5	中平 4号住居跡	理土	柱頭裏	体部		ロクロ未使用 外面：ハケメミガキ 内面：ハケメ	8
6	中平 5号住居跡	理土	上階2、奥	体部		ロクロ未使用 外面：ハケメ(横) 内面：ハケメ(横)	8
7	中平 6号住居跡	理土	上階2、奥	口縁		ロクロ未使用 外面：ケズリ 外面：チヂ	8
8	中平 6号住居跡	理土	上階2、壁構造	体部		外面：ハケメ・略き 内面：ハケメ	8
9	中平 6号住居跡	理土	上階2、奥	口縁	118	ロクロ使用 外面：ナデ 縦付着 内面：ナデ 縦付着	8
10	中平 6号住居跡	理土	上階2、奥	体部			8
11	中平 6号住居跡 朱漆+埋土全部	理土					8
12	中平 6号住居跡	理土	窓枠	原石			8
13	中平 7号住居跡	理土	土器部・环	底部	118	ロクロ使用 同軸系切り無調整 内面黒色処理 横方向ミガキ	8
14	中平 7号住居跡	理土	上階2、奥	底部		本巻瓶 小腰多く含む	—
15	中平 7号住居跡 カマド右袖	土器部・小型器	底部			同軸系切り無調整 内面黒色処理	8
16	中平 7号住居跡	理土	上階2、奥	底部	118	外面：本巻瓶 ナデ 内面：ナデ	8
17	中平 7号住居跡	理土	上階2、小型器	底部	118	ロクロ不使用 外面：ナデミガキ 内面：ナデ	8
18	中平 7号住居跡	理土	土器部	奥			8
19	中平 7号住居跡 カマド	支脚					8
20	中平 8号住居跡	理土	土器部・奥	底部	118	外面：ハケメ・底部	8
21	中平 8号住居跡	理土	上階2、球状器	底部		外面：ミガキ 壁 内面：ミガキ	8
22	中平 8号住居跡	理土	土器部・奥	底部		外面：壁 内面：ナデ 小腰踏着	8
23	中平 9号住居跡	理土	上階2、奥	118	ロクロ使用 外面：ケズリ 内面：ナデ 縮質	5	
24	中平 9号住居跡	理土	上階2、奥	118	ロクロ使用 外面：ナデ 内面：ハケメ	5	
25	中平 11号住居跡	理土	上階2、奥	118	ロクロ不使用 外面：ナデ 内面：ミガキ	5	
26	中平 12号住居跡	理土	上階2、奥	118	ロクロ未使用 外面：ミヤギ 内面：ミヤギ	5	
27	中平 12号住居跡	理土	上階2、奥	118	ロクロ未使用 外面：ケズリ 壁 内面：ナデ 縮質	5	
28	中平 12号住居跡	理土	上階2、奥	118	ロクロ未使用 外面：人全くミガキ 壁 内面：ハケメミガキ 口唇凹線	5	
29	中平 12号住居跡	理土	上階2、奥	118	ロクロ未使用 外面：人全くミガキ 壁 内面：ナデ	5	
30	中平 12号住居跡	理土	上階2、奥	118	ロクロ未使用 外面：人全くミガキ 壁 内面：ナデ	5	
31	中平 12号住居跡	理土	上階2、奥	118	外面：ハケメ 内面：黒色処理 植熱	5	
32	中平 12号住居跡	理土	上階2、奥	118	ロクロ未使用 外面：ミガキ 内面：ナデ	5	
33	中平 13号住居跡	理土下部	土器部・奥	体部		ロクロ未使用 外面：ナデ 内面：ナデ 縮質 小腰踏着	5
34	中平 13号住居跡	理土下部	土器部・奥	底部		ロクロ未使用 外面：ナデ 内面：ナデ 縮質 小腰踏着	5
35	中平 SK2	理土	土器部・奥	底部		ロクロ未使用 外面：本巻瓶 内面：ナデ 小腰含心理質	5
36	中平 S.D.4	理土	土器部・奥	118	口唇部平滑	5	
37	兔田和田 SB01	口唇	深鉢	118	体部	キヤリバ— LR 渡扶降垂	5
38	兔田和田 SB01	口唇	浅鉢	118	底部	LR 剥離面崩	5
39	兔田和田 SB01	口唇	浅鉢	118	底部	LR 膜貼付 波状 溝状	5
40	兔田和田 SB01 日影・黒褐色	深鉢	118			LR 渡扶降垂 附着	5
41	兔田和田 SB01 曙明	理土	深鉢	118		波状突起 壁全体面崩	5
42	兔田和田 SB01 曙明	深鉢	118			波状突起 渡扶降垂	5
43	兔田和田 木輪印 構造口 壁	浅鉢	118			LR 原始面崩	5
44	兔田和田 SH01 重理型	深鉢	118	体部		RL 渡扶降垂 刻目 剥離壁垂状沈縫	5
45	兔田和田 SH01 S100 重理型	深鉢	118	体部		LR 粘土壁垂	5
46	兔田和田 SH01 西周燒接	口唇	深鉢	118		LR 粘土貼付 外面糊付着	5
47	兔田和田 SH01 西周燒接	口唇	深鉢	118		LR 粘土面崩状及精状突起 LR 頭部膨らみ	5
48	兔田和田 SH01 西周燒接	口唇	深鉢	118		LR 粘土貼付 外面糊付着	5
49	兔田和田 SH01 平坦部	口唇	浅鉢	118		LR 陰茎丸状	5
50	兔田和田 SH01 平坦部	口唇	深鉢	118		LR 陰茎丸状 附着	5
51	兔田和田 SH01 平坦部	口唇	深鉢	118		波状沈縫 波状 溝状突起	5
52	兔田和田 SH01 平坦部	口唇	深鉢	118		LR 陰茎丸状	5
53	兔田和田 SH01 平坦部	理土	深鉢	118		楕円貼付降垂	5
54	兔田和田 SH01 平坦部	理土	深鉢	118		LR 粘土波状突起(波彎孔) 庫蓋貼付 壁全体面崩直角 斜切文	5
55	兔田和田 SH01 平坦部	理土	深鉢	体部		LR タンク状貼付 波状崩壊	5
56	兔田和田 SH01 平坦部	口唇	浅鉢	118		原体部面崩直角 構状突起 山形浅縫	6
57	兔田和田 SH01 平坦部	口唇	浅鉢	118		口唇部山形崩直角 構状突起 山形浅縫	6
58	兔田和田 SH01 平坦部	口唇	浅鉢	118		波状凹縫 深曲文 沈縫 剥離文	6
59	兔田和田 SH01(?) 平坦部 下位	深鉢	118			LR 膜貼付 外面糊付着	6
60	兔田和田 SH01(?) 平坦部	理土	深鉢	118		楕円貼付降垂	6
61	兔田和田 SH01(?) 平坦部	理土	深鉢(小型)	118		波状沈縫	6
62	兔田和田 SH01(?) 平坦部	理土	深鉢	118		LR 波状崩壊	6
63	兔田和田 SH01(?) 平坦部	理土	深鉢	118		キヤリバ— 陰茎 刻文	6
64	兔田和田 SH01(?) 平坦部	理土	深鉢	118		RL キヤリバ— 渡扶降垂	6
65	兔田和田 SH01(?) 平坦部	理土	深鉢	118		RL 膜貼付 陰茎	6
66	兔田和田 SH01(?) 平坦部	理土	深鉢	118		キヤリバ— 剥離文	6
67	兔田和田 SH01(?) 平坦部	理土	深鉢	118		陰茎 剥離 文	6
68	兔田和田 SH01(?) 平坦部	理土	深鉢	118		口唇部波状突起(波彎孔) 庫蓋貼付 壁全体面崩直角 斜切文	6
69	兔田和田 SH01(?) 平坦部	理土	深鉢	118		口唇部崩突部 波状崩壊 波状沈縫 LR	6
70	兔田和田 SH02	理土	深鉢	118		剥離引け沈縫(平行、山形)	6
71	兔田和田 SH02	理土	深鉢	118		口唇部突起 壁全体面崩直角 LR	6
72	兔田和田 SH02	理土	深鉢	118		陰茎 壁全体面崩直角	6
73	兔田和田 SH02 S.K.2	理土	深鉢	118		陰茎 壁全体面崩直角	6
74	兔田和田 SH02 理土下部~床面	深鉢	118			精状突起 滑舌沈縫 陰茎	6
75	兔田和田 SH02 理土下部~床面	深鉢	118			キヤリバ— 滑舌沈縫	6
76	兔田和田 SH02 理土	深鉢(小型)	118	体部		LR 陰茎 植位沈縫 渡扶降壊 外面糊付着	6
77	兔田和田 SH02 日影	118	体部			LR 陰茎貼付 キヤリバ—	6
78	兔田和田 SH02 日影	118	体部			RL 陰茎貼付 陰茎	6
79	兔田和田 SH02 理土	深鉢(小型)	体下~底部			RL 小空起 刻目 壁全体面崩直角	7
80	兔田和田 SH02 理土	深鉢	118			見出	7
81	兔田和田 SH02(?) 白粗印	口唇	深鉢(小型)	体下~体下		LR 陰茎貼付 壁全体面崩直角	7
82	兔田和田 SH02(?) 白粗印	口唇	深鉢(小型)	体下~底部			7
83	兔田和田 SH02(?) 白粗印褐色土	口唇	深鉢	118		口唇部肥厚 滑舌粗土指拘 通鶴形山形沈縫文	7
84	兔田和田 SH02(?) 白粗印褐色土	口唇	深鉢	118		RL 壁全体面崩直角 有状突起 口唇肥厚	7
85	兔田和田 SH02OB	理土下部	深鉢	118	体下		2
86	兔田和田 SI2	理土	最晩凹期			管行	2
87	兔田和田 T2	N層	深鉢	118		楕状突起 陰茎 通純波状沈縫	2
88	兔田和田 T2	Ⅳ層	深鉢	118		LR 実行 底全体面崩直角	2

## 遺物觀察票 2

號	遺物名	出土地點	層	器種	部	備考	寫真圖版
98	鹿川和尚	T2	Ⅲ層	浅鉢	口縁	精狀突起 LR (0段多姿) 單体側面直張	7
99	鹿川和尚	T2 開口	Ⅳ層	深鉢	口縁～体下	LR 1段品波状斜付文 窄底 体部些重狀波線	7
101	鹿川和尚	深褐色土	Ⅲ層	深鉢	口縫	精狀突起 方引明く圓沈繩文 円形沈繩文・陰帶	7
102	鹿川和尚	暗褐色土	Ⅲ層	深鉢	口縫	精狀突起 圓形沈繩文	7
103	鹿川和尚	深褐色土	Ⅲ層	深鉢	口縫～体上	口縫部肥厚 LR キヤリバー 陰帶(波状文 满巻文)	7
104	鹿川和尚	深褐色土	Ⅲ層	深鉢	口縫～体上	LR 口縫部第1脚部椎位沈繩 クランク状沈繩	7
105	鹿川和尚	深褐色土	Ⅲ層	深鉢	口縫	波状文・陰帶	7
106	鹿川和尚	深褐色土	Ⅲ層	深鉢	口縫	波状文・陰帶	7
107	鹿川和尚	深褐色土	Ⅲ層	深鉢	口縫～体下	波状文・陰帶	7
108	鹿川和尚	深褐色土	Ⅲ層	深鉢	口縫	皮狀沈繩文・陰帶 逆純底状波線文	7
109	鹿川和尚	深褐色土	Ⅲ層	深鉢	口縫	RL 有脊突起 原体側面直張 满巻沈繩文・陰帶	7
110	鹿川和尚	深褐色土	Ⅲ層	深鉢	口縫	LR キヤリバー 逆純底状波線文	7
111	鹿川和尚	T2	Ⅲ層	最弱的鉢	口縫	1段品波状斜付文 体状斜付 文	7
112	鹿川和尚	Ⅲ層	Ⅲ層	最弱的鉢	口縫	外内斜状斜突起 横方向斜波文地 带	8
113	鹿川和尚	Ⅲ層	Ⅲ層	最弱的鉢	口縫	皮狀沈繩文	8
114	鹿川和尚	平田部	Ⅲ層	最弱的鉢	口縫	風化顯著	8
115	鹿川和尚	平田部	Ⅲ層	最弱的鉢	口縫	風化顯著	8
116	鹿川和尚	平田部附近	Ⅲ層	最弱的鉢	口縫	風化顯著	8
117	鹿川和尚	平田部西半	表土～Ⅲ層	最弱的鉢	口縫	風化顯著	8
118	八幡	T2	深鉢	底部	底部	底部外曲系切り	8
119	八幡	T6	直筒器・裏	部	部		8
120	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	複雑機械文 頸部帶状斜付後押印 地文条痕 硬質鉢粒顔	8
121	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	平行 地文条痕 斜径機械文 硬質	8
122	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫～体下	上汗跡 腹部外側機械文施加 丸東羽状模文 硬質	8
123	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫～体上	波紋鋸 鋸引口縫部(沈繩文) 頸部前日帶 帶状羽状模文	8
124	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫～体上	平行 外反 硬質表面	9
125	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫～体上	小口状横溝帶 口縫部管達波形山形沈繩文 半截竹管指突帶 前日状模文系	9
126	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	部	小口状横溝帶 小口形凹凸捺印 硬質	9
127	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	平行 半截竹管通指突	9
128	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	1段部押印小突起 橢圓	9
129	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	折り返し口縫	9
130	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	折り返し口縫 円形指突 押し引き沈繩文	9
131	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	山形紅印 所々返し口縫に原体側面直張 指突模文	9
132	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	平行 口縫部凹窓 LR	9
133	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	部	条文文 植立捲文	9
134	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	平行 無文	9
135	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	平行 外反 折り返し模文	9
136	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	外反 木目状捲文	9
137	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	体上	半截竹管押し引き文	9
138	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	体部	複合条痕文	9
139	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	体部	複合半截竹管沈繩文	9
140	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	平行 明日状模文系 内外面	9
141	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	部	横幅被捲文 LR	9
142	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	部	複合機械文	9
143	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	折り返し口縫 指突直張机 手半截竹管達波形山形沈繩文	9
144	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	平行 外反 条纹文	9
145	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	山形紅印 工字部側面直目 同心円状模文	9
146	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	平行 外反 木目状模文系	9
147	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	平行 口縫部前日帶貼付 条痕文(複合 橫円)	9
148	下中筋 II	褐色土	1層下部	深鉢	口縫	平行 外反 初日帶貼付 硬質	9
149	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫～体上	平行 複合機械文 硬質	9
150	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	平行 口縫部被模印 LR 硬質沈繩文	9
151	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫～体上	平行 附加条 硬質 紗綿顔	9
152	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫～体上	口縫部被模印 硬質	9
153	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	部	日目条痕文 硬質	10
154	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	部	木状模文系	10
155	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫～体上	凌波口縫 折り返し模文指突付 单脚模文 内面深 硬質	10
156	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	木状模文系 硬質	10
157	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	平行 又状模文 LR 橫幅被捲文 硬質	10
158	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫～体上	口縫部平縁移行 口縫部削目 橫幅被模印竹管条痕文	10
159	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫～体上	平行外反 初日帶 帶状捲文系	10
160	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	複合捲文 LR	10
161	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	部	複合捲文系	10
162	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	押し引き沈繩文 無文	10
163	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	LR 口縫部削目文	10
164	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	小凌波口縫 手半截竹管沈繩文	10
165	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	平行 口縫部被模印 LR 硬質	10
166	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	平行 同心円状模文	10
167	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	複合捲文 無文	10
168	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	平行 又状模文 手半截竹管通指突文 平行沈繩文 複合機械文	10
169	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫～体上	小突起 手半截竹管通指突文 本日状模文	10
170	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	平行 外反 無文	10
171	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	平行 本日状模文 無文	10
172	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	平行 本日状模文 無文	10
173	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	平行 口縫部被模印 LR 硬質	10
174	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	口縫	口縫部内外側被模印 LR 硬質	11
175	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	部	複合模文	11
176	下中筋 II	褐色土	下部	深鉢	部	複合模文	11

## 遺物觀察簿 3

No.	遺物名	出土地点	層位	器種	部位	備考	写真図版	
172	下中居Ⅱ 磨色土	下部	漆鉢	底部	網代灰		11	
178	下中居Ⅱ 磨色土	下部	漆鉢	口縁	網目隠蓋 貼付隠帶間に無い板化文 崩化沈織文		11	
179	下中居Ⅱ 磨色土	下部	漆鉢	体上	LR 半載竹管通指突文 崩化連続山形沈織文		11	
180	下中居Ⅱ 磨色土	下部	漆鉢	体上	半載竹管通指突文 崩化連続山形沈織文		11	
181	下中居Ⅱ 磨色土	下部	漆鉢	口縁	半載竹管通指突文 大いに引形化織文		11	
182	下中居Ⅱ 磨色土	下部	漆鉢	口縁-体上	口縁部-次次突起 漆文系 内外側端付着		11	
183	下中居Ⅱ 磨色土	下部	漆鉢	口縁	木目状無文系		11	
184	下中居Ⅱ 磨色土	下部	漆鉢	口縁	網目状熱糸文		11	
185	下中居Ⅱ 磨色土	最下部	漆鉢	口縁	網目平縁 口縁部円形指突文		11	
186	下中居Ⅱ 磨色土	最下部-下部	漆鉢	口縁	網目状熱糸文 指頭注痕隆起(横條、曲線)		11	
187	下中居Ⅱ 磨色土	最下部-下部	漆鉢	体部	半載竹管(横條沈織文、連続山形文)		11	
188	下中居Ⅱ 磨色土	最下部-下部	漆鉢	口縁	波状縁 大いに同心円状波紋 複数織文		11	
189	下中居Ⅱ 磨色土	最下部-下部	漆鉢	口縁	織文原体側面張(横條)		11	
190	下中居Ⅱ 磨色土	最下部-下部	漆鉢	口縁	口縁部円形指突文 円形指突文帶貼付(幾何学文) 開文系		11	
191	下中居Ⅱ 磨色土	最下部-下部	漆鉢	口縁	口縁部円形指突文 热糸文		11	
192	下中居Ⅱ 磨色土	最下部-下部	漆鉢	口縁	折り返し口縁 RL		11	
193	下中居Ⅱ 磨色土	最下部-下部	漆鉢	体部	LR=熱糸文		11	
194	下中居Ⅱ 磨色土	最下部-下部	漆鉢	口縁	折り返し口縁 LR 織文原体側面張		11	
195	下中居Ⅱ 磨色土	最下部-下部	漆鉢	体部	直瓦状熱糸文		11	
196	下中居Ⅱ B-B上部	2層	漆鉢	口縁-体上	網目隠蓋 網目状熱糸文		11	
197	下中居Ⅱ B-B上部	2層	土器	口縫	半載竹管(沈織文、連続指突文)		11	
198	下中居Ⅱ 磨色土	1層下部	石點		縫型 肉面周縁部加工		12	
199	下中居Ⅱ 磨色土	下部	石點				12	
200	下中居Ⅱ 磨色土	下部	焼松竹製品		縫面平縁		12	
201	下中居Ⅱ 磨色土	最下部-下部	臥骨凹部		肉面に複数の凹部 肢打痕(片側面)		12	
202	下中居Ⅱ 磨色土	最下部-下部	臥骨凹部		肉面に複数の凹部		12	
203	下中居Ⅱ 磨色土	下部	臥骨凹部		碧玉		12	
204	上ノ山	石器	石頭	平面			12	
205	上ノ山	石器	石頭	圓形			12	
206	上ノ山	石器	石頭	圓形	周縁部にメッシュ		12	
207	上ノ山	石器	不定形	片側面に凹凸			12	
208	上ノ山	石器	フレーク				12	
209	上ノ山	石器	不定形	片面に刻線加工			12	
210	上ノ山	石器	フレーク		碧璽石 自然面		12	
211	古城方八丁 SII	埋土	土器器-环	底部-口縁	内黒 切り離し不明		12	
212	古城方八丁 SII	埋土	土器器-环	底部	表内黒 本切り無調整		12	
213	古城方八丁 SII	埋土	土器器-合掌环	底部	内黒 表付高台		12	
214	古城方八丁 SII	埋土	土器器-盖	体部	外:ナデ		12	
215	古城方八丁 SK1-4	埋土	土器器-蓋	底部	内黒 部落調整		12	
216	古城方八 SK2	埋土	土器器-蓋	体部	外:ナデ 内:ナデ		12	
217	古城方八丁 SK2	埋土	土器器-蓋	体部			12	
218	古城方八丁 SK4	埋土	土器器-环	底部-口縁	表内黒 本切り無調整 網粒露著		12	
219	古城方八丁 SK4	埋土	土器器-环	底部	内黒 表切り再調整		12	
220	古城方八丁 SK4	埋土	土器器-环	底部	内黒 表切り再調整(下部)		12	
221	古城方八丁 SK4	埋土	土器器-环	口縁-体上	内黒 ロクロ		12	
222	古城方八丁 SK4-8	埋土	土器器-高台	底部	表内黒 部落調整		12	
223	古城方八丁 SK4	埋土	土器器-裏	口縁-体上	ロクロ 内面深		12	
224	古城方八丁 SK5	埋土	土器器-环	底部	内黒(鏡熱) 表切り再調整		12	
225	古城方八丁 SK8	埋土	土器器-环	底部	外:ケズリナデ 内:ハケメ→ナデ		12	
226	古城方八丁 SK8	埋土	土器器-裏	口縁	外:ナデ 廓 内:ナデ		13	
227	古城方八丁 SK8	埋土	土器器-裏	底部	外:ナデ		13	
228	古城方八丁 SK8	埋土	土器器-裏	体部			13	
229	古城方八丁 SK8	埋土	土器器-裏	体部	外面タキ		13	
230	古城方八丁 SK9	埋土	土器器-裏	体部			13	
231	古城方八丁 SK9	埋土	土器器-裏	体部	外:タキ		13	
232	古城方八丁 SK9	埋土	土器器-裏	体部			13	
233	古城方八丁 SK11	埋土	土器器-环	口縁	内黒 深手 ロクロ		13	
234	古城方八丁 SK11	埋土	土器器-环	底部	外:横ナデ 内:ハケメ→ナデ		13	
235	古城方八丁 SK12	埋土	土器器-环	底部	内黒 表切り再調整		13	
236	古城方八丁 SK12	埋土	土器器-裏	口縁	大きく外脛 弦:ケズリ 内:ナデ		13	
237	古城方八丁 SK12	埋土	土器器-裏	体部	外面ケズリ		13	
238	古城方八丁 SK12	埋土	土器器-裏	体部	外外面タキ		13	
239	古城方八丁 SK13	埋土	土器器-环	底部	表内黒 切り離し不明		13	
240	古城方八丁 SK13	埋土	土器器-环	底部	内黒 切り離し不明		13	
241	古城方八丁 SK13	埋土	土器器-裏	体部	外外面タキ		13	
242	古城方八丁 SK14	埋土	土器器-环	底部	表内黒 本切り無調整		13	
243	林	土器	底面	門形堅石類	底面削削、敲打痕		13	
244	林	土器	土器	口縁	ロクロ		13	
245	林	土器	土器	底部	ロクロ 非内里 底部回転系切り無調整		13	
246	林	土器	土器	底部	ロクロ 非内里 底部回転系切り無調整		13	
247	林	溝	埋土下部	土器器-裏	ロクロ		13	
248	林	缺損状遺構	埋土	土器器-环	ロクロ 表内里		13	
249	林	南側	褐色54cm上面	陶鉢器	体部	発付け?		13
250	阿佛院堂 北区 KSD1	埋土	土器器-裏	底部	外:ハケメ→ナデ 内 ナデ		13	
251	阿佛院堂 北区 KSD1	埋土	土器器-裏	底部	木葉痕		13	
252	阿佛院堂 北区・東側外	地山直上	土器器-環	底部	ロクロ 内黒 表切り無調整		13	
253	阿佛院堂 北区・東側外	地山直上	土器器-裏	口縁	ロクロ		13	
254	阿佛院堂 北区・東側外	地山直上	土器器-裏	口縁	ロクロ		13	
255	阿佛院堂 北区・東側外	地山直上	土器器-环	底部-口縁	ロクロ 内黒(被熱) 表切り無調整		13	
256	阿佛院堂 北区・東側外	地山直上	土器器-环	底部	ロクロ 内黒(被熱) 表切り無調整		13	
257	阿佛院堂 北区・東側外	地山直上	土器器-环	底部	ロクロ 内黒 表切り無調整		13	
258	阿佛院堂 北区・東側外	地山直上	土器器-环	底部-口縁	ロクロ 内黒(被熱) 表切り無調整		14	
259	阿佛院堂 北区・東側外	地山直上	土器器-小形罐	底部-体下	表ロクロ 内表面黒色斑状 ミガニ		14	
260	阿佛院堂 北区・東側外	地山直上	土器器-裏	口縁-体上	ロクロ 表ナデ 内 ナデ		14	
261	阿佛院堂 北区・東側外	地山直上	土器器-裏	口縁-体上	ロクロ 外 ナデナデ 内 ナデ		14	
262	阿佛院堂 北区・東側外	地山直上	土器器-裏	口縁-体上	ロクロ 外 ナデナデ 発ナデ 内 ハケメ 外反		14	
263	寺瀬1号墓 A地点				基部欠損		14	

## II 試掘調查



## 1 経営体育成基盤整備事業 南下幅北部地区

石田 I・II 遺跡 (NE15-2308) 北西側部分

所在地：奥州市胆沢区南都田字石田地内、字沢田地内  
事業者：県南広域振興局農林部

調査期日 平成21年3月10日(水)～11日(木)

調査区域はJR東日本東北本線水沢駅から西方約3.5kmに位置し、胆沢扇状地内の標高約68m前後の水沢高位段丘上に立地している。現況は水田である。本調査は経営体育成基盤整備事業南下幅北部地区の工事に伴い実施したものである。

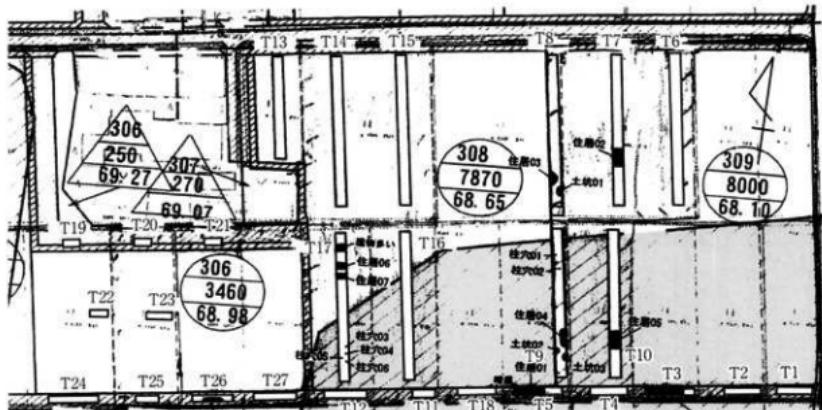
トレンチは27本設定した。土層は各地点によって異なり、最大4層に細分される。調査範囲の北西側 (KT19～27)において、表土直下にⅢ層礫層が確認できる。また、Ⅱ層の層厚も地点によって異なっており、KT6～10付近においては厚く堆積する。Ⅲ層以下はグライ化が著しく、砂質土または砂を主体とし、60～80cmを越えると湧水する部分もみられた。遺構検出面はⅡ層上面と考えられたが、遺構埋土が類似し検出が難しいこともある。

遺構はKT5、7～10、27で検出した。KT5、7、8、9、26ではⅡ層で竪穴式住居跡を検出した。KT5の住居跡埋土には多くの炭化物片、白色火山灰 (To-a?) が混入する。KT7では住居跡埋土中に多量の土師器片、琥珀小片が混入する。KT8では住居跡埋土からほぼ完形の土師器が、KT10では土師器甌が出土した。KT17では住居跡のはか、径30cmの円形状柱穴を4基検出した。

調査結果から、本遺跡内から道路外北側及び西側に古代の集落跡が広がることが判明した。



第55図 石田 I・II 遺跡位置図



第56図 石田 I・II 遺跡調査区位置図

## 2 北上川中流部治水対策事業（立花地区）

立花館遺跡（ME66-1263）

所在 地：北上市立花5地割内

事 業 者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査期日：平成21年5月7日（木）

本遺跡は北上市役所の東方向約2kmに位置している。調査区域は北上川左岸の標高約58mの低位段丘西縁上にあり、展勝地運動公園に隣接する部分である。今回の調査は北上川中流部治水対策事業に伴い実施したものである。調査範囲は立花館遺跡南西端に位置し、段丘縁から段丘崖にかけて南北に細長い部分である。

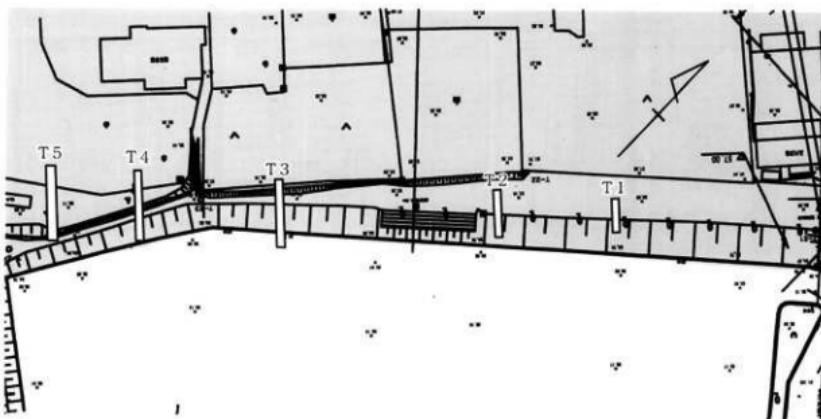
基本土層は8層に区分される。段丘面上と段丘崖に相当する斜面上では層相が異なり、段丘面上では上位からI～III、IV、VII層が、段丘崖ではI～V層が確認される。III層は縄文晩期の包含層である。段丘崖部分のV層では含水比が高くなり、約2m深度でも地山が確認されない。

トレンチは5本設定した。最南端T1の段丘面上では厚さ10cmのIII層下位にVI層が確認された。III層は段丘崖にかけて厚くなり、縄文晩期の土器片と剥片が出土した。本層ではごみ焼穴等の現代の擾乱が確認された。VI層では縄文時代の遺構は検出されない。段丘崖部分ではI～V層が確認され、III層から土器片等が出土した。T2～T3はさらに北側に設定し、T1と同様な堆積状況である。T4の段丘面上ではIV層が分布し、部分的に塊状肌色火山灰を含む。この場所は沢尻の地形等が存在することが推測された。T5は最北端にあり、III層は分布せず、VII層砂礫層が観察された。遺物の出土はしない。

調査結果から、縄文時代晩期の遺物包含層が検出された。住居跡の遺構は検出されなかつたが、一般的な遺跡内の遺構分布の傾向から推測すると、VI層が分布するT1からT4付近の範囲で土坑等の遺構が検出される可能性が高い。



第57図 立花館遺跡位置図



第58図 立花館遺跡調査区位置図

### 3 東北横断自動車道釜石秋田線新直轄事業

落合2区I遺跡 (ME 38-0293) 及び隣接地

所 在 地：花巻市東和町落合2区57地内他

事 業 者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長

調査期日：平成21年5月21日(木)

本調査はJR土沢駅の南約1.5kmに位置している。調査区域は猿ヶ石川支流の毒沢川左岸に形成された標高約125mの西向きの緩斜面上に立地している。今回の調査は、東北横断自動車道釜石秋田線（遠野～東和間）建設事業に伴い実施したものである。現況は山林である。調査範囲は本遺跡の南側に該当している。

調査区内14箇所にトレーニングを設定した。基本土層は3層に分層され、表土がほとんど残存していない部分もある。調査区の处处々に花崗岩の巨大な礫が露出している。

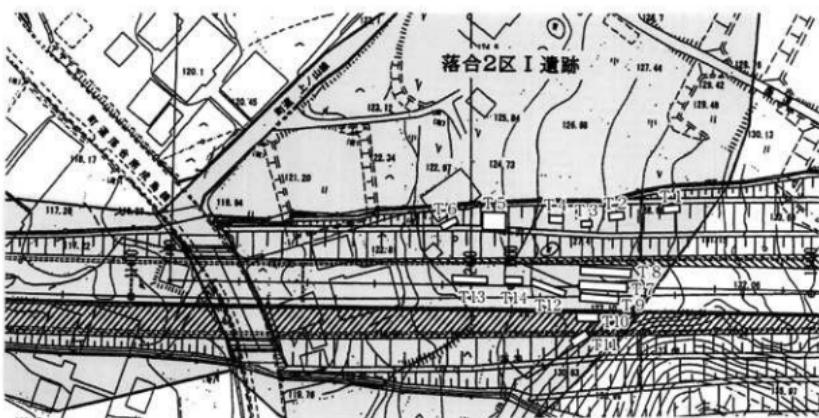
基本土層はT1～T4、T7～T9、T14ではI、II、IIIa層で構成される。T7のIIIa層上面で径1m程度の円形の土坑1基とT9で2基確認した。土坑内の埋土から縄文時代晩期の土器片が出土している。T12では遺構は確認されなかったが土器片が出土している。T2では土器片を表面採集している。T1～T4では遺構は確認されなかったが、遺構が検出されたT7・T9と同様の土層が観察される。

T5・T6、T10～T13では、遺物包含層であるII層が欠落しているが、I層直下でグライ化した地山のIIIb層を確認した。当該トレーニングの設定地区は湧水が見られること、地山がグライ化していること及び谷地形が見られることから、この範囲には遺構の分布の可能性はないと思われる。

以上のことから、II層が分布する範囲に遺構が存在する可能性が高いことから、遺構の分布範囲が東側に広がる可能性がある。



第59図 落合2区I遺跡位置図



#### 4 村道城内二又線改良舗装事業

中平遺跡 (JG60-0258)

所 在 地：野田村大字野田第22地割地内

事 業 者：野田村

調査期日：平成21年7月9日(木)

本遺跡は野田村役場の南西1.8mに位置している。調査区域は北上高地東端から半島状にのびる標高60~25mの台地上にあり、北側を平清水川に、南側を泉沢川に限られる。現状は宅地及び畠地である。

本調査は村道城内二又線改良舗装事業に伴い調査を実施したものである。調査範囲は拡大された野田堅穴遺跡内中央西端から東端にかけて線上につらなる部分である。

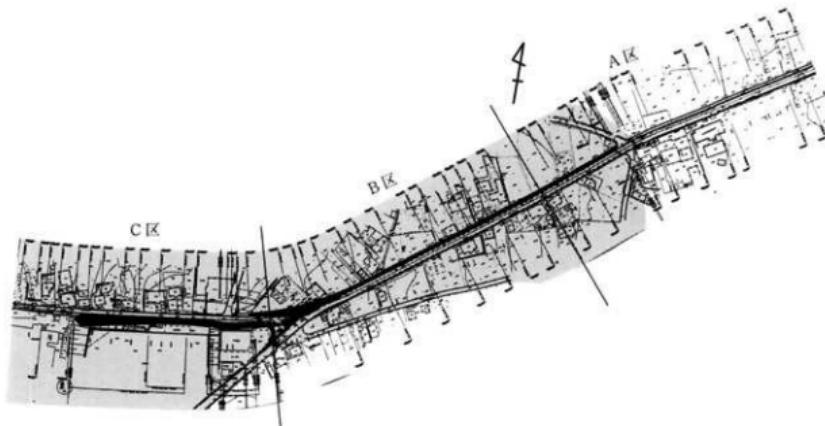
基本土層は4層に区分される。全体的に宅地及び耕作地造成により地形改変が行われたため本来の土層が失われている。Ⅱ層旧表土は宅地内の盛土された部分などわずかに残っている程度である。

トレンチはT4~T9の6本設定した。T4・T5・T9では農業用給水管埋設による擾乱がトレンチ長辺方向にはほぼ平行して（現道と平行）確認された。T6は民家庭部分に設定した。地表面から約70cm下位でIV層地山を確認した。本層上面で北側に広がる円形状の焼土状遺構を検出した。直径は約40cmで、周辺から土師器片が出土した。住居跡の炉跡の可能性がある。T8は民家跡地に設定した。トレンチ中央付近で、トレンチに直交する溝状遺構及び規模15cmの四角形の柱穴を検出した。溝跡は幅45cmで、暗褐色土、褐色土、黄褐色土が混ざった埋土である。

調査結果から、本調査範囲では古代の遺構及び遺物が確認され、集落跡が広がると推測される。



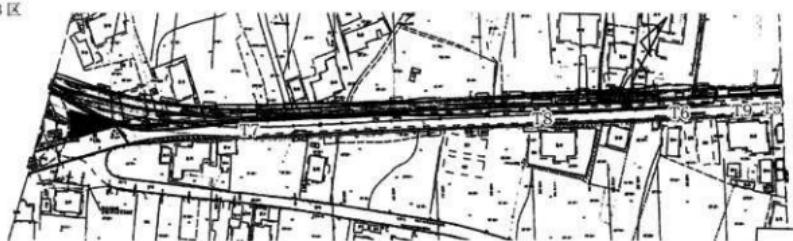
第61図 中平遺跡位置図



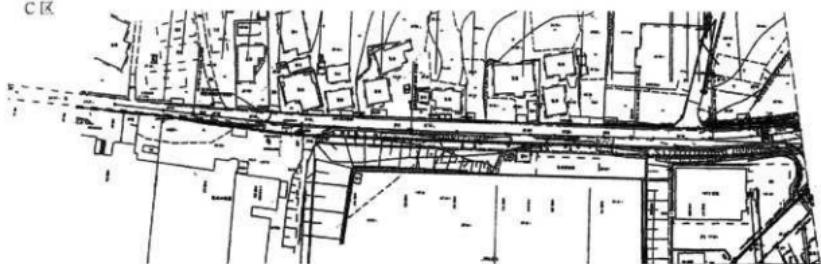
A区



B区



C区



第62図 中平遺跡調査区位置図

## 5 盛岡地方家庭簡易裁判所庁舎増築工事

盛岡城遠曲輪跡 (LE16-0355)

所在地：盛岡市内丸2番1号ほか

事業者：最高裁判所事務局経理局

調査期日：平成21年8月28日(金)

盛岡城跡はJR盛岡駅から東役1kmの盛岡市街中心付近、北上川とその支流である中津川・零石川との合流点付近の花崗岩台付近地盤に立地している。慶長～寛永年間にかけて築城された南部氏の居城である。城域中心部である「御城内」は本丸・二の丸・三の丸・腰郭等からなり、西側は北上川旧河道、南側は中津川によってそれぞれ区切られ、北・東側には堀が普請されている。(昭和12年 国史跡指定)。御城内の周辺には重臣の居住地である「外曲輪」、町人居住地である「遠曲輪」が形成されている。

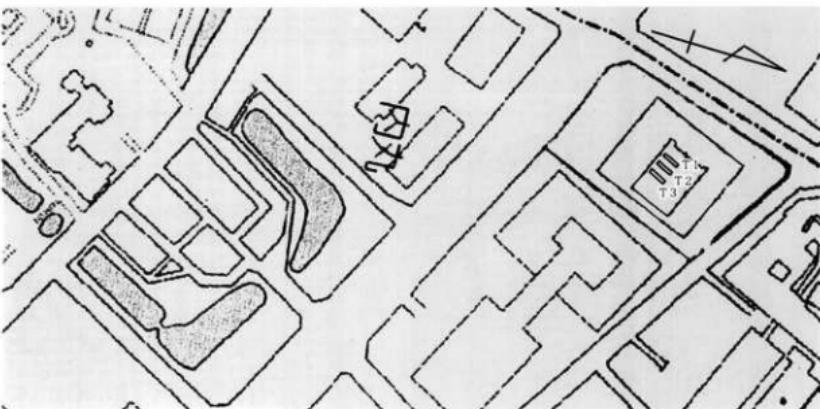
今回の調査は盛岡地方裁判所の庁舎増築に先立つものであり、裁判所敷地内の駐車場として利用されている297m<sup>2</sup>を対象にした。なお、遺跡データベース上の登録は「盛岡城遠曲輪」となっているが、裁判所を含む一帯は「外曲輪」地区にあたるものと思われる。調査地全面がアスファルト舗装されているため、調査は、事業地内にトレレンチ3箇所を事前に設定し、アスファルトを切除する形で実施した。調査の結果、各トレレンチともに北側ふるい建物のコンクリート基礎が複数残存しており、瓦礫が埋められていた。基礎が撤去できなかつたため、掘削作業可能な箇所で確認したところ、古期建物による擾乱および瓦礫層は地表下0.5～1m程度に及んでおり、T3ではIV層まで達していた。

一方、各トレレンチの南側では比較的擾乱は少なく、II層(黒色土)の厚い堆積が認められた。T1では、III層下位面(現地表-1.2m)で溝跡1条及び柱穴1個を検出した。溝の上幅は50～60cm、長さは2.5m(確認部分)である。また柱穴1個(径20cm)は溝と重複しており、より新しいものである。いずれも埋土はII層起源の黒色土である。T2では梢円形の土坑と推測される暗褐色土が広がり(径60×50cm)が1箇所検出された。検出面はIII層下位面(現地表-1.2m)である。これらの遺構にともなう遺物は確認されず、具体的な時期は不明である。トレレンチ内の堆積層からは、擾乱層から肥前産染付皿の破片(近代以降)が出土した以外、遺物は出土しなかつた。

調査の結果、溝・柱穴・土坑が検出され、調査地の南側に遺構が存在していることが判明した。また北側では遺構は検出されなかつたが、建物基礎および擾乱により部分的な確認しかできなかつたことを考慮すれば、未確認部分に南側同様に遺構が存在している可能性がある。遺構の時期については判断材料が乏しいため明確にできないが、近世・盛岡城期ないしは中世期に属するものである可能性がある。



第63図 盛岡城遠曲輪跡位置図



第64図 盛岡城遠曲輪跡調査区位置図

## 6 北上川中流部治水対策事業

立花南遺跡（ME66-2128）

所在 地：北上市立花10地割、12地割地内

事 業 者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所  
調査期日：平成21年9月7日(月)

立花南遺跡はJR東北本線北上駅の東約0.7km、北上川左岸の谷底平野に所在する。遺跡は珊瑚橋付近から南側に伸びる自然堤防状の微高地面に広がっており、調査地はその北西から中央付近の縁辺部にある。今回の調査は北上川築堤に係るもので、事業計画に含まれる遺跡範囲の14,500m<sup>2</sup>のうち、現状で試掘可能な約4,300m<sup>2</sup>を対象とした。調査地は南北に分かれしており、現状は原野・畠地である。なお調査対象地のうち、南側北端の畠地では小屋が現存するため調査できず、調査未了となった。

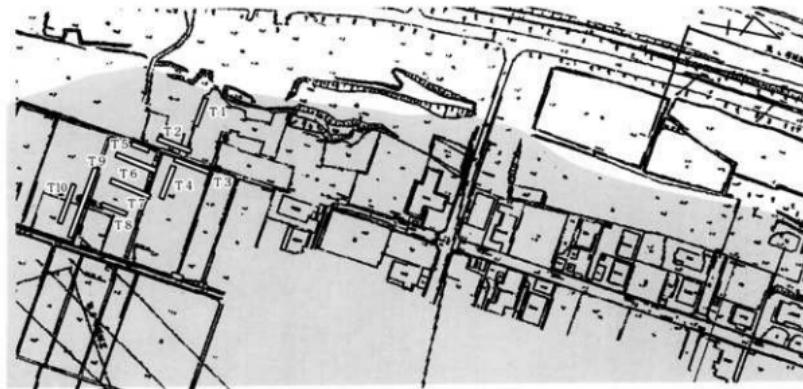
南側には10箇所にトレンチを設定した。T1・2・5・6・9では、南西への地山の落ち込み（微高地縁辺部）と洪水堆積による厚い褐色砂質土層（Ⅱ層）が見られた。（T1では現地表-4.5mでグライ化した地山層）。一方、微高地面上では現地表面から0.6~2.0m下で明黄褐色の地山（Ⅲ層）となる。T9では地表下0.6~0.8mで溝跡（幅70cm、確認長15m）を検出した。またT10の地表下1.5mでは土師器片が密集して出土した。南側ではT10を除いて遺物は出土しなかった。

一方北側にはトレンチ9箇所を設定した。南側と同様に、西側へのⅢ層の落ち込みと厚い洪水堆積が見られた。原野に設定したT12・14・15の東側で微高地縁を確認しており、T14の地表下1.1mで火山灰ブロックを含んだ暗褐色土の広がりを検出し、埋土から微小な土師器片が出土した。平安時代の堅穴住居跡と推測される。宅地跡に設定したT16~18では、厚い盛土がなされており、Ⅲ層が地表下1.8mに落ち込んでいた。南側の畠地のT19でも同様に、洪水堆積層下で地山の落ち込みが見られたことから、この部分は既に旧河道の中にあたると推測される。北側ではT14を除いて遺構・遺物は確認されなかった。

調査の結果、検出された遺構及び地形的要因から、T16~19周辺部分を除いた調査地が遺跡範囲内であることを確認した。調査では自然堤防状の微高地面に平安時代の集落跡が遺存していると推測される。遺跡の主体はより標高の高い東側にあると考えられる。ただし、特に北側では調査面積が少ないため、今回調査では遺跡範囲の一部の確認に止まった。詳細な遺跡範囲を確定するには、今回調査未了部分ならびに未買収地についての試掘調査が必要である。



第65図 立花南遺跡位置図



第66図 立花南遺跡調査区位置図

## 7 一般国道渋民バイパス工事改築工事

芋田沢田VI遺跡 (KE47-2207)

所 在 地：盛岡市玉山区芋田沢田地内

事 業 者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所

調査日：平成21年9月24日(木)

今回の調査地点はIGR岩手銀河鉄道好摩駅の東約1.2kmに位置し、姫神山から延びる小起伏山跡地の縁辺部、標高203m前後の西向き斜面上に立地している。当遺跡から400m南西の丘陵上部には芋田沢田VI遺跡が所在している。今回の調査は一般国道4号渋民バイパス建設事業に伴い実施したものである。現状は原野である。

トレチは事業予定範囲に計4本設定した。T1では径80cm前後の土坑、T3では長軸2m以上、幅35cmも溝状の陥し穴がそれぞれ1基確認された。T1～T3で径25～30cm程度の柱穴が確認されており、T3で確認された柱穴は埋土の状況から陥し穴の前に掘り込まれている様子が観察された。土坑・陥し穴の埋土にはスコリアが含まれている。形態等から縄文時代中末期から後期にかけて遺構になるものと考えられている。

なお、未買収による調査未了部分については、すでに削平されているため、今後の調査は不要と判断される。全てのトレチで、遺物は確認されなかった。

以上のことから今回の調査範囲では遺物を確認することはできなかったものの、発掘調査を必要とする遺構が広がるものと判断される。



第67図 芋田沢田VI遺跡位置図



第68図 芋田沢田VI遺跡調査区位置図

## 8 経営体育成基盤整備事業 古城2期地区

八反町遺跡（旧可能性あり⑤、後に遺跡範囲拡大）

所 在 地：奥州市前沢区古城字丑ノ子地内

事 業 者：県南広域振興局農林部

調査期日：平成21年11月24日(日)～26日(木)

本調査範囲は奥州市役所前沢総合支所の北東方向約4kmに位置する。北上川及び明後沢川により形成された微高地上にある。現況は標高31～33mの水田及び畑地である。本調査は経営体育成基盤整備事業古城2期地区の工事に伴い実施された。

基本土層は4層に区分される。地形変更により本来の土層が多く失われている。Ⅲ層地山は民家が集中する範囲では黄褐色土～砂礫層で、その周辺の水田部分は灰色土、青灰色土等の含水比の高い土層が広がる。検出された遺構は民家分布範囲縁辺を削平し、耕作地にした部分で確認される。

トレンチはT1～T113を設定した。T25では溝跡2条、柱穴2個を検出した。民家北側の草地で、北側に緩く傾斜する。幅は約1mと0.4mで埋土はともに暗褐色土である。前者の埋土から土器片が出土している。柱穴は径30～40cmで、暗褐色土の埋土に焼土粒や炭化物片が含まれる。T99では畑耕作土下位で長軸2.3m幅0.6mの陥し穴状の土坑を1基検出した。赤褐色土が埋土である。

調査の結果、現集落範囲内及びその周辺で①遺構が検出されること、②遺物が出土することから本調査範囲には古代を主とする遺跡が広がることが推測される。



第69図 八反町遺跡位置図



第70図 八反町遺跡調査区位置図

## 9 経営体育成基盤整備事業古城2期地区

高殿II遺跡（新規遺跡 旧地点4）

所在地：奥州市前沢区古城地内

事業者：県南広域振興局農林部

調査日：平成21年9月24日（木）

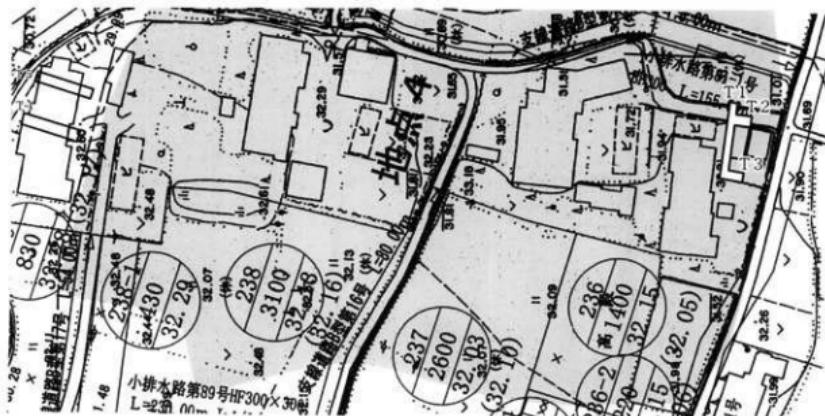
本調査位置は奥州市役所前沢支所の北東方向約3kmに位置している。調査範囲は、南側を寺領川により限られる標高約32mの微高地に立地している。北上川の氾濫等による網状流で島状に残った部分と推定される。

本調査は経営体育成基盤整備事業に伴い調査を実施したものであり、平成20年度の試掘調査で耕作物が未収穫であったことから改めて試掘調査を実施したものである。

基本土層は3層に分層される。従前の農地造成等の土地変更により多くは本来の土層が失われている。トレンチは5箇所に設定し、T1～T3は④に、T4～T5は調査区⑤に設定した。T1ではⅢ層明黄褐色土で柱穴状造構を2基、T2では4基検出した。形状は楕円形または四角形で、直径20cm～50cmである。埋土は暗褐色土または黒褐色土で、後者の埋土からは土器片が出土している。T4では溝跡4条を検出した。幅20cm～70cmで、幅の狭い溝跡は北西方向に、幅の広い溝跡は東西方向に延びている。埋土はいずれも黒褐色土で、幅の狭い溝跡の埋土からは土器の碎片と炭化物片が出土している。調査結果から本調査区から造構遺物が確認されており、保護の対象とすべき新規の遺跡として登録する必要がある。



第71図 高殿II遺跡位置図



## 10 経営体育成基盤整備事業古城2期地区

中烟城跡 (IF82-1031 旧隣接地)

所 在 地：奥州市前沢区古城地内

事 業 者：県南広域振興局農林部

調査日：平成21年11月26日(木)

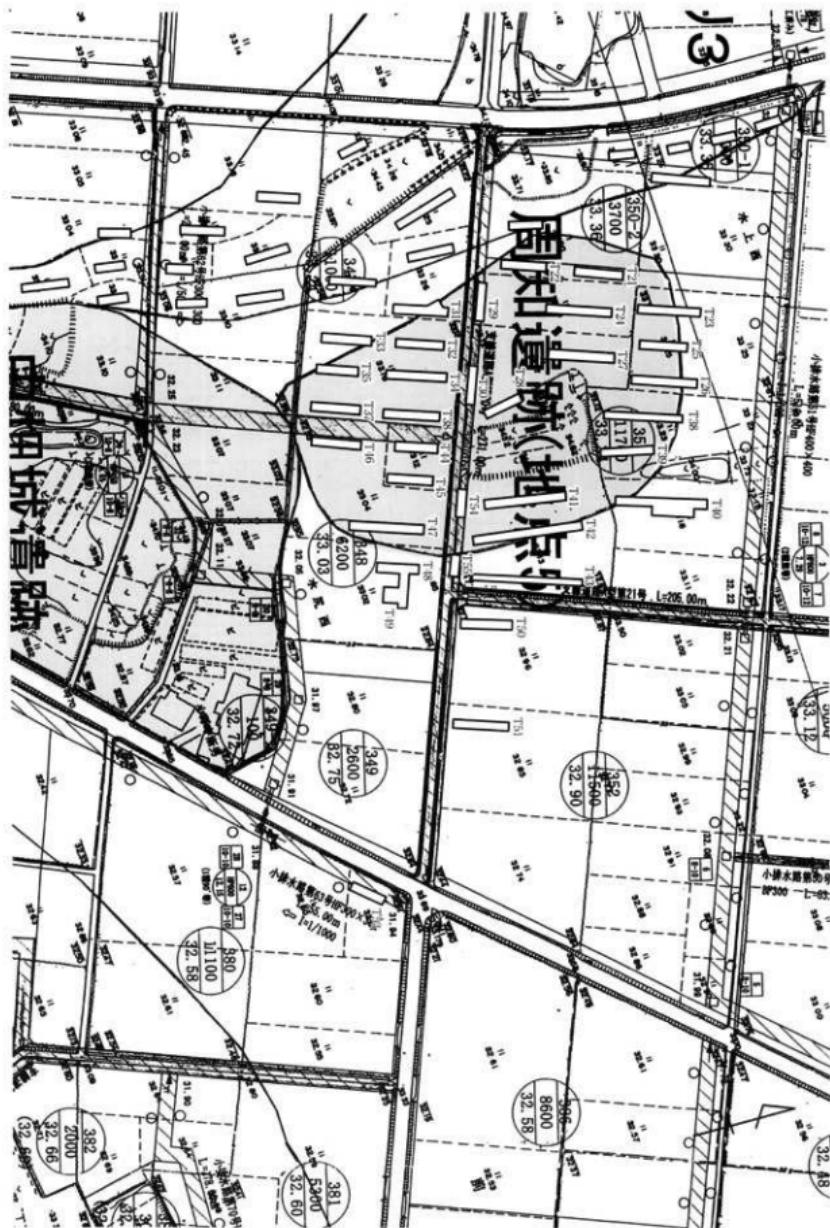
今回の調査は奥州市前沢区のほ場整備事業（古城2期地区）に係るもので、調査地は分布調査により埋蔵文化財包蔵地と想定された範囲である（遺跡名称は未命名）。JR東北線陸中折居駅の2kmほど南、北上川右岸の中位段丘面上に立地している。現況は大部分が水田で、一部の微高地が宅地・畠地として利用されている。遺跡想定範囲を中心にトレンチ31箇所を設定した（T21～51）。なお調査の課程で当初想定した遺跡範囲外でも遺構・遺物が検出されたことから、遺跡範囲はさらに北東側に拡大することが判明し、範囲確認のため東側田面にも追加でトレンチを設定した（T52～55）。

T42で土坑1基・柱穴1個、T43で柱穴6個・水路跡1条、T49で柱穴3個・溝1条・水路跡1条、T50・51で土坑1基・柱穴2個・溝1条を検出した。柱穴は径30～50cmで、トレンチ内では組み合う柱穴は検出されなかつたが、建物跡を構成するものを含む可能性がある。T49の土坑は径80cm弱の円形、埋土は黒褐色である。水路跡は埋土が黒褐色土のものと砂質土により被覆されるものに分かれ、前者のT43では美濃産陶器（16世紀後半の皿、17世紀の志野向付）、後者のT49では底面付近で土師器と須恵器の小破片がまとまって出土した。遺物はT43のⅡ層で土師器小片や陶器片（近世）、T52の礫層面で土師器・須恵器の破片が出土した。検出遺構のうち、水路跡については出土遺物からみて中世のものが含まれると考えられ、南側の中烟城跡との関連性が窺われる。一方、柱穴・土坑にともなう遺物は出土しなかつたため所属時期は明らかではないが、周辺の出土遺物からみれば古代以降のものである。なお、T30・39・37で土坑・柱穴状のプランが検出されたが、形状や埋土の様相から耕作による擬似現象と判断して遺構とは認定しなかった。

遺構・遺物の確認地点は遺跡想定範囲の東側に偏っている。当該部分の地山はグライ化していない砂質土（一部は礫混じり）であり、前回のは場整備で削平された微高地部分だったと思われる。一方で西側では黒褐色の粘質土とグライ化した粘土層が確認されており、ほ場整備前の原地形が湿地状（後背湿地）を呈していたと想定される。



第73図 中烟城跡位置図



第74図 中烟城跡調査区位置図

## 11 経営体育成基盤整備事業徳田第2地区

風張遺跡 (LE47-1169)

所 在 地：紫波郡矢巾町徳田7地割地内

事 業 者：盛岡地方振興局農政部農村整備室

調査期日：平成21年10月6日(火)、11月30日(月)

今回の調査地点はJR矢巾駅の南東約3kmに位置し、北上川右岸の段丘に形成された標高103m前後の微高地に立地している。今回の調査は徳田第二地区における経営体育成基盤整備事業に伴い実施したものである。現況は水田及び畑地である。

トレンチは調査依頼範囲及び拡張が必要と判断された範囲に計55本設定した。

基本層序のうちⅢ層は町道風張柳原線沿いには確認されず、町道から離れるにつれて確認される。一方、Ⅱ・Ⅳa層はリンゴ畑周辺と町道沿いには確認されるが、それそれから離れるにつれて確認されなくなる。なお、調査地点周辺はかつて土取りが行われていたとのことである。

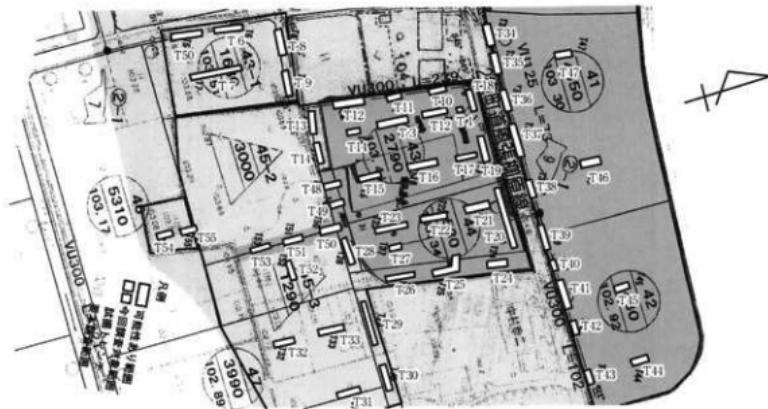
遺構については、T20で平面形が方形基調の住居跡2棟及び平面形が円形基調の土坑2基を、T48で住居跡2棟を、T49・T50で土坑をかく1基検出した。規模については部分的な検出のため不明である。T48の住居、T50の土坑周辺には焼土ブロックが含まれる。T48の住居跡はさらに1棟重複する可能性がある。また、T20のトレンチ南側は土取りに伴う搅乱により遺構自体も削平されている。

遺物はT16で須恵器甕片、T20で繩文土器及び土師器片、T38・T48・T49で土師器甕片を確認した。ただし、須恵器甕片はⅢ層の盛土中から確認されたものである。繩文土器は住居跡1から見つかったもの、住居跡の平面形と遺物の時期が合致せず、流れ込みによるものと考えられる。また、T38の遺物包含層はトレンチ南側で確認されており、北側は土取りに伴う搅乱されている。

以上のことから、今回調査範囲周辺には土取りによりかなりの部分破壊を受けているものの、古代を中心とした遺跡が広がることが明らかとなった。



第75図 風張遺跡位置図



## 12 経営体育成基盤整備事業 下矢次地区

高畠遺跡（L E 46-0301）及び隣接地

所在地：矢巾町下矢次第1地割柳原地内

事業者：盛岡地方振興局農政部

調査期日：平成21年10月13日(火)～14日(水)、11月9日(月)

本遺跡はJR矢幡駅の北約1.3kmに位置し、赤林山によって形成された扇状地の扇端部に立地する。標高は115m前後を測り、現況は水田・畑地・宅地である。今回の調査は経営体育成基盤整備事業下矢次地区に係るものである。調査範囲は現況住宅と都市計画道路により除外となる範囲を除いたほぼ全城である。

トレンチは80本設置した（T 1～T 80。なお、トレンチ配置図中ではTは省略）。基本土層は最大6層に区分される。調査区北側のT 69～T 80はV層で洪水等による堆積の様子が観察され、かつⅡ層で植物根を多量に含む暗褐色粘土が確認される。以上のことから、調査区北側の範囲は低湿地状を呈していたものと推察される。

調査区南側のT 1～T 68ではT 21～T 23、T 34～T 38の範囲は微高地が残る。周縁に向かうにつれ標高を減じてゆき、T 1～T 20、T 28～T 33、T 42～T 68が設定された範囲は低地になるものと推察される。

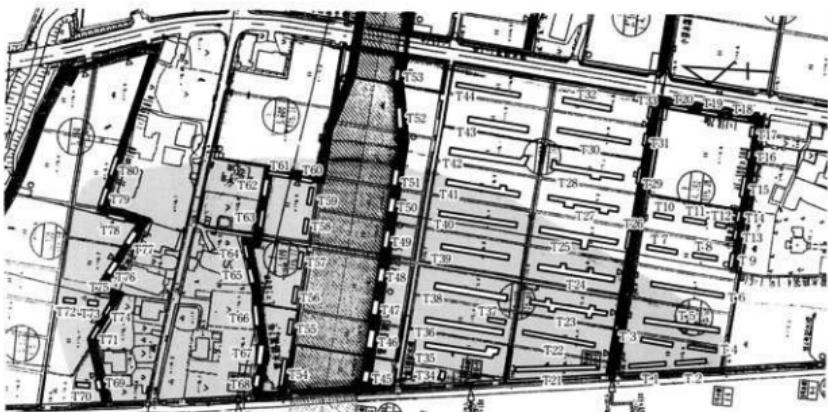
遺構はT 21、T 23～T 25、T 27、T 35～T 37、T 40、T 41、T 46であわせて土坑を6基と柱穴35個、溝跡9条を確認した。うちT 36の柱穴2個は掘り形を伴う。径60cm程度の大きさである。T 35・36の柱穴の間尺は概ね1.8mを計り、その規模や配置からみて、掘立柱建物（正方形か）を構成する可能性が高い。時期は、形状・規模から古代に属する可能性あるものと推測される。上記以外の柱穴は径40cm前後を計るものが多い。溝は幅30～100cmを測るが、40cm前後を測るものが主体である。土坑は径60～200cmを測る。

遺物は、遺構埋土中からは出土していないが、T 25で軒丸瓦と推定される破片1片、T 46で土師器小片、T 54で須恵器壺の破片が出土している。

以上のことから、今回の調査範囲では古代の遺構・遺物が広がることが推定される。



第77図 高畠遺跡位置図



第78図 高畠遺跡調査区位置図

### 13 基幹農道整備事業夏川3期地区

石崎貝塚 (OE58-1002)

所在地：一関市花泉町永井字西狼ノ沢地内

事業者：県南広域振興局一関総合支局土木部

調査期日：平成21年10月15日(木)

今回の調査地点はJR油島駅から南東約3.3kmに位置し、仙北湖沼地帯の北縁形成された樹枝状に張り出す丘陵の先端部に立地する。標高は12m前後である。今回の調査は夏川3期地区における基幹農道整備事業に伴い実施したものである。現状は原野である。

トレチは調査依頼範囲に計7本設定した。基本層序は上記のとおりであるが、Ib層はT1・T2・T3北端のみで確認される。周辺地形の状況を考え合わせると、盛土によって現地形を形成していると判断される。

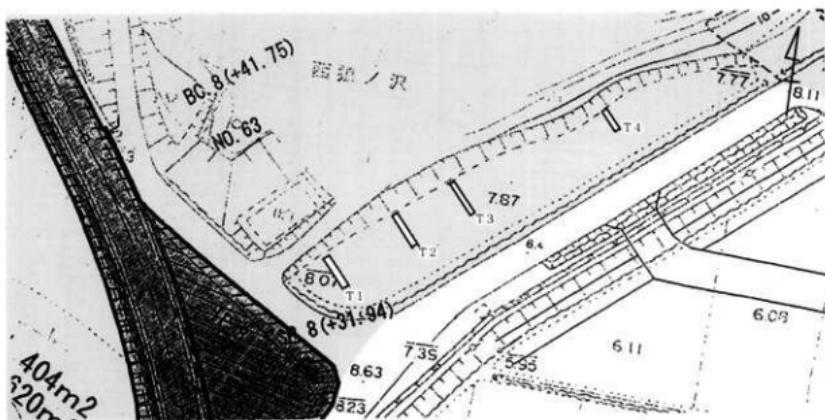
遺構については、T4で土坑1基及び柱穴2基を検出した。規模は土坑が直径75cm前後、柱穴は直径30~45cmを測る。これらの埋土には炭化物が混じっているが、遺物は含まれておらず、遺構の所属時期については不明である。

遺物はT3のII層で縄文土器片を確認した。時期特定の手がかりになる特徴がないため、詳細な時期については不明である。なお、縄文土器については平成20年度の試掘調査で低位面に設定したトレチからも確認されている。

以上のことから、今回調査範囲周辺には縄文時代の遺構・遺物の分布が広がることが明らかとなった。



第79図 石崎貝塚位置図



第80図 石崎貝塚調査区・位置図

14 經營體育成基館整備嘉義南下幅北部地區

### 泥田遺跡 (NE-2312) 西側及び東側

所在地：惠州市惠阳区南都田宇泥田地内

事業者：県南広域振興局農林部

調査期間：平成21年10月27日(水)～28日(木)

遺跡はJR水沢駅の西北西約4.2kmに位置し、胆沢扇状地内の標高70~72mの水沢低位段丘面上に立地している。現況は水田・畠地・宅地である。

本調査は経営体育成基盤整備事業南下幅北部地区で農地整備が実施されることに伴い実施したものである。東側地区に110箇所、西側地区に84箇所にトレーンチを設定した。

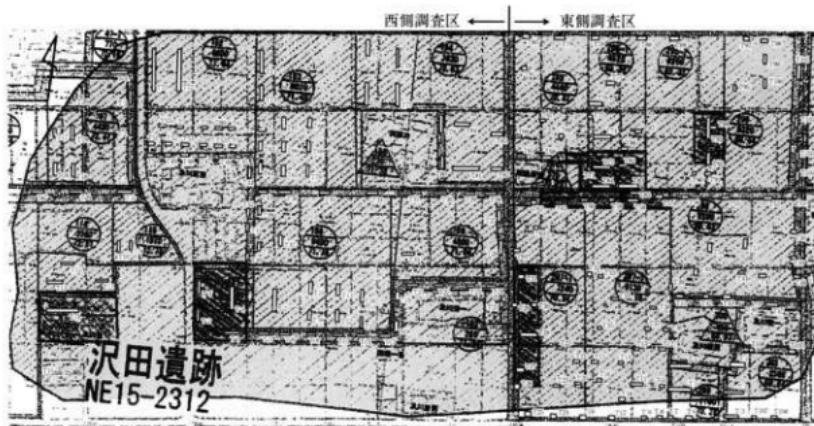
東側地区で確認される地山相当層は砂質土～粘質土とこの層が失われ砂礫層が表出する部分がある。調査区全体に過去の農地整備で大規模に地形改変され本来の土層が失われている部分が多い。T1、T5、T6では土器片や炭化物片が検出された。T28では灰白火山灰で覆われた幅約30cmの溝跡、T83・85・92では古代と推定される堅穴住居跡を検出している。遺構の多くは現在民家が立っている周辺部で検出されている。現在水田となっている部分にもかつては多くの遺構が存在していたものと思われる。

西側部分では黒褐色粘質土の下位に砂礫層が認められるところが多く、旧河道であったと思われる。T 1 トレンチでは土師器・須恵器片を含む古代の遺物包含層が確認された。

今回の調査で沢田遺跡は広範囲に広がっていることが改めて確認された。特に、東側部分については古代の住居跡等も見つかっており、土地改変に伴い多くは失われている可能性が高いが、集落跡が点在していたことが明らかになった。



第81図 沢田遺跡位置図



第82図 泥田遺跡調査区位置図

## 15 一般国道106号梁川道路起点部改良工事

小屋野遺跡 (LE28-0263)

所 在 地：盛岡市川目第5地割ほか

事 業 者：盛岡地方振興局土木部梁川ダム建設事務所

調査期日：平成21年11月10日(火)～12日(木)

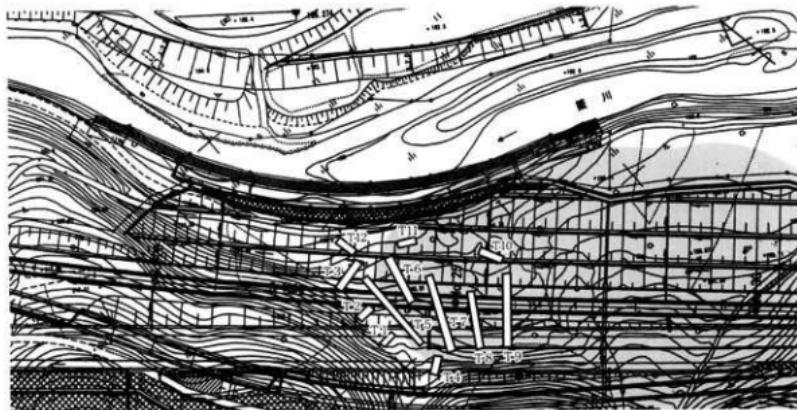
遺跡は、盛岡市役所の南東約7.4kmに位置する。梁川左岸の河岸段丘上及び南西丘陵からのびる斜面地と小規模な扇状地に立地し、標高は約200m±である。現況は山林である。今回の調査は梁川ダム関連事業に伴うもので、今回調査地の東側隣接地は平成21年度本調査範囲、西側隣接地は過年度試掘調査を実施済みである。

T 1～T 12のトレンチを設置した。T 1からT 3までは尾根から下る急傾斜地で、表土直下が岩盤もしくは崖錐礫層となり、遺構・遺物とも確認されなかった。T 4付近は扇状地を形成した旧沢跡にあたり、各層とも基盤の角礫を多量に混入する。同トレンチからは遺構・遺物とも確認されていない。T 5～T 11付近は緩斜面地で、中でもT 8～T 10付近は傾斜が緩く、T 5～T 7・T 11付近より1段低位となる。T 5～T 7はT 4の堆積と類似し各層に崖錐性の礫が多く混入するが、斜面下方ほど礫の混入量が少なく、大きさも小さくなる。T 5のIV層中(-170cm)から網目状燃系文の繩文土器が1片出土した。T 11はII～V層が欠落する。なお、VII層中で火山灰ブロック(To-Cu?)が確認された。T 7～T 9のV～VI層は礫混入量が比較的少なく、T 8のVI層(-140cm)およびT 9・T 10のV～VI層(-70cm)から繩文土器(晚期含む)及び石器が出土している。また、T 9のV層中(-70cm)で焼土及び炭化物集中を検出した。T 12は梁川によって形成された小規模な河岸段丘の段丘縁にあたると考えられ、各層に円礫が混じる。同トレンチからは遺構・遺物とも検出されていない。

今回の調査により、主に東部緩斜面で繩文時代の遺構・遺物が確認された。地形の状態及び位置関係からみて、同範囲には今年度本調査区域と同様の遺構・遺物が遺存しているものと推測される。



第83図 小屋野遺跡位置図



第84図 小屋野遺跡調査区位置図

## 16 一般国道釜石住田線金ノ倉～山脈地地区道路改良工事（物流支援交流促進道路整備事業）

山脈地遺跡（MF96-2116）及び隣接地

所在地：気仙郡住田町上有住字山脈地

事業者：大船渡地方振興局土木部

調査期日：平成21年11月12日(木)、12月3日(木)、

平成22年3月8日(月)

遺跡は住田町役場の北約6.3kmに位置し、気仙川右岸沿いの狭小な平野部、標高170m前後に立地している。今回の調査は一般国道釜石住田線金ノ倉～山脈地地区道路改良事業に伴い実施したものである。現況は水田及び原野である。調査範囲は周知の埋蔵文化財包蔵地である山脈地遺跡の北西から南東に向かって継続し、かつ町道沿いに現県道に合流する地点までである。

T12で堅穴住居状遺構を1棟、T13で土坑を1基、T18・T19で遺物包含層を確認した。堅穴住居状遺構は直径約4mを測り、中心部で約40cmの深さを持つ浅い皿状のものと見られる。検出面では遺構中心部に黒褐色土と、それを取り巻くように十和田中振火山灰で埋められている。土坑は直径1.5mを測り、黒褐色土を埋土とする。埋土からは縄文土器片と炭化物が出土している。遺物包含層はそれぞれトレンチの南西端で縄文土器を含む黒褐色土層として確認された。また、遺構遺物は確認されなかつたもののT22の断面で十和田中振火山灰の堆積を確認している。

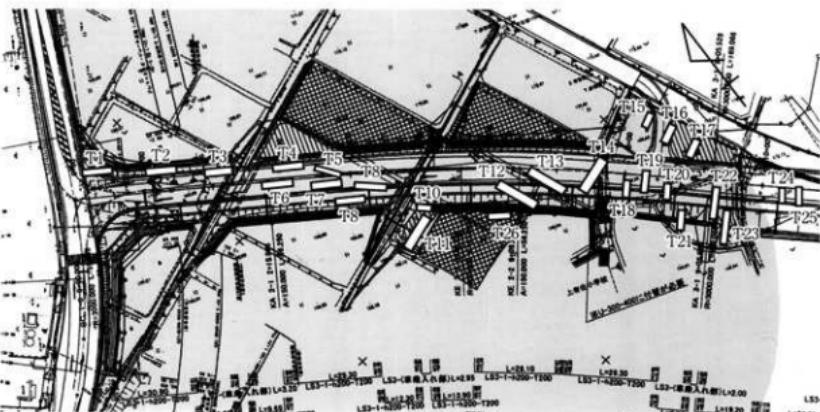
可能性ありとした部分については、黒褐色土層直下で砾層が現れており、かつ遺物も確認されないことから、遺跡存在の可能性は低いものと判断される。以上の結果から、今回調査を行った範囲の一部に遺構・遺物が広がることが明らかになった。

なお、後日実施した試掘調査は、道路事業に付随し隣接地で水田整地が計画されたことに関連し試掘調査を実施したものである。調査地点は、遺跡のほぼ北側に該当する部分である。切土される水田部分に2m×5mのトレンチを1箇所設定した。(T26)

土層は、上部から水田耕作土、砂礫層、第Ⅲ層暗褐色土層、第Ⅳ層黒褐色土層の順で第Ⅲ層及び第Ⅳ層から縄文土器が出土している。第Ⅳ層からの遺物出土頻度が高いことから遺物包含層と判断し、以前の試掘結果等を勘案しこれより下位の掘削は行わなかった。今回の調査地点は、前回の試掘箇所に隣接する場所であり、遺物包含層がさらに東側の斜面まで拡大すること、この包含層下位に遺構の存在が予想される。



第85図 山脈地遺跡位置図



第86図 山脈地遺跡調査区・位置図

## 17 経営体育成基盤整備事業 白山地区

田高Ⅱ遺跡 (NE46-1375)

所 在 地：奥州市前沢区白山字田高地内

事 業 者：県南広域振興局農林部

調査期日：平成21年11月16日(月)、12月4日(金)

遺跡は奥州市前沢区役所の北東約2.5kmに位置し、北上川右岸の標高31～32m前後の低位段丘上に立地している。現状は水田及び畑地である。今回の調査は、白山地区における経営体育成基盤整備事業に伴い実施したものである。今回の調査範囲は遺跡の北及び北東側にある。

トレンチは65本設定した。土層はT1～T20の低位面とT21以降の高位面で異なり、低位面では表土直下でⅢbまたはⅢc層が確認される。地形的にはT21以降の高位面が微高地面を呈する。

遺構は、T24～28、T35～65、のほとんどのトレンチで確認された。遺構はいずれもⅢ層で確認される。なお、埋土はT24～28とT29以降で若干様相が異なっており、T24～28の埋土はしまりが弱い。

土坑は径70～200cmを測る。埋土に土師器を含むもの（T65）と縄文土器を含むものがある。T61には埋設土器を含むとみられる土坑がある。焼土は径50cm程度で埋土内に散っている。また、遺物が周辺に散布する。柱穴は径40cm前後のものを主体とする。溝跡は幅50～100cm前後を測り、遺物を含むものもある。遺物包含層はライスセンター東側で主に確認される。

遺物はT65からは土師器壺が、T35～64の多くのトレンチで縄文土器及び石器を確認している。

以上のことから市道野中前・新山前線南側の標高約32m前後の範囲に遺構・遺物が残存すると判断される。なお、T29～34では今回の調査では遺構は確認されなかったものの、周辺で確認されており、かつ地形の連続性から遺構が確認される可能性が高いため、要本調査範囲とした。



第87図 田高Ⅱ遺跡位置図



第88図 田高Ⅱ遺跡調査区位置図

## 18 経営体育成基盤整備事業 白山地区

彼岸田遺跡 (NE46-2344)

所 在 地：奥州市前沢区白山字彼岸田地内

事 業 者：県南広域振興局農林部

調査期日：平成21年11月16日(月)～18日(水)

本遺跡は水沢市役所の北東方向約2kmに位置している。北上川及び明後沢川の旧道路跡に挟まれた南北にのびる半島状の微高地上にある。標高は26~28.5mで、北から南にかけて緩やかに傾斜する。現状は水田および畑地である。

本調査は経営体育成基盤整備事業白山地区の工事に伴い行われたものである。

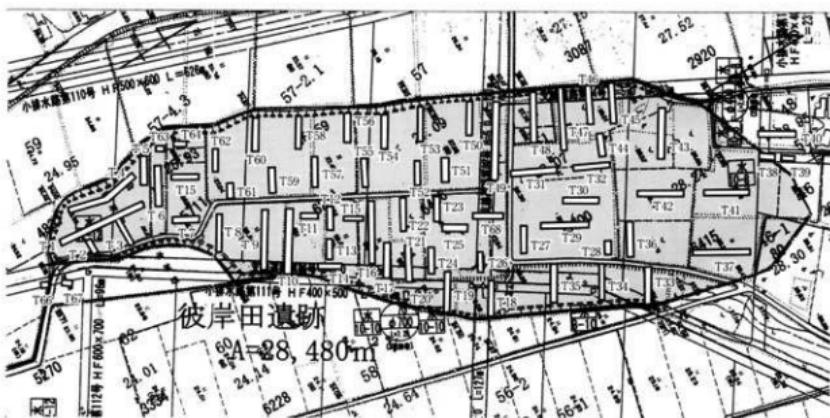
基本土層は7層に区分される。平坦部では農用地造成のための地形改変により本来の土層が失われ、東西縁辺部でわずかに自然堆積層を確認できる。平坦面全域ではおよそIa層直下でV層黄褐色土が確認され、本層上面が遺構検出面である。北東側平坦面崖部ではIV層遺物包含層が確認される。

トレンチは68本設定した。T22では溝跡2条を検出した。幅が50~60cmで北西南東方向にのびる。埋土から土師器片・須恵器片が出土した。T34は調査区北東側の切土造成された一段低い水田面に設定した。Ia層直下でV層砂や砂礫が確認されるが、東端部崖部ではIb層盛土（褐色土・黄褐色土）下位でIV層包含層が堆積する。本層からは土師器片や須恵器片が比較的多く出土する。T36は調査区内で標高が高い場所にあり、Ia・b層下位にV層が堆積する。V層上面で住居状遺構1棟、土坑2基、溝跡1条、柱穴6個を検出した。住居状遺構の埋土中からは土師器片が出土し、不整形の焼土が検出された。幅50cm、長さ1.2m以上の土坑埋土からは縄文土器片が出土した。

調査結果から、切土が大きい部分を除く調査区ほぼ全域で行こうが検出された。検出状況から推測すると、遺構分布の密度差はあるものの、調査区全域に遺構が分布し、古代や縄文時代の集落跡と考えられる。



第89図 彼岸田遺跡位置図



第90図 彼岸田遺跡調査区位置図

## 19 中山間地域総合整備事業 大清水地区

山内駒木2遺跡 (IF82-1031)

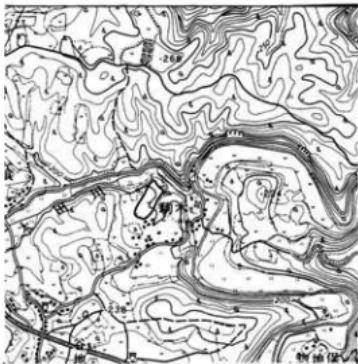
所在地：九戸郡軽米町大字山内字柳地内

事業者：二戸地方振興局農政部農村整備室

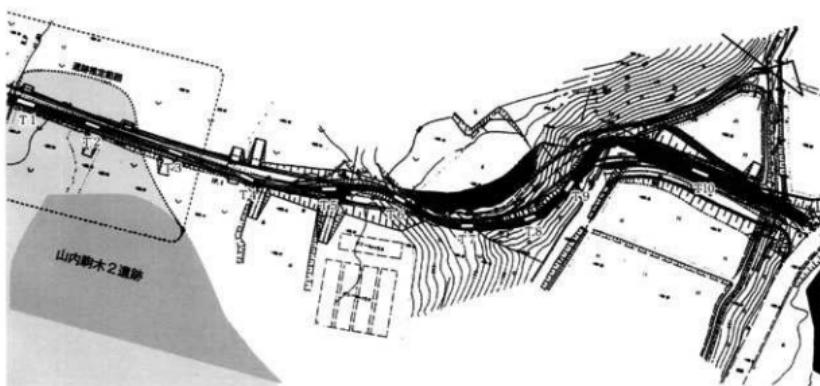
調査期日：平成21年11月12日(木)

今回の調査は農道改良工事に係るもので、東北縦貫自動車道軽米ICの西約4.5km付近の現道について試掘を行った。調査対象の現道は、南側の台地上から台地際の急斜面を経て、谷底部分を縦断して北側の丘陵に沿う現道までいたるルートをとっている。調査では台地上にT1～5、斜面部にT6～9、谷部分にT10の合計10箇所にトレーナーを設定して掘削した。なお周辺には、調査地の東側の台地先端部には山内駒木2遺跡が、南西側には山内駒木3遺跡がそれぞれ隣接し、谷を挟んで北側の丘陵緩斜面に竹谷袋1遺跡が所在している。T1のV層面で陥り穴状遺構を検出した。確認のため、一部精査したところ、下位のⅦ層を掘り込んでいた。底面までは確認しなかったが、検出面からの深さは60cm以上である。当遺構に伴う遺物は出土しなかったが、検出層位と遺構の形態から縄文時代の陥り穴と考えられる。また、T2のⅡ層下位で、縄文土器の小破片が1点が出土した。台地上のT5、急斜面部のT6～8では、削平のため碎石直下でⅧ層相当の粘土層の露出が確認された。T9では、南側斜面の崩落土である礫を多量に含む黒褐色土が厚く堆積している。T10では水成堆積の暗褐色～黒褐色粘質土が150cm以上堆積していた。以上のトレーナーでは遺構・遺物ともに確認されなかった。

今回の調査結果から、隣接している山内駒木2遺跡の範囲が今回調査地まで及ぶと判断された。堆積土層の様相からT3～4付近に埋没沢が存在しており、地形の連続性と遺構検出状況からその範囲はT1から2周辺までであると推測される。



第91図 山内駒木2遺跡位置図



第92図 山内駒木2遺跡調査区・位置図

## 20 中山間地域総合整備事業広田地区

赤坂角地遺跡（N F 89-2052）

所在 地：陸前高田市広田町字赤坂角地地内

事 業 者：大船渡地方振興局農林部

調査日：平成21年12月3日(木)

本遺跡は陸前高田市役所の南東方向約10kmに位置する。調査区域は標高約10mの北東側に開いた入江状の海岸低地で、現況は畑地脇の農道である。

本調査は中山間地域総合整備事業に伴い実施したものである。

基本土層は5層に区分される。Ⅱa層は調査区西側半分が厚く、東側では数十cmと薄くなる。Ⅱb層は東側のみ確認される。Ⅲ層は全域で確認され、土器片が出土する。Ⅳ層は西側半分が低湿地的な堆積物である緑灰色砂質土で、東側は褐色砂質土である。

トレンチは5本設置した。T 1～T 3は本来の地形面から1m～1.5m切土された農道で、現道路面から70m～220m下位でⅢ層が観察される。T 3ではⅣ層上面で掘削により切断されて残った頸部付近の円形土器断面を確認した。住居跡等に伴う遺物と推測されたが、トレンチ内では明瞭な掘り込みは確認されなかった。Ⅲ層内からは比較的多く土器片が出土した。T 4・T 5ではⅣ層検出深度が西側のトレンチよりも浅く、Ⅳ層は褐色砂質土である。Ⅱb層は本トレンチ内のみで観察される。

調査結果から本遺跡は南側の現水田面付近まで張り出した一段高い地形面であり、調査区はその先端付近に位置する縄文時代の居住空間であったと推測される。



第93図 赤坂角地遺跡位置図



第94図 赤坂角地遺跡調査区位置図

## 21 経営体育成基盤整備事業江釣子第2地区

下糠塚古館遺跡（ME55-1160）

所在 地：北上市濱田地内

事 業 者：県南広域振興局北上総合支局農村整備室

調査期日：平成21年9月17日(木)

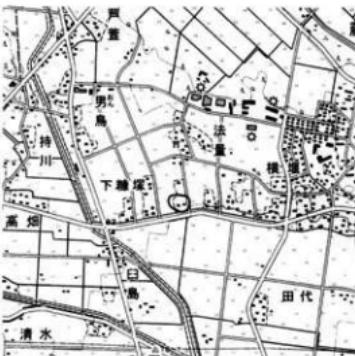
本遺跡の位置は北上市役所の北西方向約14.6kmに位置する。今回の調査区は標高80mの南向き段丘縁辺上にある。現況は農道である。

今回の調査経営体育成基盤整備事業にともない、新たに水路工事が計画されたことから事前に試掘調査を実施したものである。

基本土層は3層に区分される。平成20年度までの工事で地形改変されているため、調査区の西側3分の1はⅠ層直下がⅢ層地山である。東側は西側より約3m低くⅢ層青灰色土にⅡ層暗灰色土が堆積する場所がある。

トレンチは2本設定した。T1は下糠塚古館遺跡に連続する地形面上で以前の調査で検出された溝跡の延長線上に設定した。トレント中央付近で暗褐色土とする直径約30cmの柱穴状造構を1個、トレント内東側で黒褐色土を埋土とする幅約1.2mの溝跡を検出した。溝跡は南北方向にのび、平成18年度調査で検出された溝跡と同一のもとと考えられる。T2では部分的にⅠ層下位でⅡ層が確認された。本層からは近現代の陶磁器片が出土し、南側に近接する水路内堆積物の可能性もある。

これらの調査結果から、下糠塚古館遺跡は調査区内西側の標高の高い部分まで広がることが判明した。



第95図 下糠塚古館遺跡位置図



第96図 下糠塚古館遺跡調査区位置図

## 22 経営体育成基盤整備事業都鳥地区

国分遺跡（NE25-1107）隣接地

所 在 地：奥州市胆沢区南都田字下広岡地内

事 業 者：県南広域振興局農林部農村整備室

調査期間：平成22年1月12日

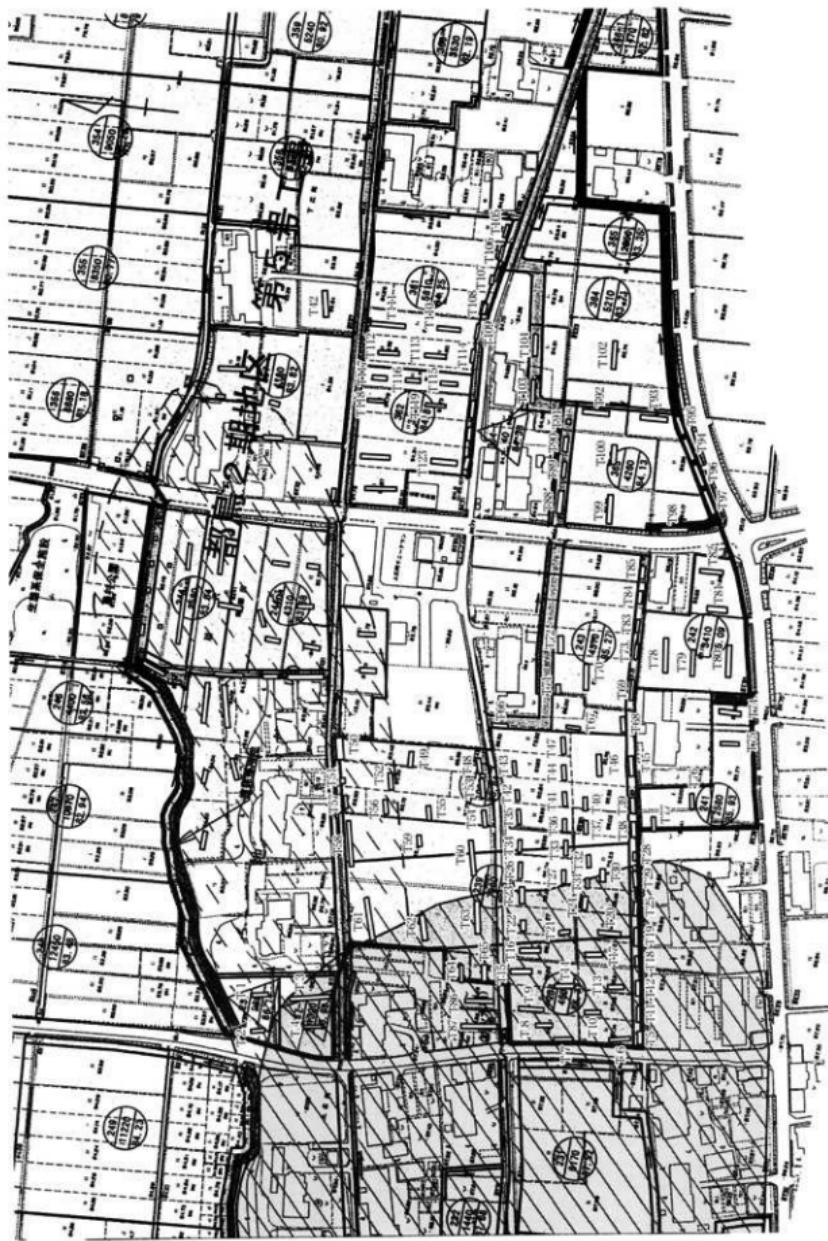
遺跡は、奥州市役所の西方約5.2kmに位置し、胆沢扇状地の標高85～87mの低位段丘面上に立地している。現況は水田及び畑地である。今回の調査は経営体育成基盤事業に伴うは場整備に先立ち試掘調査を実施したものである。今回の調査区は国分遺跡の東側及びそれに続く事業予定地内について実施した。

幅1.5m、長さ5～15mのトレンチを124箇所に設定した。T1から4は段丘線に位置しており、T3、4で土坑を検出している。T5～87では、多くは耕作土下の黄褐色土・灰褐色土が検出面となり、この間に場所により盛土や黒色土が分布する地域もある。T6～25周辺では耕作土直下で時期は不明であるが多くの溝類が検出されている。T34・T47では溝、竪穴住居と推測される遺構の検出面で土師器片が出土している。T88～104では全体に南東方向に向かい傾斜が落ちている。土坑や柱穴が検出されている箇所もあるが、遺構の埋土がしまりがなく、周辺から現代の茶碗片も同時に出土したことから新しいものと判断した。T105から124についても柱穴がいくつか検出されているが、しまりのない埋土であり新しい遺構と判断した。

今回の調査により、国分遺跡は東側に拡大することが確認されたが、古代の遺構・遺物が分布する地域は緑辺部周辺に多く周辺部までは拡大しないと思われる。



第97図 国分遺跡位置図



第98図 国分遺跡調査区位置図

### 23 北上川中流域治水対策事業立花地区（館IV遺跡）

館IV遺跡（ME 67-1627）および隣接地

所在 地：北上市立花2地割、3地割

事 業 者：国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所  
調査期日：平成22年1月14日（木）

館IV遺跡はJR東北線北上駅の北東約1.5km、日高見橋の東袂付近、北上川東岸の河岸低地に立地している。当遺跡は国道107号改築工事に関連して平成元年～3年に発掘調査が行われ、縄文時代中期と平安時代の遺構・遺物が確認されている。（以下、前回調査という）。

自転車道より東の県道側に5箇所（T 1～5）、西の川側に2箇所（T 6・7）のトレーナーを設定した。

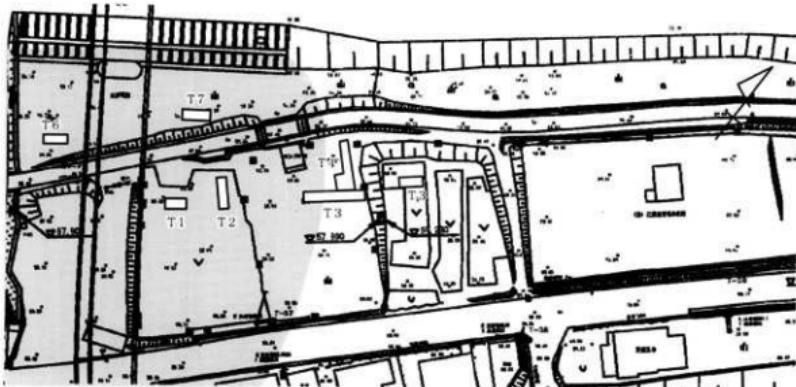
T 1・2では表土直下で砂および砂質土（II～IV層）の厚い堆積が確認された。北上川の堆積作用によるものと思われる。T 3では地表面～30cmほどで黄褐色粘土層（V層）となり、当該面で柱穴1個を検出した。T 4では、東側で表土直下にV層を確認したが、V層面は途中で急激に落ち込んでいく様相を示す。この落ち込み以西では砂が厚く堆積しており、川の影響を強く受けている状況が見て取れる。落ち込み部分付近で土塁2基（1基は不確実）が検出された。北東端の畠地は現状で一段高くなっているが、厚さ1cmの盛土であった。地元住民の話では、東隣の横町遺跡調査の際に堆土を積んだものらしい。この畠地に設定したT 5では盛土の下でごく薄くIV層が残り、その下位にV層が確認された。V層面で柱穴3個を検出した。自転車道以西の川沿い部分にはT 6・7を設定したが、碎石・瓦礫の厚い盛土層が確認され、その直下は砂の堆積層であった。この部分は日高見橋建設および水路改修の際に掘削されたものと推測される。

T 3～5で検出した遺構のうち、土坑は輪郭が明瞭（埋土は黒褐色）で、大径のものである。柱穴は輪郭が不明瞭なもの（埋土は暗褐色）であるが、埋土中に炭化物と土器微細破片を含み、径は20～30cmである。遺構の所属時期は周辺の出土土器から縄文時代と思われる。遺物はT 3～5で土器小破片が疎らに出土したが、他のトレーナーでは出土しなかった。

調査の結果、少量ではあるが遺構・遺物が検出されたが、その範囲は調査地北東側（T 3～5周辺）に限られたものであった。前回調査時の地形図および今回のトレーナーの状況から見て、この部分は調査地内においては比較的高い地形面で、河岸低地において微高地状の高まりをなしていたと解釈される。遺構・遺物はこの微高地面上に分布するものと考えられる。



第99図 館IV遺跡位置図



第100図 館IV遺跡調査区位置図

## 24 一般国道45号尾肝要道路

尾肝要 I 遺跡（新規遺跡）

所在 地：下閉伊郡田野畠村沼袋地内

事 業 者：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

調査期日：平成21年12月24日(木)～25日(金)

調査地点は田野畠村役場の西北西約4kmに位置する。明神山からのびる小起伏山地の縁辺部、標高240m前後の北東向き緩斜面上に立地する。今回の調査は一般国道45号尾肝要道路建設に伴い実施したものである。現状は原野である。

トレンチは隣接する可能性あり②とあわせて10本設定した。（①はT1～6の6本）。掘削の結果、調査区全域が沢状地形となっており、特に中央（T2～4周辺）に洪水堆積層が厚く堆積していることが判明した。

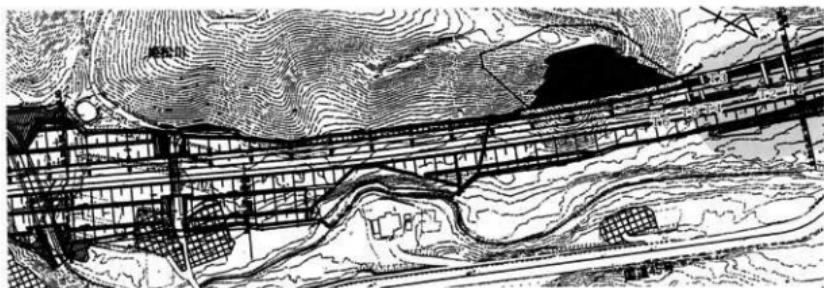
T1では北端のⅡ層中で黒褐色シルトにTo-Cuテフラと風化花崗岩ブロックを含む土坑状プラン（長径約1.4m）を検出した。T2では南端のⅡ層上面で黒褐色の溝状プラン（幅約60cm）、IV層上面で黒褐色シルトにTo-Cuテフラを含む柱穴状のプランを各1基検出した。その他、T5・6でもV層上面で黒褐色土の柱穴状プラン（直径30cm程度）を検出している。

なお、全てのトレンチで遺物は確認されなかった。

以上のように、今回の調査では複数の遺構プランが検出された。出土遺物が皆無であり詳細は不明であるが、T5・6で検出された柱穴状プランは二次堆積とはいえTo-Cuテフラ層より下位の面で検出されていることから火山灰降下時に前後して構築されたもの可能性がある。



第101図 尾肝要遺跡位置図



第102図 尾肝要遺跡調査区位置図

## 25 一般国道45号尾肝要道路建設

姫松 I 遺跡（新規遺跡）

所 在 地：下閉伊郡田野畠村沼袋

事 業 者：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

調査期日：平成21年12月24日(木)～25日(金)

調査地点は田野畠村役場の西北西約4kmに位置する。明神山からのびる小起伏山地の縁辺部、標高240m前後の北東向き緩斜面上に立地する。今回の調査は一般国道45号尾肝要道路建設に伴い実施したものである。現状は山林・原野である。

トレンチは22本（T1～T22）設定した。調査区が3箇所に分かれることから南からA区・B区・C区とする。

A区は南から北西方向に流れる小河川の右岸、B・C区は左岸に立地する。

C区ではT16で柱穴3基、T21で土坑を1基確認した。

柱穴は径65～70cm、黒褐～暗褐色の埋土であり、掘り方が残存する。検出状況から掘立柱建物を構成する柱穴の可能性がある。

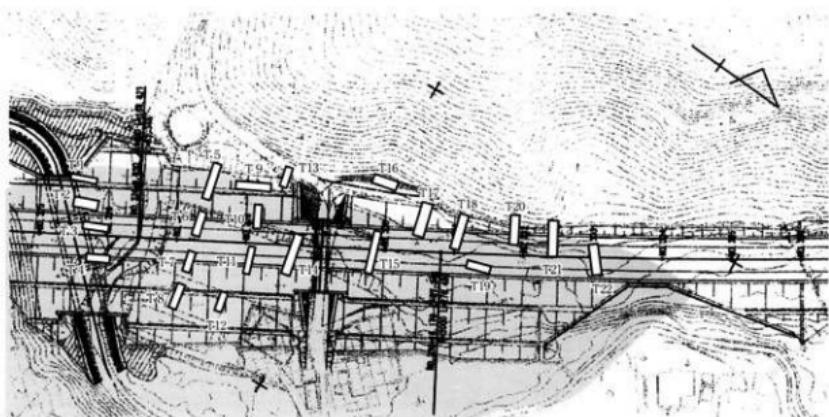
土坑は断面での確認になるが、二次堆積の中揮火山灰上面の黒褐～暗褐色土を掘り込んで構築されている。埋土は規模は、口径160cm前後、低径90cm前後、断面は逆台形状を呈すると推定される。A区・B区では小河川の氾濫に伴う洪水堆積の様子が観察された。さらにB区では造成等による擾乱及び削平を受けている様子が観察された。A・B区では遺構は確認されなかった。

遺物は全てのトレンチで確認されなかった。

以上のことから、C区については遺構の残存する可能性が高いと思われる。



第103図 姫松 I 遺跡位置図



第104図 姫松 I 遺跡調査区位置図

## 26 一般国道45号尾肝要道路建設

姫松Ⅱ遺跡（新規遺跡）

所 在 地：下閉伊郡田野畠村沼袋

事 業 者：国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所

調査期日：平成21年12月24日(木)～25日(金)

調査地点は田野畠村役場の西北西約4kmに位置する。

明神山からのびる小起伏山地の縁辺部、標高240m前後  
の北東向き緩斜面上に立地する。今回の調査は一般國  
道45号尾肝要道路建設に伴い実施したものである。現  
状は原野である。

トレンチは隣接する可能性あり①とあわせて10本設  
定した。（②はT7～10の4本）。掘削の結果、調査区

全域が沢状地形となっていることが判明した。なお、調査区全域の層中に斜面上方から流れてきたと思われる  
直径1.2m以上の風化花崗岩が含まれており、とくにT8・T10ではIV層中に多量に堆積していたためそれ以上  
の掘削は不可能であった。

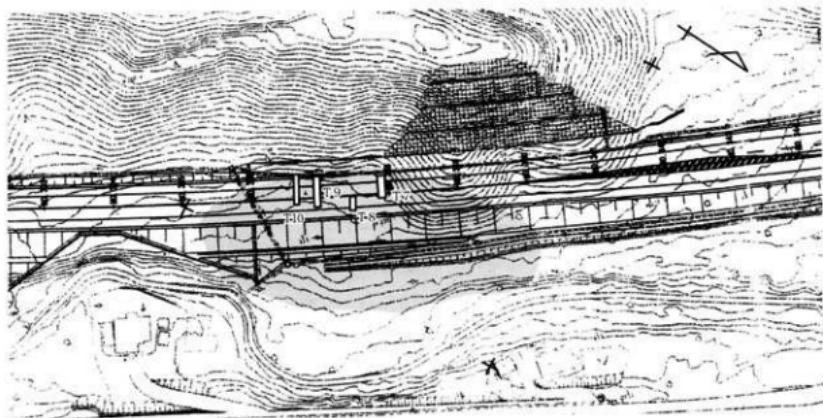
遺構はT8のIV層中で灰黄褐色の柱穴状プラン（直径約50cm）を1基検出した。

なお、全てのトレンチで遺物は確認されなかった。

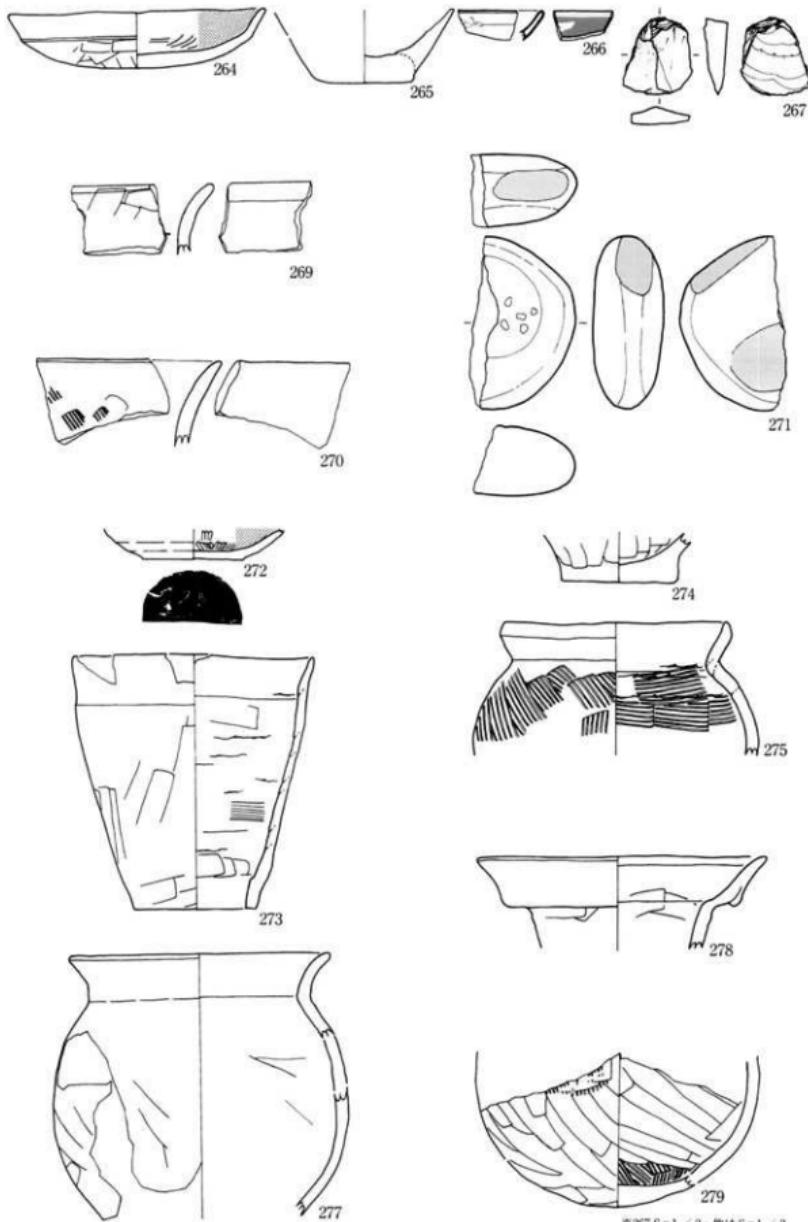
以上のように、今回の調査では柱穴状プランが検出された。出土遺物が皆無であり詳細は不明であるが、IV  
層で検出された柱穴は二次堆積とはいえTo-Cuテフラ層より下位の面で検出されていることから火山灰降下時  
期に前後して構築されたもの可能性がある。



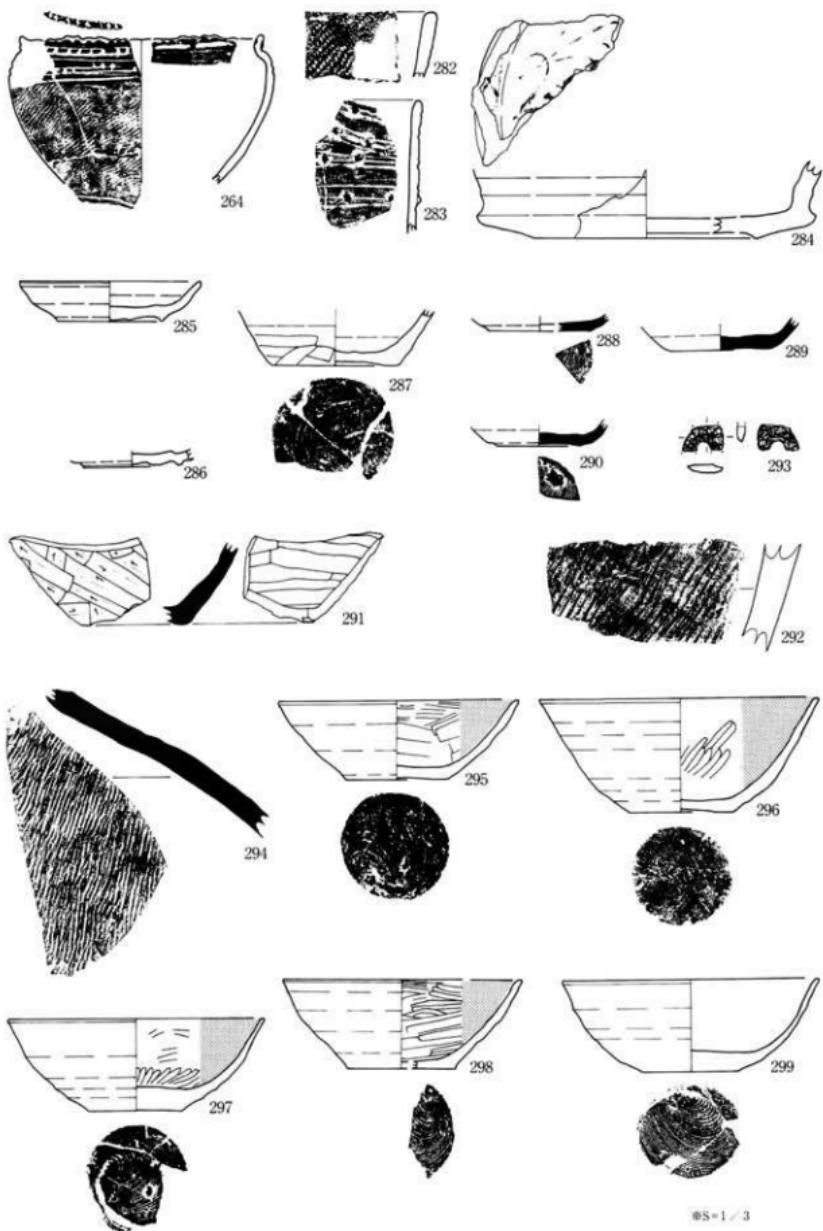
第105図 姫松Ⅱ遺跡位置図



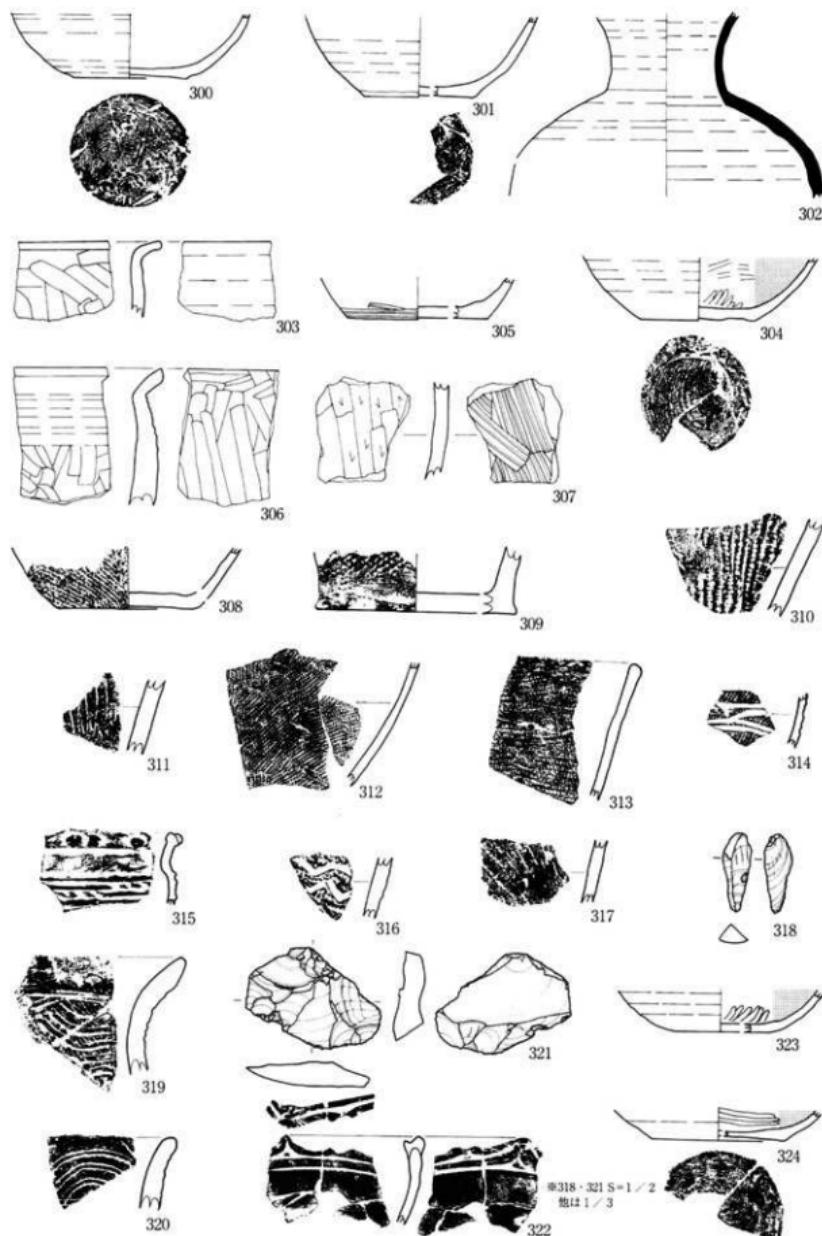
第106図 姫松Ⅱ遺跡調査区位置図



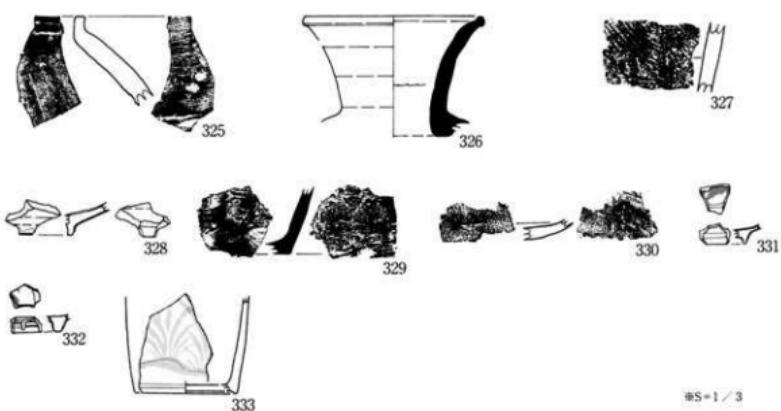
第107図 試掘調査出土遺物(1)



第108図 試掘調査出土遺物(2)



第109図 試掘調査出土遺物(3)



第110図 試掘調査出土遺物(4)

BS=1/3

遺物觀察票 4

口縁・口縁部 体上・体部上半 体下・体部下半

No.	遺跡名	出土地点	層位	器種	部位	推考	写真図版
264	石田 I・II	KT05	II層	土師器・环	底部・口縁	非口クロ 内黒 丸底 有段 外面ナデ	15
265	石田 I・II	KT05	II層	土師器・甕	底部	非口クロ 外・ナデ	15
266	石田 I・II	KT06	II層	甕	口縁	柒付	15
267	石田 I・II	KT07	II層	石器		黒曜石 未製品 自然面あり	15
268	石田 I・II	KT07	遺構埋土	玻璃		未製品	-
269	石田 I・II	KT08	II層	土師器・甕	口縁		15
270	石田 I・II	KT08	II層	土師器・甕	口縁		15
271	石田 I・II	KT08	II層	敲磨四石		側面に磨面	15
272	石田 I・II	KT09		土師器・环	底部	内黒 素切り無調整	15
273	石田 I・II	KT10		土師器・瓶		外・ナデ 内・ナデ	15
274	石田 I・II	ST24		土師器・甕	底部	肥厚 外・ハケメ・ミガキ 内・ナデ	15
275	石田 I・II	T10	灰色砂	土師器・甕	口縁～体上	口縁内 外・ハケメ・ミガキ 内・ハケメ 輪積痕明瞭 約1.5cm幅	15
276	石田 I・II	T13		陶		輪積定形	15
277	石田 I・II	T14		土師器・甕	口縁～体上	木本製陶	15
278	石田 I・II	T14		土師器・甕	口縁	複合口縁	15
279	石田 I・II	T14		埴造器・瓶	底部	内・ハケメ 外・ナデ	15
280	石田 I・II	T20		陶		柒付	15
281	落合 2 区 I			台付鉢	口縁～体上	LR 半曲状文 口縁部弦紋突起 繩文晚期	15
282	落合 2 区 I			深鉢	口縁	波状口縁 強縮 四部磨き顯著	15
283	落合 2 区 I			深鉢	口縁	LR サ粒剥離	15
284	中畠城	T1中央水路跡	埋土	鉢	底部	志野焼	15
285	中畠城	T1中央水路跡	埋土	皿		美濃燒?	15
286	中畠城	T1中央水路跡	埋土	皿		美濃燒?	15
287	中畠城						15
288	中畠城						15
289	中畠城	T1	擾乱	环	底部	埴造器? 素切り再調整	15
290	中畠城						15
291	中畠城	T1北半	擾乱	墨	底部	焼がまいまい	16
292	中畠城	T1北半	擾乱	大甕	体部	叩き目	16
293	中畠城			石瓶			16
294	沢田	T8住居跡		埴造器・甕	体部	叩き目	16
295	沢田	T92住居跡		环		輪積定形 内黒 素切り無調整	16
296	沢田	T92住居跡		环		輪積定形 内黒 素切り無調整	16
297	沢田	T92住居跡		环		輪積定形 内黒 素切り無調整 放射状ミガキ	16
298	沢田	T92住居跡		环		輪積定形 内黒 素切り無調整	16
299	沢田	T92住居跡		环		素内里 素切り無調整	16
300	沢田	T92住居跡		环	底部～体下	素内里 素切り無調整	16
301	沢田	T92住居跡		环	底部～体下	素内里 素切り無調整	16
302	沢田	T92住居跡		埴造器 切頭壺	口縁～体上		16
303	沢田	T92住居跡		环	底部～体下	内黒 素切り無調整	16
304	沢田	土坑埋土		土師器・甕	口縁		16
305	沢田	MC トレンチ		土師器・甕	口縁		16
306	沢田	T1		盤	口縁	内黒	16
307	沢田	T57		土師器・甕	体部	外・ケズリ 内・ハケメ	16
308	山根地	T1～T3		深鉢	底部	LR 外面環 繩文晚期	16
309	山根地	T1～T3		深鉢	底部	LR 繩文前期	16
310	山根地	T1～T3		深鉢	底部	RL 繩文前期	16
311	山根地	T1～T3		深鉢	底部	木本扶桑系文 繩文前期	16
312	山根地	T1～T3		台付鉢	底部	LR 繩文晚期	16
313	山根地	T22		深鉢	口縁	RL 連手 外面環 繩文後期～晚期	16
314	山根地	T22		鉢	体部	唐草文 喷消 繩文晚期	16
315	山根地	H22年3月試掘	IV層	台付鉢	口縁	口縁部強縮突起 半曲状文 繩文晚期	16
316	山根地	H22年3月試掘	IV層	深鉢	体部	RL 太い波状光線 繩文前期	16
317	山根地	H22年3月試掘	IV層	深鉢	体部	西条文 繩文前期	16
318	田高Ⅱ	T27		埴造土	調片	黒曜石 自然面あり 調整なし	16
319	田高Ⅱ	T45		深鉢	口縁	半截竹管同心凹状泥文 サ粒剥離者 繩文前期	16
320	田高Ⅱ	T45		深鉢	口縁	半截竹管同心凹状泥文 サ粒剥離者 繩文前期	16
321	田高Ⅱ	T48		遺物包含層	調片	二次加工なし	16
322	田高Ⅱ	T56		浅鉢	口縁	文状突起 雲彩文	16
323	田高Ⅱ	T65	土坑内	环	底部	内黒 ロクロ使用 素引き無調整	17
324	田高Ⅱ	T65	土坑内	环	底部	内黒 ロクロ使用 素引き無調整	17
325	後岸田	T22		切頭壺	口縁部	肩美?	17
326	後岸田	T33		甕	口縁部	埴造器? 手挽?	17
327	後岸田	T36		深鉢	体部	L.R	17
328	国分	T6		碗	底部	大堀相馬産 19C前半	17
329	国分	T16		甕		埴造器	17
330	国分	T31		碗	体部	内面施釉 壁前彫刻 (16C末～17C初頭)	17
331	国分	T96		皿	底部	中国染漬付 (16C末～17C初頭)	17
332	国分	T96		皿	底部	中国染漬付 (16C末～17C初頭)	17
333	国分	T98		猪	底部	肥前産 (18C代)	17

試験調査一覧

No.	調査期日	事業名	事業者	道路名	所在地
1	平成21年4月2日	一般国道397号高屋敷地区道路改良工事	大船渡振興局土木部長	可能性あり①	住田町
2	平成21年4月2日	一般国道397号高屋敷地区道路改良工事	大船渡振興局土木部長	高屋敷Ⅱ	住田町
3	平成21年4月14日	経営体育城基盤 南下幅北部地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	鶴ヶ島路(水沢)ほか	夷州市
4	平成21年4月14日～15日	経営体育城基盤整備事業 南下中地区・	県南広域振興局農林部農村整備室長	石田ⅠⅡ道路ほか	夷州市
5	平成21年4月16日	災害避難緊急砂防事業	一関総合支局土木部長	岡山道路	一関市
6	平成21年4月22日	一般国道106号都留川道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり②	盛岡市
7	平成21年4月24日	中山間地域総合整備事業 中居地区	県南広域振興局花巻総合支局農林部農村整備室長	下中居Ⅰ道路	花巻市
8	平成21年4月28日	一般国道4号石鳥谷修復工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	白幡林道跡隣接地	花巻市
9	平成21年4月28日	一般国道4号石鳥谷修復工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	八幡Ⅱ道路	花巻市
10	平成21年4月30日	一般国道4号線浜名バイパス改修工事	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	武道Ⅰ道路隣接地	盛岡市
11	平成21年5月7日	北上川中流部治水対策事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	立花道路	北上市
12	平成21年5月11日	東北横断自転車道釜石秋田線(遠野～東柏)	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり②	遠野市
13	平成21年5月11日	東北横断自転車道釜石秋田線(遠野～東柏)	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり③	遠野市
14	平成21年5月12日～13日	畜糞基盤再編合整備事業	宮古地方振興局農政部長	鬼ヶ森道路ほか	宮古市
15	平成21年5月14日	草地林地一体の利用総合整備事業	社団法人岩手県農業公社理事長	西田子XⅣ道路	一戸町
16	平成21年5月15日	緊急地方道路整備事業(交通安全)	盛岡地方振興局土木部長	高屋敷Ⅱ道路	滝沢村
17	平成21年5月19日	桃流域防災事業	盛岡地方振興局土木部長	百日本道路	盛岡市
18	平成21年5月20日	緊急地方道路整備事業(交通安全)	盛岡地方振興局土木部長	高屋敷Ⅲ道路	滝沢村
19	平成21年5月21日	東北横断自転車道釜石秋田線(遠野～東柏)	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	落合Ⅱ区Ⅰ道路	花巻市
20	平成21年6月8日	基幹農道整備事業 松石2期地区	宮古地方振興局土木部長	可能性あり①②③	岩泉町
21	平成21年6月8日	主要地方道改修半島線白浜～塙内地區	宮古地方振興局土木部長	塙内Ⅰ道路	宮古市
22	平成21年6月9日	河川総合開発事業(津付ダム建設事業)	大船渡振興局土木部津付ダム建設事務所長	可能性あり①	住田町
23	平成21年6月10日	東北横断自転車道釜石秋田線(遠野～東柏)	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり④	遠野市
24	平成21年6月15日	道路改良事業 一般国道55号北山の7地区道路改良工事	盛岡地方振興局土木部長	上田山道路	盛岡市
25	平成21年6月26日	一般国道4号Ⅴ番代バイパス	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	番代道路	番代村
26	平成21年6月29日	緊急地方道路整備事業(主要地方道北上東と鹿角城越地区)	県南広域振興局北上総合支局土木部長	成田岩田堂能道隣接地	北上市
27	平成21年6月29日	東北横断自転車道釜石秋田線(遠野～東柏)	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	落合Ⅱ区Ⅰ道路	花巻市
28	平成21年6月30日	北上川上流域下水道事業	北上川上流域下水道事務所長	町場辻道路隣接地	幸石町
29	平成21年7月6日	中山間地域総合整備事業 施種の郷地区	宮古地方振興局農政部長	浜岩原Ⅰ直道路隣接地	田野畠村
30	平成21年7月9日	二級河川近内川流域防災事業	宮古地方振興局土木部長	横川道路隣接地	宮古市
31	平成21年7月9日	城内二又線改舗整備事業	野田村長	野田堅穴道路	野田村
32	平成21年7月9日～10日	下水道事業(市町村代行)	野田村長	野田堅穴道路	野田村
33	平成21年7月22日	河川総合開発事業(津付ダム建設事業)	大船渡地方振興局土木部津付ダム建設事務所長	可能性あり⑥	住田町
34	平成21年7月24日	経営体育城基盤整備事業 埼田第二地区	盛岡地方振興局農林部農村整備室長	川村道路隣接地	矢巾町
35	平成21年7月24日はか	農地環境整備事業 前田野地区	県南広域振興局一関総合支局農林部千葉農林セントラル所長	市道道路	一関市
36	平成21年7月27日	胆沢ダム建設事業	国土交通省東北地方整備局胆沢ダム工事事務所長	大沢沢道路	夷州市
37	平成21年7月28日～29日	一般国道45号高田道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	野沢Ⅰ道路ほか1	雄前高田町
38	平成21年8月4日	学校施設維持保全事業	県教育委員会事務局教育企画室学校施設課長	高前壇Ⅱ道路	夷州市
39	平成21年8月5日	河川総合開発事業(津付ダム建設事業)	大船渡地方振興局土木部津付ダム建設事務所長	可能性あり②	住田町
40	平成21年8月6日	道路改良事業	県南広域振興局土木部長	大北道路隣接地	夷州市

試験調査一覧

41 平成21年8月10日	畜糞堆肥再編合整備事業 (田野畠地区)	(社) 岩手県農業公社理事長	鳥越区道跡	田野畠村
42 平成21年8月11日	基幹農道整備事業	宮古地方振興局土木部長	磐梯御所道路	岩泉町
43 平成21年8月18日	農地環境整備事業	県南広域振興局一関総合支局千厩農林セントラル	深資道路	藤沢町
44 平成21年8月27日	地方特定道路整備事業	県南広域振興局土木部長	根岸道路	奥州市
45 平成21年8月28日	盛岡地家機裁合倉増築工事	最高裁判所事務総局経理局長	盛岡城邊曲輪跡	盛岡市
46 平成21年9月1日	大平郡新築工事 (市町村代行)	晴山建築設計事務所長	野田堅穴道路	野田村
47 平成21年9月2日	東北横断自動車道釜石秋田線 (遠野→東松)	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり④	遠野市
48 平成21年9月3日	校舎大規模改修事業	県教育委員会事務局教育企画室学校施設課長	崎館林道路	奥州市
49 平成21年9月7日	北上川中流域治水对策事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	立花南道路	北上市
50 平成21年9月8日	新農業水利システム保全整備事業	県南広域振興局農林部農村整備室長	五位塚古墳群	奥州市
51 平成21年9月9日	経営育成基盤整備事業 碓田第二地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	下通過路隣接地	矢巾町
52 平成21年9月10日	一般国道106号都南川道路	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり④	盛岡市
53 平成21年9月10日	一般国道45号交通安全事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	荒川和山道路	釜石市
54 平成21年9月17日	経営育成基盤整備事業 江釣子第一地区	県南広域振興局北上・鶴合支局農林部農村整備室長	新平道跡	北上市
55 平成21年9月17日～18日	一般国道45号交通安全事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	保土沢南道路、平内Ⅱ道跡	久慈市、津野町
56 平成21年9月21日	一般国道4号浜民バイパス	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	芋田沢田川	盛岡市
57 平成21年9月21日	経営育成基盤整備事業 古城二期地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	四反田I道路ほか	奥州市
58 平成21年9月28日～29日	東北横断自動車道釜石秋田線 (遠野→東松)	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	可能性あり若ほか	遠野市
59 平成21年10月1日～2日	草刈林地 体的利用統合整備事業 二戸広域第二地区	社団法人岩手県農業公社理事長	可能性あり若ほか	九戸村
60 平成21年10月2日	中山間地域総合整備事業 大清水地区	二戸地方振興局農政部農村整備室長	駒板峠道路	輕米町
61 平成21年10月6日	中山間地域総合整備事業	宮古地方振興局農政部長	浜岩屋Ⅲ、V道路ほか	田野畠村
62 平成21年10月6日ほか	経営育成基盤整備事業 碓田第二地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	渋川道跡隣接地ほか	矢巾町
63 平成21年10月7日	経営育成基盤整備事業 江刺西部地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	可能性あり④	奥州市
64 平成21年10月8日	地域道路整備事業 (道路改良)	二戸地方振興局土木部長	野馬道跡	一戸町
65 平成21年10月10日	一般国道45号 普代バイパス	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	中村道路	普代村
66 平成21年10月13日～14日	経営育成基盤整備事業 下矢次地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	高畠道路	矢巾町
67 平成21年10月15日	基幹農道整備事業 夏川3期地区	県南広域振興局一関総合支局土木部長	石崎貝塚	一関市
68 平成21年10月15日	経営育成基盤整備事業 夏川地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	石崎貝塚隣接地ほか	一関市
69 平成21年10月16日	堰地帯総合整備事業 藤崎地区	県南広域振興局一関総合支局千厩農林セントラル所長	十文字道路ほか	藤沢町
70 平成21年10月20日～21日	経営育成基盤整備事業 中寺林地区	県南広域振興局花巻総合支局農林部農村整備室長	八幡町ほか5	花巻市
71 平成21年10月22日	北上川上流域下水道事業 鶯宿幹線	北上川上流流域下水道事務所長	戸沢道路隣接地	零石町
72 平成21年10月23日	緊急地方道路整備事業	盛岡地方振興局土木部長	戸沢道路	零石町
73 平成21年10月26日	校舎整備事業 大船渡東高校	県教育委員会事務局教育企画室学校施設課長	久保道跡隣接地	大船渡市
74 平成21年10月26日	二級河川釜内川合流域防災事業	宮古地方振興局土木部長	横川道跡隣接地	宮古市
75 平成21年10月26日ほか	経営育成基盤整備事業 江刺西部地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	林道跡ほか	奥州市
76 平成21年10月27日～28日	経営育成基盤整備事業 南下福北部地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	沢田道路ほか	奥州市
77 平成21年10月30日	林業地域総合整備事業	二戸地方振興局土木部長	可能性あり	一戸町
78 平成21年11月2日	緊急地方道路整備事業 (市町村代行事業)	県南広域振興局一関総合支局千厩土木センター所長	刈萱道路	藤沢町
79 平成21年11月2日	経営育成基盤整備事業 相賀中部六原地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	二ツ堤道路ほか	金ヶ崎町
80 平成21年11月6日	経営育成基盤整備事業 江釣子第一地区	県南広域振興局北上・鶴合支局農林部農村整備室長	新平道跡	北上市

試掘調査一覧

81	平成21年11月9日	経営体育基盤整備事業 下矢次地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	高畠道路	矢巾町
82	平成21年11月10日	豪・石川農業水利事業	農林水産省東北農政部局長・石川農業水利事業建設所長	大木田道路	花巻市
83	平成21年11月12日	一般県道釜石住田線高崎洞地区道路改良工事	大船渡地方振興局土木部長	大船I道路	住田町
84	平成21年11月12日	地域づくり緊急改善事業	弘南広域振興局花巻総合支局土木部長	館I道路	花巻市
85	平成21年11月10日～12日	一般国道106号梁川道路起点部改良工事	盛岡地方振興局土木部梁川ダム建設事務所長	小屋野道路	盛岡市
86	平成21年11月12日	一般県道釜石住田線金ノ倉～山腹地地区道路改良工事	大船渡地方振興局土木部長	山腹地道路ほか	住田町
87	平成21年11月13日	緊急地方道路整備事業	弘南広域振興局土木部長	可能性あり①	奥州市
88	平成21年11月13日	緊急地方道路整備事業	弘南広域振興局土木部長	大北道路接続地	奥州市
89	平成21年11月16日～18日	経営体育基盤整備事業 白山地区	弘南広域振興局農林部農村整備室長	田高II道路ほか	奥州市
90	平成21年11月20日	中山間地域総合整備事業	○J地方振興局農政部農村整備室長	竹谷袋I道路ほか	鶴来町
91	平成21年11月24日～26日	経営体育基盤整備事業 古城2期地区	弘南広域振興局農林部農村整備室長	中郷城道路ほか	奥州市
92	平成21年11月30日	一般県道長郡港線長郡地区道路改良工事	大船渡地方振興局土木部長	二日町塙場接続地	陸前高田市
93	平成21年11月30日	経営体育基盤整備事業 南日詰地区	盛岡地方振興局農政部農村整備室長	下川原I道路	紫波町
94	平成21年12月1日～2日	経営体育基盤整備事業 中寺移地区	弘南広域振興局花巻総合支局農林部農村整備室長	八幡Ⅲほか5	花巻市
95	平成21年12月2日	一般国道340号土酒バース地区道路改良事業	弘南広域振興局花巻総合支局土木部浅野土木センター所長	阿部前道路ほか	浅野市
96	平成21年12月3日	中山間地域総合整備事業 広田地区	大船渡地方振興局農林部長	誠田II道路ほか	陸前高田市
97	平成21年12月3日	一般県道釜石住田線金ノ倉～山腹地地区道路改良工事	大船渡地方振興局土木部長	山腹地道路ほか	住田町
98	平成21年12月3日	経営体育基盤整備事業 白山地区	弘南広域振興局農林部農村整備室長	後岸田道路ほか	奥州市
99	平成21年12月4日	経営体育基盤整備事業	弘南広域振興局農林部農村整備室長	八幡道路接続地	奥州市
100	平成21年12月4日	経営体育基盤整備事業 白山地区	弘南広域振興局農林部農村整備室長	田高II道路ほか	奥州市
101	平成21年12月7日	緊急地方道路整備事業	弘南広域振興局花巻総合支局土木部長	太田中央道路ほか	花巻市
102	平成21年12月14日～15日	スマートIC（高道路利便増進事業）	弘南広域振興局・開発合支局土木部長	毛越V道路ほか	平泉町
103	平成21年12月17日 第2地区	草地区一帯の利用総合整備事業 ○J広域（社）岩手県農業公社理事長	可能性あり①	九戸村	
104	平成21年12月21日	経営体育基盤整備事業	弘南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室長	馬鹿嶋下道道路ほか	北上市
105	平成21年12月21日	一般国道15号 高田道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり④、瓜根道路	陸前高田市
106	平成21年12月24日	移業地域総合整備事業	○J地方振興局土木部長	焼切II道路ほか	二戸市
107	平成21年12月24日～25日	一般国道45号 尾び野要道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性①～③	田野畠村
108	平成22年1月12日	経営体育基盤整備事業 郡島地区	弘南広域振興局農林部農村整備室長	国分道路接続地	奥州市
109	平成22年1月14日	北上川中流域治水対策事業 立花地区	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	船井道路	北上市
110	平成22年1月14日～15日	地域道路整備事業	弘南広域振興局・開発合支局土木部土管土木センター長	可能性あり	一関市
111	平成22年1月18日	宮古西道路建設事業	宮古地方振興局土木部長	可能性あり③	宮古市
112	平成22年1月19日	緊急地方道路整備事業 一般県道北上赤沢線	弘南広域振興局土木部長	細平道路	金ヶ崎町
113	平成22年1月29日	一般国道45号 尾び野要道路	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	可能性あり④	田野畠村
114	平成22年2月2日	農用地総合整備事業 下閉伊北区域	独立行政法人森林組合研究会森農地整備センター 東北北海道整備局下閉伊北建設事業所長	大芦V道路接続地	田野畠村
115	平成22年2月9日	ため池等整備事業 和賀西部2期地区	弘南広域振興局北上総合支局農林部農村整備室長	可能性あり④	西和賀町
116	平成22年2月19日	総合流域防災事業	宮古地方振興局農業土木事務所長	綿延頭道路	岩泉町
117	平成22年2月22日	基幹農業整備事業	弘南広域振興局・開発合支局土木部長	石崎日塙道路	一関市
118	平成22年2月25日	河川総合開発事業（津付ダム建設事業）	大船渡地方振興局土木課津付ダム建設事務所長	川向道路接続地	住田町
119	平成22年2月26日	経営体育基盤整備事業 古城2期地区	弘南広域振興局農林部農村整備室長	八坂口道路	奥州市
120	平成22年3月8日	一般県道釜石住田線金ノ倉～山腹地地区道路改良工事	大船渡地方振興局土木部長	山腹地道路	住田町

## 分布調査一覧

### 1 緊急地方道路整備事業

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり①				奥州市前沢区生母字櫛林地内~田谷地内	平成21年4月7日	
2		可能性あり②				奥州市前沢区生母字櫛林地内~田谷地内	平成21年4月7日	
3	NE56-2318	死行道路	弥生		散布地	奥州市前沢区生母字櫛林地内~田谷地内	平成21年4月7日	周知
4		可能性あり③				奥州市前沢区生母字櫛林地内~田谷地内	平成21年4月7日	
5								

### 2 北上川中流域治水対策事業

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり①				北上市立花2地割	平成21年4月7日~8日	
2	ME06-1226	頸4道跡	萬葉、平安、中世、近世	土器片	散布地	奥州市立花3地割	平成21年4月7日~8日	周知
3	ME06-1263	立花郷	平安			北上市立花4地割	平成21年4月7日~8日	周知
4	ME06-2128	立花南	禪文、奈良、平安	土器片	集落跡	北上市立花10地割	平成21年4月7日~8日	周知
5		可能性あり②				北上市立花13地割	平成21年4月7日~8日	
6		可能性あり③				北上市立花13地割	平成21年4月7日~8日	

### 3 地域用水環境整備事業

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1						九戸郡洋野町水尺地内	平成21年4月10日	なし

### 4 新農業水利システム保全整備事業

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	NE08-1051	五位塙古墳群	塙	古墳群		奥州市江刺区岩谷堂字五位塙	平成21年4月15日	周知
2		可能性あり①				奥州市江刺区田原字虚空藏地内	平成21年4月15日	
3		可能性あり②				奥州市江刺区田原字虚空藏地内	平成21年4月15日	
4		可能性あり③				奥州市江刺区田原字虚空藏地内	平成21年4月15日	

### 5 中山間地域総合整備事業 西風高漸地区

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	NF05-1261	下清水道跡	縄文	土器片	散布地	氣仙郡住田町下有字高瀬	平成21年4月17日~5月8日	周知
2	NF05-1280	山船路	中世	土器片	城館跡	氣仙郡住田町下有字高瀬	平成21年4月17日~5月8日	周知
3		可能性あり	縄文	土器片	散布地	氣仙郡住田町下有字高瀬	平成21年4月17日~5月8日	周知

### 6 基幹水利施設ストックマネジメント事業

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1						一関市萩美町 地内	平成21年4月23日~5月22日	なし

### 7 農業貯留灌漑基盤整備実験事業

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	KG03-0005	和野山1道跡	縄文	土器片	散布地	下閉伊郡曾代村字和野山 地内	平成21年5月15日~6月3日	周知

### 8 農地集積加進化基盤整備

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考	
1	OE38-0359	石畝道跡	古代	土器片	散布地	一関市花泉町日形字石畝	平成21年4月27日	周知	
2		可能性あり①				一関市花泉町日形字石畝場	平成21年4月27日		
3	OE38-0081	新道道跡1	古代	土器片	散布地	一関市花泉町日形字小野	平成21年4月27日	新規	
4	OE39-1001	新道道跡2	古代	土器片	散布地	一関市花泉町日形字小野	平成21年4月27日	新規	
5	OE39-1022	小野下道跡	中世~近世			城館跡	平成21年5月1日	周知	
6		可能性あり②	縄文			一関市花泉町日形字下野	平成21年5月1日		
7		可能性あり③				一関市花泉町日形字下野	平成21年5月1日		
8		可能性あり④				一関市花泉町日形字下野	平成21年5月1日		
9	OE39-1022	小野道跡	古代			一関市花泉町日形字下野	平成21年5月1日	周知	
10		可能性あり⑤				一関市花泉町日形字下野	平成21年5月1日		
11		可能性あり⑥				一関市花泉町日形字下野	平成21年5月1日		
12	OE39-0161	町裏道跡	縄文			散布地	一関市花泉町日形字下野	平成21年5月22日	周知
13		町裏道接続地				一関市花泉町日形字下野	平成21年5月22日		
14		中野田道跡				一関市花泉町日形字中神	平成21年5月22日		

### 9 新農業水利システム保全整備事業 榎長嶺地区

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1						奥州市江刺区玉里・広瀬地内	平成21年6月2日	なし

### 10 尾肝要道路

No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり①				下閉伊郡田野村尾肝要	平成21年6月5日	
2		可能性あり②				下閉伊郡田野村尾肝要	平成21年6月5日	
3		可能性あり③				下閉伊郡田野村尾肝要	平成21年6月5日	
4		可能性あり④				下閉伊郡田野村尾肝要	平成21年6月5日	
5		可能性あり⑤				下閉伊郡田野村尾肝要	平成21年6月5日	

## 分布調査一覧

### 11 地域活力基盤創造交付金

No.	道路コード	道跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1						八幡市平相沢町地内	平成21年7月1日	なし

### 12 惡草急傾斜地崩壊対策

No.	道路コード	道跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1						八幡市平花屋新町地内	平成21年7月1日	なし

### 13 脳卒急傾斜地崩壊対策

No.	道路コード	道跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり①				平成21年7月2日		
2		可能性あり②				平成21年7月2日		

### 14 新農業水利システム保全整備事業

No.	道路コード	道跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1						碧南市江利(×)藤里 横浦地区	平成21年7月13日	なし

### 15 林業地域統合整備事業 安孫、平穂櫻

No.	道路コード	道跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1		可能性あり				平成21年7月13日		

### 16 国営宿泊施設改良事業

No.	道路コード	道跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	ME49-0248	大木田道跡	縦文		散布地	花巻市東和町谷内2区	平成21年7月21日	周知
2	ME49-0298	えぞ尾敷道跡	縦文		散布地	花巻市東和町谷内2区	平成21年7月21日	周知

### 17 領地管理合意整備事業 (藤崎2期目④)

No.	道路コード	道跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考	
1		可能性あり①				東磐井郡藤沢町田山金沢	平成21年8月24日		
2	OP21-Z396	宇和田道跡	縦文		散布地	東磐井郡藤沢町保昌羽字宇和田	平成21年8月24日	周知	
3	OP22-2064	?	縦文		散布地	東磐井郡藤沢町保昌羽字栗	地内	平成21年8月24日	周知
4	OP21-Z369	新堀道跡	縦文		散布地	東磐井郡藤沢町保昌羽字大沢	地内	平成21年8月24日	周知

### 18 北上川上流土地利用一体型水防災事業

No.	道路コード	道跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考	
1						一関市舞川字下ノ原	平成21年8月25日	なし	
2						一関市弥字川底	地内	平成21年8月25日	なし

### 19 八幡地区治水対策事業

No.	道路コード	道跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	LE96-2318	豊田(×)道路兼接続	縦文・古代		散布地	花巻市右鳥谷町八幡	平成21年9月4日	
2								

### 20 一般国道16号盛岡バイパス

No.	道路コード	道跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	LE26-1158	松島道路接続	古代			盛岡市下飯田字前原	地内	平成21年9月9日
2								
3								

### 21 一般国道4号盛岡北道路

No.	道路コード	道跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	KE86-2165	六戸1通路	縦文・古代		集落跡	盛岡市下野川字穴口	平成21年9月16日	周知
2	KE76-2049	悠久保三道跡	縦文		散布地	浅沢村下溝字猿久保	平成21年9月16日	周知
3		可能性あり①				盛岡市下野川字穴口	平成21年9月16日	
4		可能性あり②				岩手郡雫石村溝字栗子	平成21年9月16日	
5		可能性あり③				岩手郡雫石村溝字栗子	平成21年9月16日	
6		可能性あり④				岩手郡雫石村溝字栗子	平成21年9月16日	
7		可能性あり⑤				岩手郡雫石村溝字栗子	平成21年9月16日	

### 22 地方特定道路整備事業

No.	道路コード	道跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	NF77-0037	二日市船	中世		城郭跡	藤前高田市氣仙町字二日市	平成21年10月7日	周知
2	NF77-0054	二日市貝塚	縦文		散布地	藤前高田市氣仙町字二日市	平成21年10月7日	周知

### 23 地域活力基盤創造交付金事業 和井内地地区

No.	道路コード	道跡名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	LP18-1356	和井内金堀場	縦文		散布地	宮古市和井内地内	平成21年10月5日	周知

## 分布調査一覧

25 道路改善事業							大船渡地方振興局土木部長	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	NF88-0141	大洞1	縄文		散布地	気仙郡住田町上有住字土倉	平成21年10月7日	周知
26 地域づくり緊急改善事業							二戸地方振興局土木部長	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1						二戸町勝山字野場地内	平成21年10月30日	なし
27 ため池等整備事業							県南広域振興局北上総合支局農林部長	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1			可能性あり①			西和賀町汎内字新町	平成21年12月16日	
2			可能性あり②			西和賀町汎内字新町	平成21年12月16日	
28 地域づくり緊急改善事業							盛岡地方振興局土木部岩手出張所	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1			可能性あり①			八幡平市平館 地内	平成21年12月11日	
29 地域活力基盤創造交付金事業							県南広域振興局・開拓合支局土木部長	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1			可能性あり① 中世	平場塚土壘	城館跡	一関市室根村折壁字八幡津 地内	平成22年2月16日	
2			可能性あり② 縄文			一関市室根村折壁字天王前 地内	平成22年2月16日	
3	OF03-0308	梅木遭跡	中世		城館跡	一関市室根村折壁字梅木 地内	平成22年2月16日	周知
30 一般国道沿海上荒川線下荒川地区道路改良事業							釜石地方振興局土木部長	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	MG92-2170	荒沢沢道路	縄文		散布地	釜石市唐丹町字下荒川・上荒川	平成22年1月28日	周知
2			可能性あり			釜石市唐丹町字下荒川・上荒川	平成22年1月28日	
31 荒牟单傾斜地崩塌対策							盛岡地方振興局土木部岩手出張所	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1						花巻市浅沢 地内	平成21年7月3日	なし
32 畑地帯総合整備事業(藤崎地区)							県南広域振興局・開拓合支局農林部農業センタ長	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1	OF10-2292	十文字道路	縄文・古代	縄文土器片	散布地	東磐井郡藤沢町西口字十文字	平成21年7月15日～16日	周知
2	OF10-2282	十文字森の森	縄文		散布地	東磐井郡藤沢町西口字玉川、櫛の森	平成21年7月15日～16日	周知
3	OF10-2290		縄文		散布地	東磐井郡藤沢町西口字十文字	平成21年7月15日～16日	新規
4			可能性あり			東磐井郡藤沢町西口字六十里	平成21年7月15日～16日	
5	OF20-0158	磐沢(前野)森	中世		城館跡	東磐井郡藤沢町西口字玉田	平成21年7月15日～16日	
6	OF10-2157	六十里遭跡	縄文		散布地	東磐井郡藤沢町西口字六十里	平成21年7月15日～16日	周知
33 荒牟单傾斜地崩塌対策							盛岡地方振興局土木部岩手出張所	
No.	道路コード	道路名	時代	遺構・遺物	種別	所在地	調査日	備考
1						磐城市御沢(又柳)中森	平成21年5月29日	なし

## 発掘調査一覧

No.	調査期日	事業名	事業者	道路名	所在地	検出遺構	面積
1	平成21年6月16日	一般国道4号浜名ハイバス事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	芋田V道路	盛岡市 古墳1	50	
2	平成21年6月18日～19日	一般国道4号浜名ハイバス事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	白樺林道路	花巻市 土坑3 柱穴4 性格不明遺構1	173	
3	平成21年6月16日	野田村下水道事業	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	芋田V道路	盛岡市 磬穴状遺構1	50	
4	平成21年10月13日～15日、20日～23日	東北横断自動車道釜石秋田線(浪野～東柏)	野田村長	野田堅穴群道路	野田村 磬穴状居住跡13 土坑3	400	
5	平成21年11月27日	一般国道45号 上荒川発版幸継	国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所長	日影道路	達野市 磬穴状居住跡1	100	
6	平成22年1月19日～22日	経営体育基盤整備事業	国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所長	荒川柏山道路	釜石市 磬穴状居住跡2 土坑1	1600	
7	平成22年1月27日～28日 2月3日	中山間地域総合整備事業 中居地区	県南広域振興局農林部農村整備室長	八幡道路	奥州市 磐立柱建物跡1 柱穴27 柱剝1	100	
8	平成22年1月12日～13日	花巻空港整備事業	県南広域振興局花巻空港支局農林部農村整備室長	下中居Ⅱ道路	花巻市 遺物包含層	100	
9	平成22年3月2日～4日	経営体育基盤整備事業 古城之区	花巻空港事務所長	上ノ山道路	花巻市 石器時代石器集 中区1 近現代遺構	30 45	
10	平成22年1月25日～27日		県南広域振興局農林部農村整備室長	古城方八丁道路	奥州市 土坑10 柱穴33	61	

# 写 真 図 版





芋田沢田V遺跡 陥し穴状遺跡



芋田沢田VI遺跡



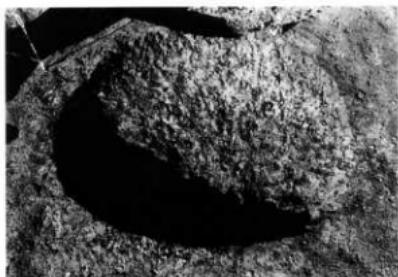
白幡林遺跡 完掘状況



日影遺跡 陥し穴状遺跡



下中居II遺跡 完掘状況



荒川和山遺跡 土坑



荒川和山遺跡 遺物出土状況

写真図版 1 検出遺構(1)



林遺跡 故間状遺構



阿弥陀堂遺跡 陥し穴状遺構



阿弥陀堂遺跡 完掘



阿弥陀堂遺跡 完掘



阿弥陀堂遺跡 北東側完掘



八幡Ⅱ遺跡 掘立柱建物跡



八幡Ⅱ遺跡 溝跡



古城方八丁遺跡 完掘

写真図版 2 検出遺構(2)



中平遺跡 住居跡



中平遺跡 住居跡



中平遺跡 住居跡



中平遺跡 住居跡



中平遺跡 住居跡

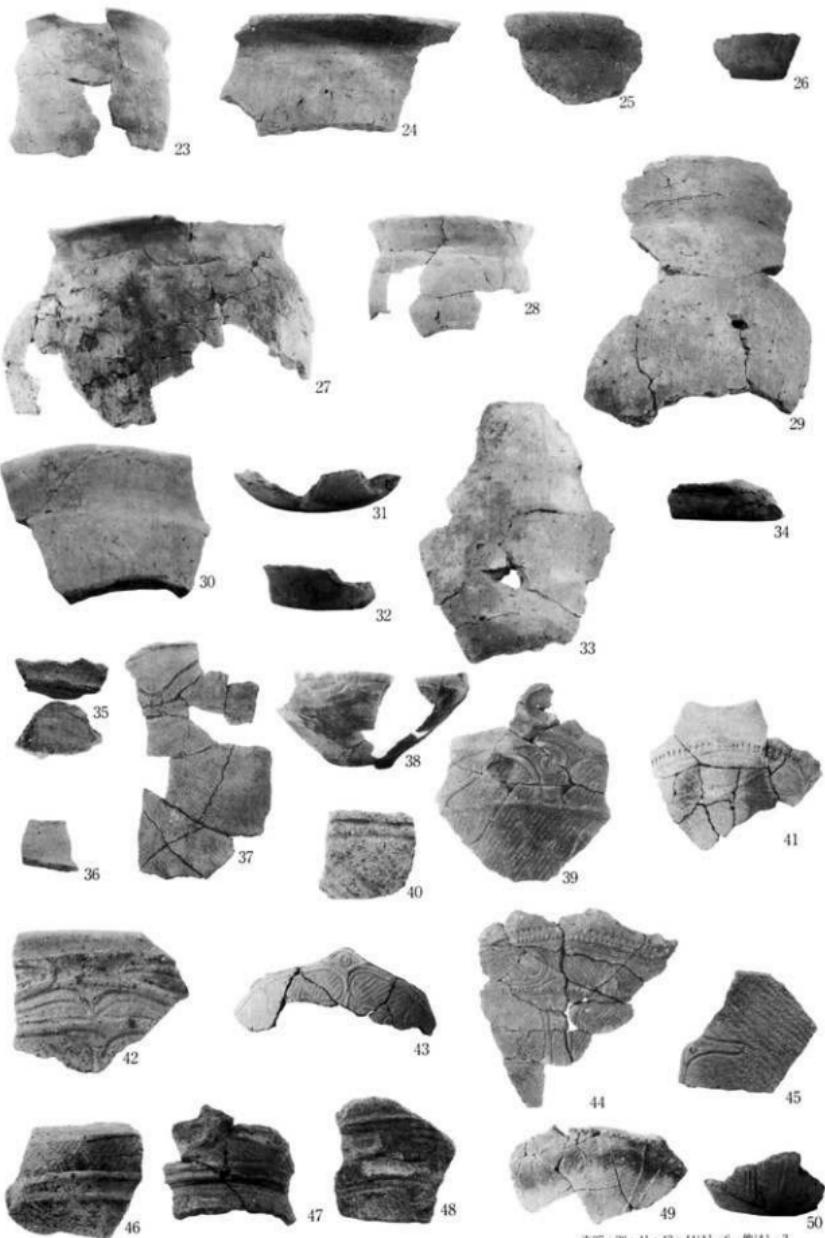


上の山遺跡 遺物出土状況

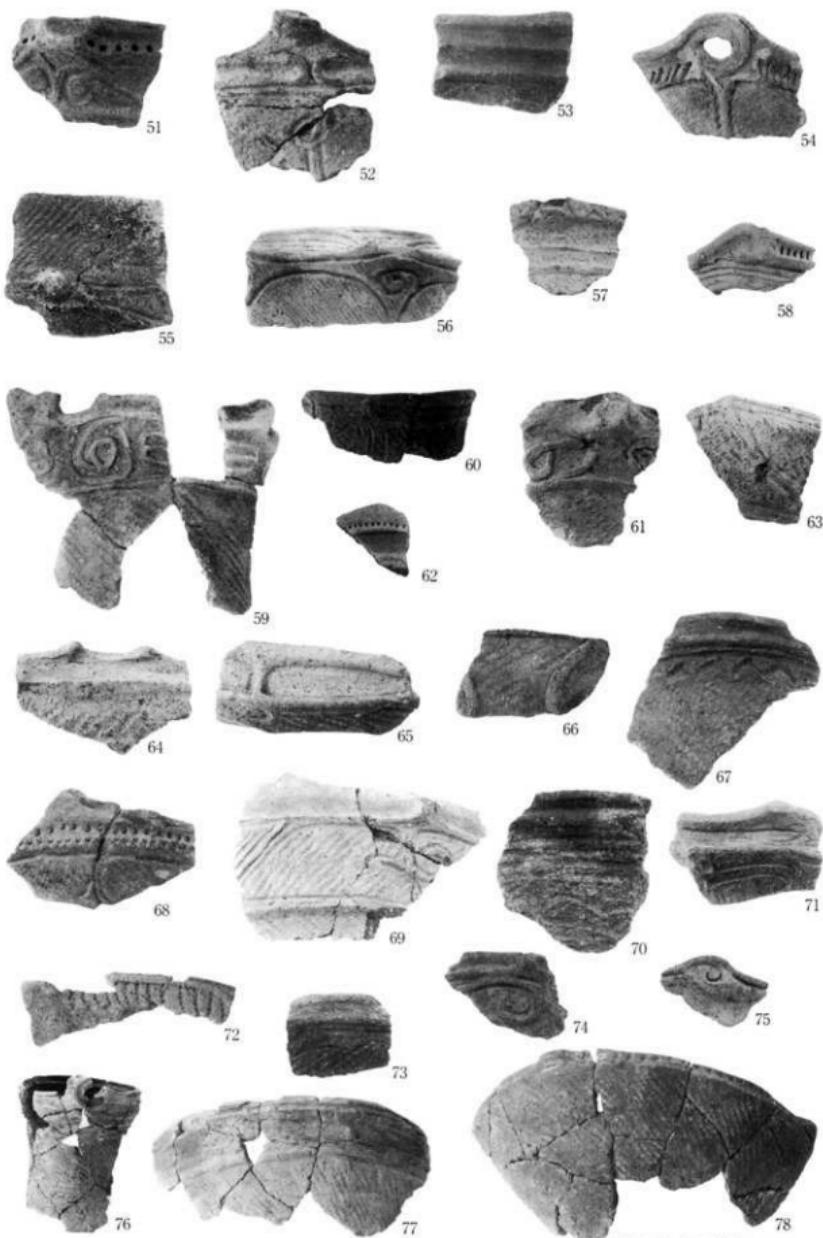
写真図版 3 検出遺構(3)



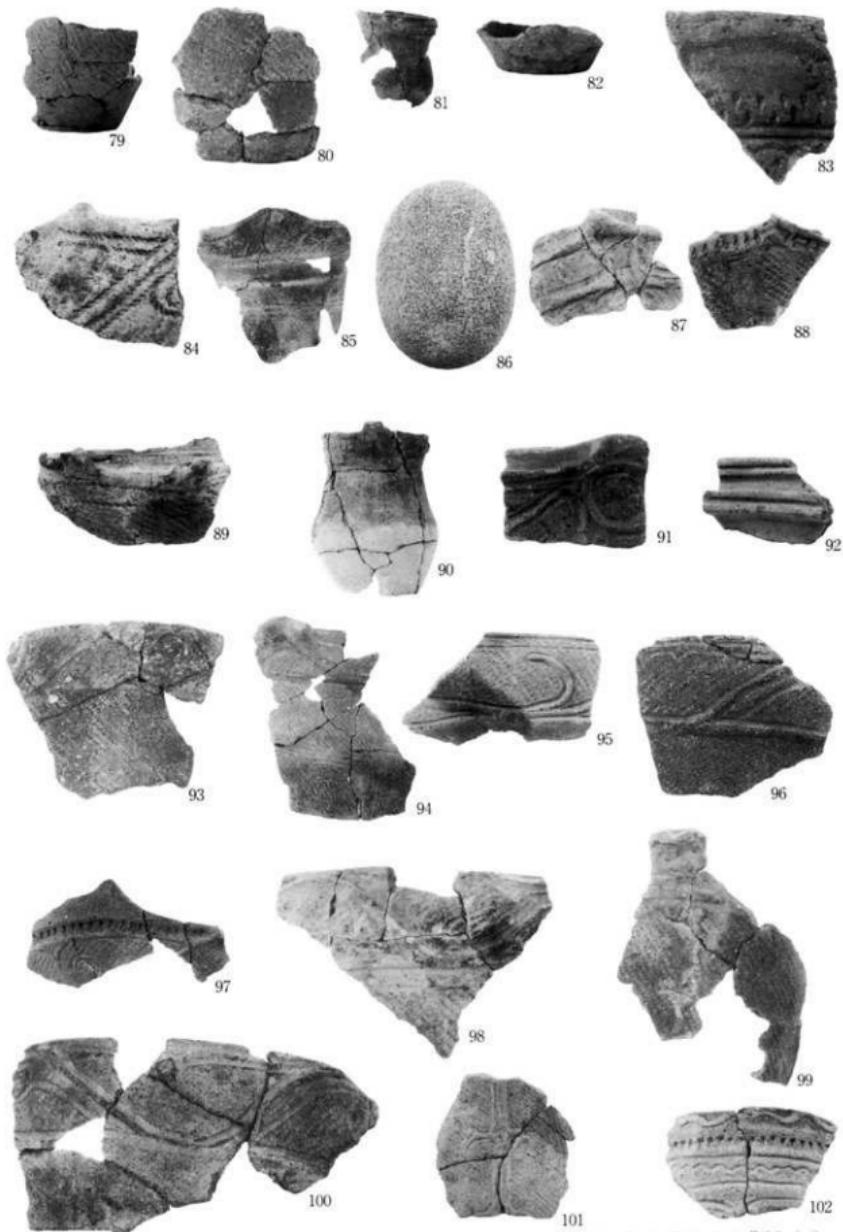
写真図版4 発掘調査出土遺物(1)



写真図版 5 発掘調査出土遺物(2)

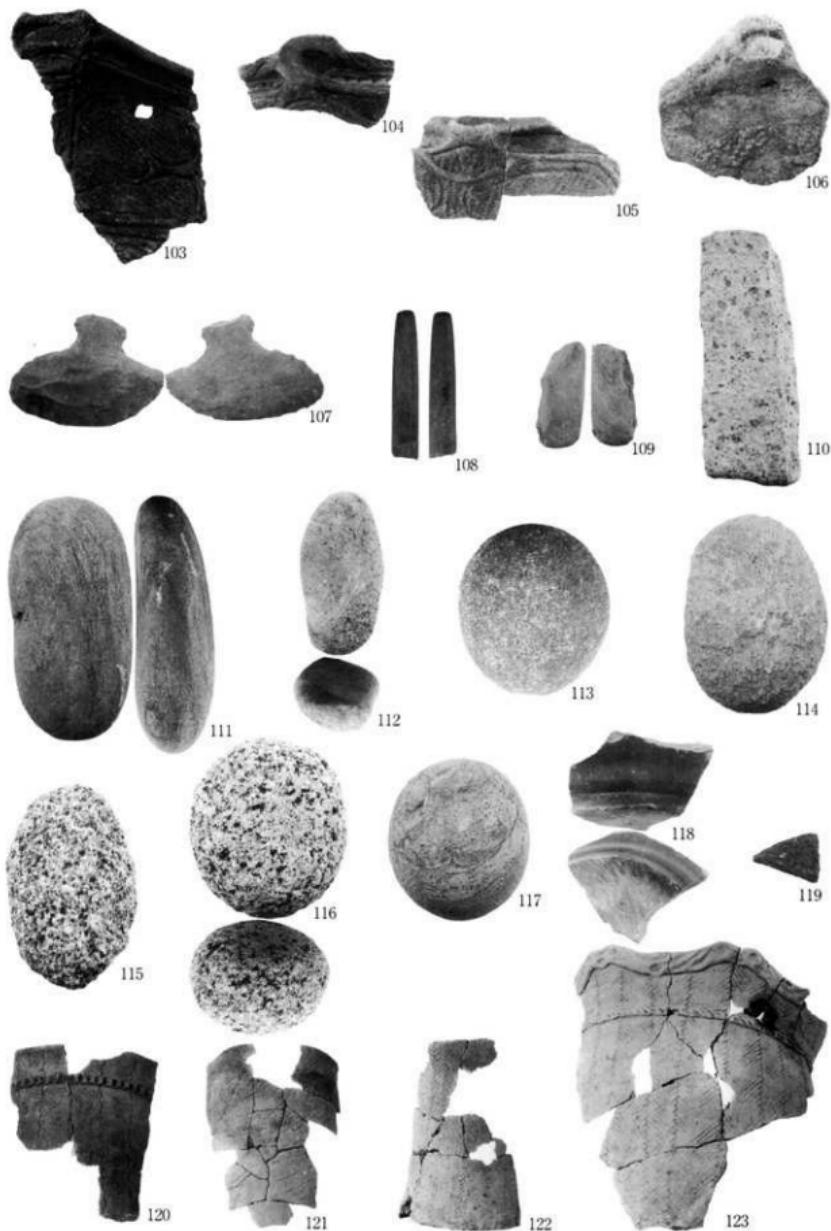


写真図版 6 発掘調査出土遺物(3)



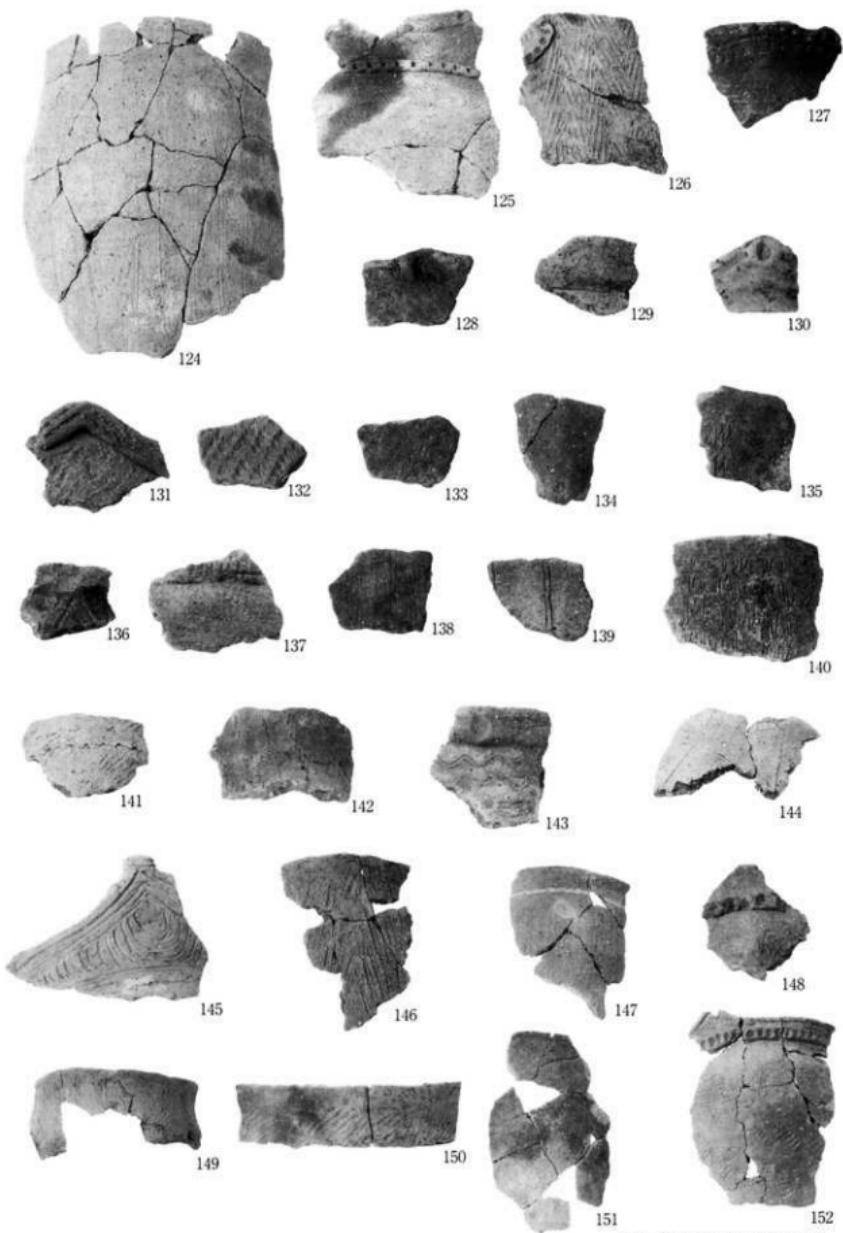
写真図版7 発掘調査出土遺物(4)

\*81・85・90・97はS=1/6、他はS=1/3



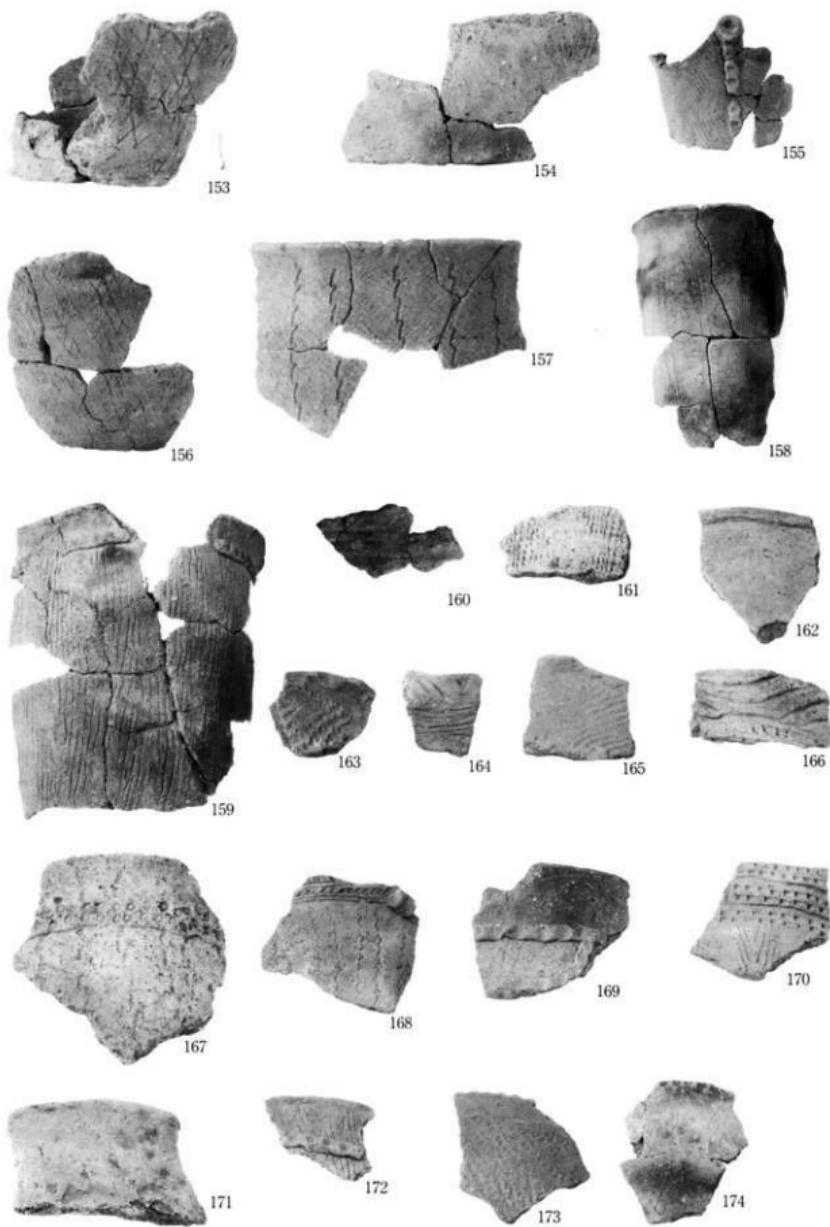
107 12 S = 1/2, 120~123 14 S = 1/3  
 114 S = 1/3

写真図版 8 発掘調査出土遺物(5)



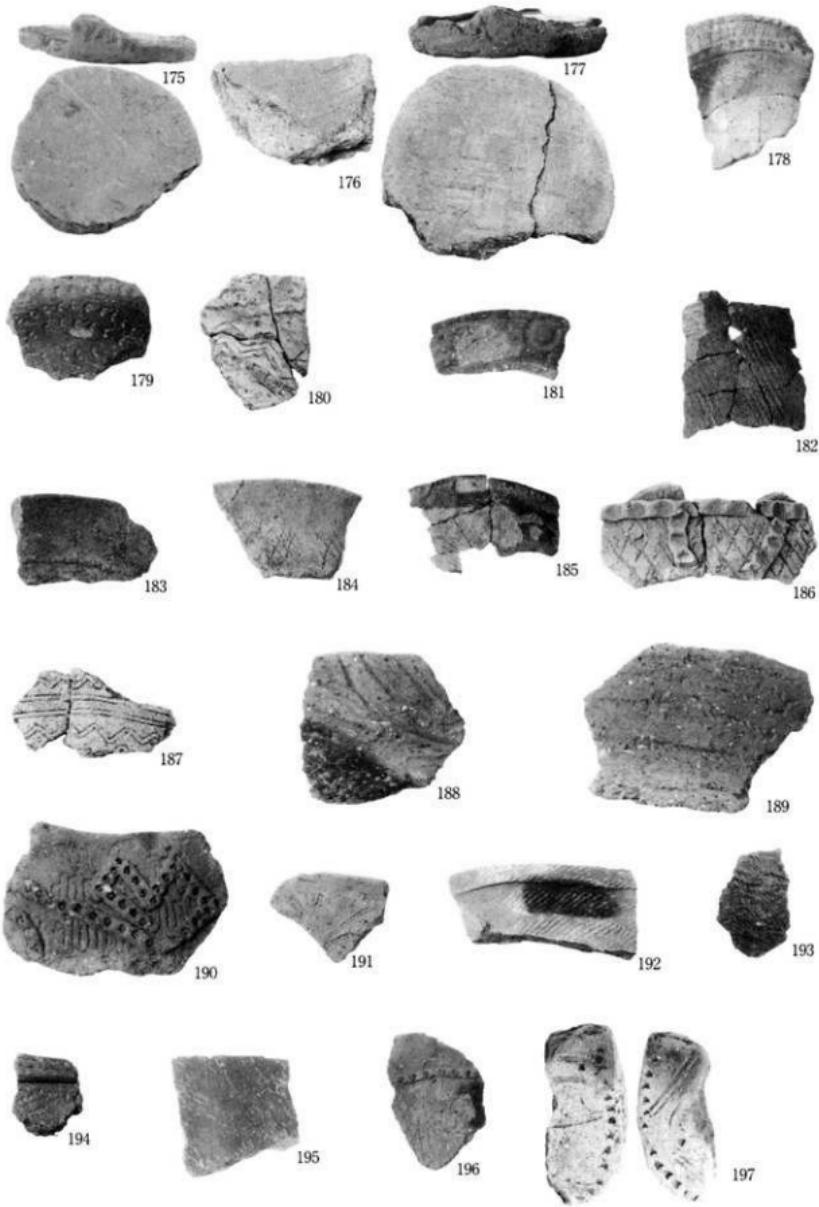
写真図版 9 発掘調査出土遺物(6)

⊕121~126・147~149・152はS=1/6  
他のS=1/3



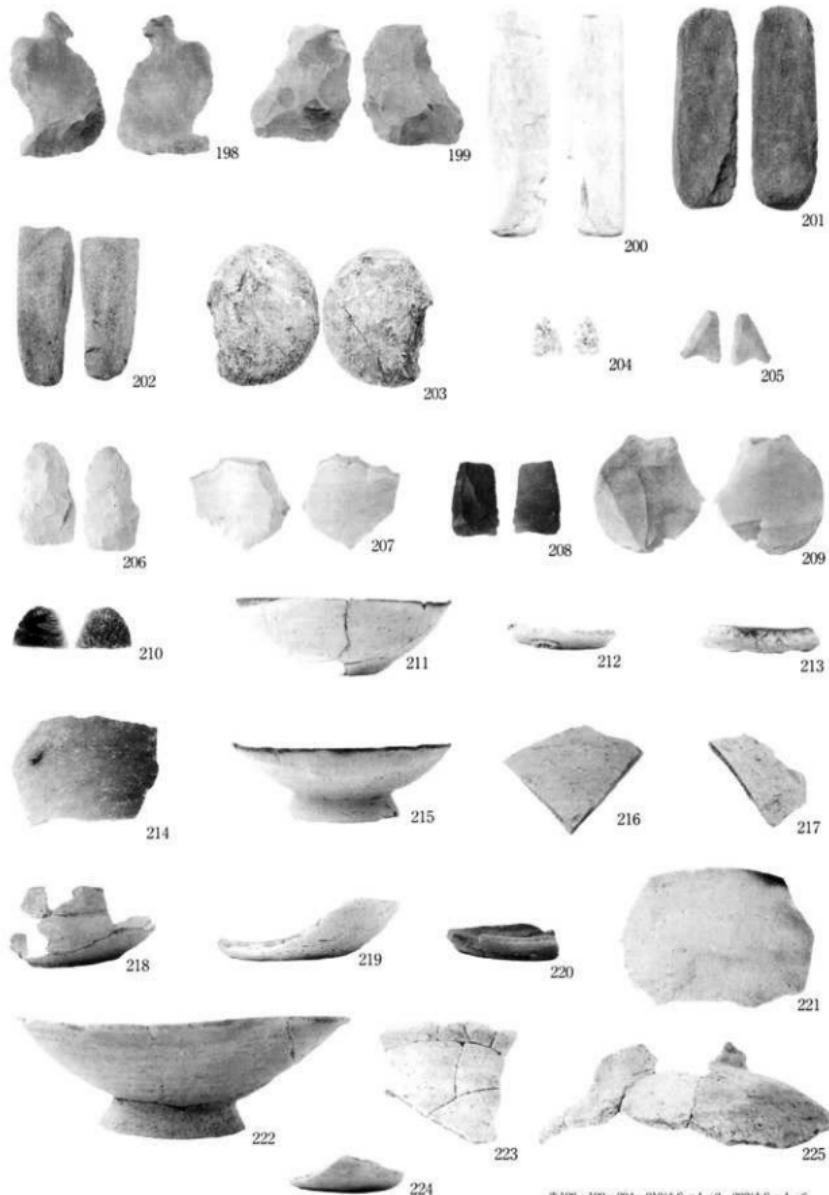
写真図版10 発掘調査出土遺物(7)

中155・174はS=1/6、地121/3



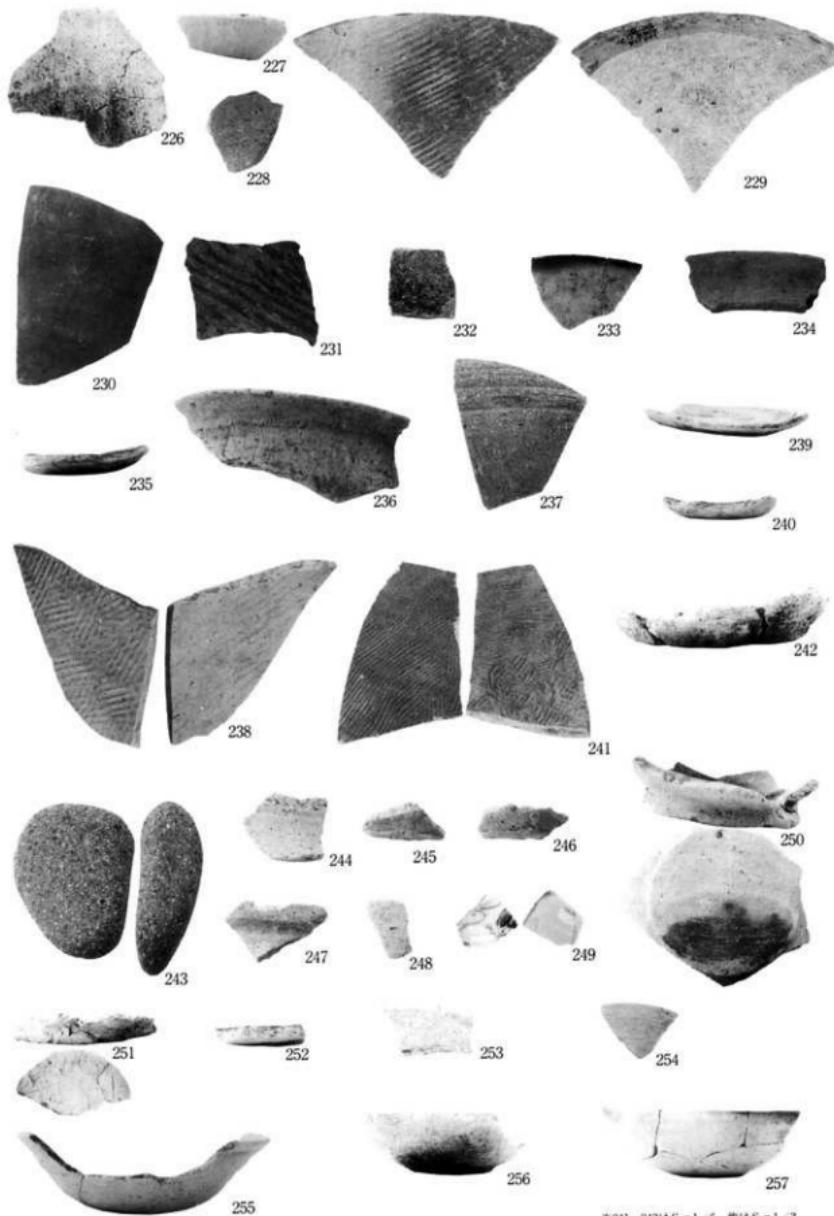
半182・185±S=1/6. 地11/3

写真図版11 発掘調査出土遺物(8)



写真図版12 発掘調査出土遺物(9)

歩198・199・204～210はS=1/2、203はS=1/3



写真図版13 発掘調査出土遺物⑩

\*241・243はS=1/6, 他のS=1/3



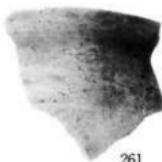
258



259



260



261



262



263

※ S = 1 / 3

写真図版14 発掘調査出土遺物(1)



264



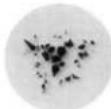
265



266



267



268



269



270



271



272



273



274



275



276



277



278



279



280



281



282



283



284



285



286



287



288



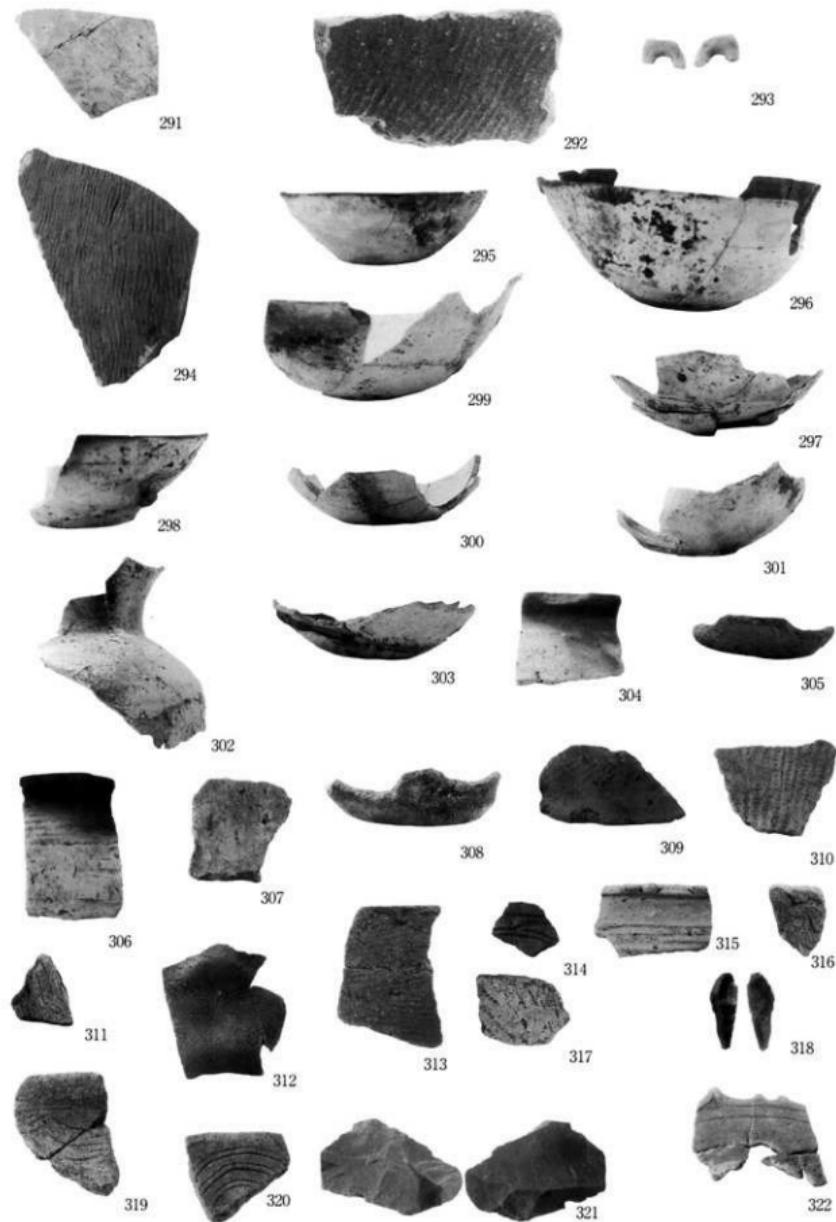
289



290

※267・268はS=1/2, 271はS=1/5  
他のはS=1/3

写真図版15 試掘調査出土遺物(1)



写真図版16 試掘調査出土遺物(2)



323



324



325



326



327



328



329



330



331



332

333

※ S = 1 / 3

写真図版17 試掘調査出土遺物(3)

---

岩手県文化財調査報告書第132集  
岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成21年度）

発行日 平成23年3月28日

発 行 岩手県教育委員会

岩手県盛岡市内丸10番1号

編 集 岩手県教育委員会生涯学習文化課

印 刷 株式会社 富士屋印刷所

岩手県盛岡市羽場13地割30番10

---